

科目名	フレッシュセミナー(Fresh Seminar)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>本科目は通信教育課程の1年生を対象に配置された導入科目です。通信教育における学修の基本となるレポート作成について、基礎的な知識と技術を身につけることをねらいとします。到達目標は、本科目の受講後、レポート作成に抵抗なく取り組むことができるようになることです。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています(https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポートとは何か 2. レポートに必要なルール・体裁について 3. レポートを書くための技術について 4. レポート作成の練習
授業内容のレベル、 関連科目	通信教育課程の1年生で、はじめてレポート作成に取り組む学生や、レポート作成に不安を感じる学生を対象にしています。2年次以降でも履修可能です。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストとテキストでレポート作成の基本を理解してください(サブテキスト記載の「サブテキストの使い方」を参照してください)。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、各科目のレポート作成に取り組んでください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<p>河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第4版, 慶応義塾大学出版会, 2018, ISBN:978-4-7664-2527-7.</p> <p>※ 本学図書館(MLC)が契約している「Maruzen eBook Library」から電子書籍版を利用可能です。</p>
参考書、その他教材	<p>サブテキストのほか、以下の参考文献があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成のトレーニング』改訂版, 実教出版, 2015, ISBN:978-4-407-33614-6. ・ 学習技術研究会編『知へのステップ』第5版, くろしお出版, 2019, ISBN: 978-4-87424-789-1.
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 50%、レポート 50%)</p> <p>試験は、テキストやサブテキストの理解度を確認するため、簡単な添削問題と要約問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<p>第1回課題では、manabaの科目コースに添付の課題・解答用紙を使用します。文章の添削問題や構成作成問題、文献検索問題、出典の記し方を解答します。</p> <p>第2回課題では、第1回課題で学んだことを活かし、簡単なレポート作成の練習を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サブテキストの使い方 2. レポートとは何か 3. 通信教育課程におけるレポートとは 4. テキスト読解の方法 ① 課題の趣旨の把握(要約型と意見型) 5. テキスト読解の方法 ② テキストの理解(要点の把握) 6. テキスト読解の方法 ③ テキストの理解(批評的読解) 7. テキスト読解の方法 ④ 文献や資料の集め方 8. レポート作成のルールと方法 ① 文章の構成 9. レポート作成のルールと方法 ② 表現について 10. レポート作成の練習 ① 11. レポート作成のルールと方法 ③ 引用について 12. レポート作成のルールと方法 ④ 参考文献について 13. レポート作成の練習 ② 14. レポート提出の前に 15. レポートチェックリスト

科目名	就職支援	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	岩崎 徳子	授業形態	スクーリング(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>本授業では、就職活動を自律的に進めるために必要な知識の習得と、学んだ知識を用いた実践演習を中心に授業を進める。「よいキャリア」は人それぞれ異なるものであるため、本授業で学ぶ内容についても一律に価値があるわけではない。そのため、実際に就職活動を進めていくうえで必要な知識やスキルの習得のほか、演習を通して、「働くこと」や「社会と関わること」に今後どのように向き合うのか、自分自身の指針や課題を発見することも到達目標の一つである。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分自身のこれまでの経験を振り返り、現在また今後の職業人生において価値をおいているものや挑戦したいことについて、文字や対面で説明できる。 2. 業界や企業、職種について情報を収集し、自らの興味関心の方向と照らし合わせて志望する業界・企業・職種などを絞ることができる。 3. 就職活動を進めるための計画を立てることができる。 <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③④</p>
学修内容	<p>就職活動を進めるうえで、必要なことは主に以下の4つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の強みや興味関心の方向性を知ること 2. 社会や産業、企業がどのように動いているか知ること 3. 上記1.2をもとに志望する企業を決めること 4. 自分自身のついでにの事柄や自分の意見を、文字や対面で効果的に伝えること <p>本授業では、自己分析、業界・企業研究、履歴書・エントリーシートの作成、面接・グループディスカッションの演習を行い、実践的に学修する。</p> <p>日本では新卒採用と中途採用で選考の様式が一部異なるため、受講者に合った授業内容を行うため、就業経験を含めたこれまでの経歴に関する事前アンケートを実施する。</p> <p>履修登録締切後、本授業のmanabaコースが登録されたら速やかに事前アンケートに回答すること。 なお、授業資料の配布、課題の提出は主にmanabaを使用する。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>社会の状況によって就職活動で取り組むべきことは変化するため、卒業予定時期の見通しがたってから受講することを推奨する。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>◎予習 初回授業で配布する就職ガイドブック熟読しておくこと。(詳細は初回授業で説明します。)</p> <p>◎復習 授業中に各課題の説明と演習の時間をとっているが、その時間だけでは完成しないので、必ず授業後に完成するまで取り組み、提出すること。 授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<p>就職支援室作成の「就職ガイドブック」を使用する</p>
参考書、その他教材	<p>授業ごとに課題に関連する教材・資料を配布または提示する。 その他、新聞やインターネットを活用し、社会や企業の状況について積極的に情報収集することを推奨する。</p>
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題レポート 15点×5(①自己分析シート、②業界研究シート、③企業研究シート、④練習用履歴書、⑤就職活動計画書) 2. 毎回の授業の振り返りショートレポート 1点×15回 3. 授業中の取り組み 10点
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション(授業の進め方、評価について)、就職活動の流れ 第2回 就職支援室の使い方 第3回 自己分析Ⅰ(これまでの自分の活動を振り返る) 第4回 自己分析Ⅱ(自分の人生の価値観・仕事の価値観を知る) 第5回 グループディスカッション 第6回 業界・企業研究Ⅰ(業界とは何か?) 第7回 業界・企業研究Ⅱ(業界研究の実践) 第8回 業界・企業研究Ⅲ(企業研究の実践) 第9回 履歴書・エントリーシートの書き方 第10回 履歴書・エントリーシートの作成 第11回 適性検査の種類と対策 第12回 履歴書ブラッシュアップ 第13回 面接準備 第14回 模擬面接 第15回 就職活動計画の立案 <p>※ 受講者人数や属性(新卒・既卒)などによって、取り上げる内容が前後する可能性があります。予めご了承ください。</p>

科目名	ビジネス英語 I (Business English I)	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	栗山 俊久	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>文法を中心に積上げてきた高校までの英語知識を利用し、実際に英語を使うことを、海外とビジネスを行う場合を想定して学びます。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>ビジネスの場面に対応したダイアログを用い、実際のビジネスで大きな役割を果たしている電話や直接対面での会話、そして E メールについて学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>高校までの英語力があることが最低条件です。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>・事前学習 課題に取り組む前に、テキスト内の解らない単語について、予め辞書で調べておいてください。 (それぞれのページ下の余白に、単語欄を自分で作成する)</p> <p>・事後学修 テキストの内容が辞書なしで理解でき、E メール文をスラスラ音読できること、会話文を、音声を聞いて書くことができるよう取り組んでください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<p>E メール&英会話コミュニケーション:就職編 Working Abroad : Learning to Communicate via Emails & Telephone Conversations ISBN: 978-4-88198-706-3</p>
参考書、その他教材	<p>参考書は特にあげませんが、常日頃英語にできるだけ多く接するよう、ラジオやテレビの英語会話の講座等も利用して下さい。聞き流すだけでも構いません。毎日英語を聞くことが大切です。</p>
成績評価方法・基準	<p>科目習得試験 60% レポート課題 40%</p>
授業の形式・計画	<p>Unit 1 Takuya's Job Hunt Unit 2 Asking a Favor Unit 3 Decision Time Unit 4 A Lucky Break Unit 5 Fun in the Sun Unit 6 Welcome to the Land of the Rising Sun! Unit 7 Bottoms Up! Unit 8 The World's Most Comfortable City Unit 9 Touching Base Unit10 The Lion City Unit11 Heading Down Under Unit12 Dreams Come True Unit13 An Unexpected Invitation Unit14 The Sweet, Spicy, and Sour Wonderland Unit15 Back to a Good Old City</p> <p>各回それぞれ E メール2つ、会話2つから構成されています。 会話については全体を通じて電話と対面のいずれかが含まれます。</p>

科目名	ビジネス英語Ⅱ (Business English Ⅱ)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	村山 真実	年次・単位	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>ビジネス英会話やメールの読み書き等をクリアするには、基礎的な英語を理解することが第1歩です。</p> <p>本授業では、ビジネス英語の土台となる基本的な語彙や語法を確認し、平易な言葉で話す手法を身につけることができます。</p> <p>丁寧な表現を覚え、日常やビジネスにおける、人との交流に必要な英語力の格調を上げていきます。</p>
学修内容	<p>英語と日本語の違いは、根本的なところにネイティブと日本人の価値感の違いが隠れています。</p> <p>そこを理解し、授業の前半は、英語の基本を確認します。</p> <p>授業の後半は、ロサンゼルスに暮らす大学生との海外文化に触れながら、リスニング、スピーキング、ライティングを中心に効果的に学修します。</p>
授業内容のレベル 関連科目	<p>TOEIC 初級レベル</p> <p>自身の知識を活用しながら英語の基礎的なルールを理解します。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>講義スタートまでに、教材に触れヒアリングし自身で学修しておいてください。</p> <p>講義後は授業で使用した資料とテキストを振り返り、英語力の深堀を行って下さい。</p>
使用テキスト (教科書)	<p>We Love L.A.! ISBN978-4-7647-4049-5</p> <p>著者:Robert Hickling 臼倉美里 発行所:金星堂 定価:2,500円税別</p>
参考書、その他教材	<p>ビジネス英語で必要なフレーズ等、授業で紹介します。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点(授業への参加意欲・態度・確認テスト等)50%、理解度テスト50%とし総合して評価します。</p>
授業の形式・計画	<p>第1回 オリエンテーション 基本の確認 ①</p> <p>第2回 基本の確認 ②</p> <p>第3回 基本の確認 ③</p> <p>第4回 基本の確認 ④</p> <p>第5回 基本の確認 ⑤</p> <p>第6回 We Love L.A.! ①</p> <p>第7回 We Love L.A.! ②</p> <p>第8回 We Love L.A.! ③</p> <p>第9回 We Love L.A.! ④</p> <p>第10回 We Love L.A.! ⑤</p> <p>第11回 We Love L.A.! ⑥</p> <p>第12回 We Love L.A.! ⑦</p> <p>第13回 We Love L.A.! ⑧</p> <p>第14回 We Love L.A.! ⑨</p> <p>第15回 まとめ 理解度テスト</p> <p>授業計画の内容、順番等は変更になることがあります。</p> <p>重要な基本を総復習します。 毎回、確認テストを行いません。</p> <p>テキストのリスニング スピーキング、ライティング</p>

科目名	実用英語 I	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	和久 健司	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>Reading / Listening / Speaking / Writing の4つの技能を身につけます。実際の BBC や CNN で流れるニュース、また英字新聞、雑誌等を理解できる力を養う。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています (https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>英文読むことから始め、文法を理解しながら Listening / Speaking / Writing の演習を行う。テキストの問題演習を通して理解を確認し、幅広いトピックに触れることで、多様な話題に関して英語で発信していくエクササイズを積み、英語で発信できる力を伸ばす。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	実用英語 II
授業外学修 (予習・復習)	<p>テキストに語注は書いてあるが、なお不明な単語に関しては辞書で意味、品詞を確認しておくこと。また、完了した Unit に関して音声を参考にして音読をすること。</p> <p>授業外学修に必要な時間: 60時間</p>
使用テキスト	Develop Four Skills through English News (三修社) 日本英語メディア学会 ISBN 978-4-384-33495-1
参考書、その他教材	ゼロからの TOEIC L&R テスト 600 点全パート講義 (The Japan Times 出版) 和久健司 ISBN 978-4789017480
成績評価方法・基準	レポート課題 60% 科目修得試験 40%
授業の形式・計画	<p>第1章 Japan Post to start test deliveries using drones</p> <p>第2章 Toyosu market reels in 40,000 visitors on first public day</p> <p>第3章 Foreign cooks flocking to Japanese culinary schools amid boom in cuisine's global popularity</p> <p>第4章 Solar-powered Flower Bed Automatically Waters Plants</p> <p>第5章 Facial looks top priority for Japanese in cosmetic surgery</p> <p>第6章 Oita Prefecture temple holding study meetings on Islam to spread understanding</p> <p>第7章 Tiny organism that eats plastic spawns race to tap its secrets</p> <p>第8章 Health care system could collapse if elderly people's contributions not doubled: insurance official</p> <p>第9章 Glue sold over counter cheapest way to cultivate stem cells</p> <p>第10章 Planet-Warming Gases Make Some Food Less Nutritious, Study Says</p> <p>第11章 Therapy dogs giving comfort at dementia cafe in Tochigi</p> <p>第12章 More home appliances for pets hitting store shelves</p> <p>第13章 DISCOVER ANIME / Reverse phenomenon of 'Radiant'</p> <p>第14章 JET Programme Voices / Multicultural symbiosis</p> <p>第15章 まとめ</p>

科目名	実用英語Ⅱ	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	和久 健司	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	Reading / Listening の2つの技能を身につけ実際の、特にビジネスの場でコミュニケーションが取れる力を身につけることを目標とする。具体的には TOEIC L&R テストでスコア 700 を取得することが目的である。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	TOEIC 形式の問題を通して文法、語彙、リスニング、リーディングの力を身につける。実際のテキスト、サブテキストの問題演習を繰り返し、スコア到達に必要な英語力を養成する。また演習問題で得た英語力を発信していける能力を養う。
授業内容のレベル、 関連科目	高校卒業程度の英語力
授業外学修 (予習・復習)	テキストに語注は書いてあるが、なお不明な単語に関しては辞書で意味、品詞を確認しておくこと。 また、完了した Part に関して音声を参考にして音読をすること。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 8 (国際ビジネスコミュニケーション協会) ISBN 978-4906033638
参考書、その他教材	TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版) TEX 加藤 ISBN 978-4023315686 ゼロからの TOEIC L&R テスト 600 点全パート講義 (The Japan Times 出版) 和久健司 ISBN 978-4789017480 ゼロからの TOEIC L&R テスト リーディング講義 (The Japan Times 出版) 和久健司 ISBN 978-4789017947
成績評価方法・基準	授業内試験 40%、小テスト 30%、平常点 30%
授業の形式・計画	第1回 オリエンテーション 第2回 Part1 概要、例題 第3回 Part2 概要、例題 第4回 Part2 演習 第5回 Part3 概要、例題 第6回 Part3 演習 第7回 Part4 概要、例題 第8回 まとめ・テスト 第9回 Part5 概要、例題 第10回 Part 5 演習 第11回 Part6 概要、例題 第12回 Part6 演習 第13回 Part7 概要、例題 第14回 Part7 演習 第15回 まとめ・テスト

科目名	国際コミュニケーション I	年次・単位	1 年次・4 単位
担当者名	和久 健司	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	Reading / Listening の2つの技能を身につけ実際の、特にビジネスの場でコミュニケーションが取れる力を身につけることを目標とする。具体的には TOEIC L&R テストでスコア 600 を取得することが目的である。 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	TOEIC 形式の問題を通して文法、語彙、リスニング、リーディングの力を身につける。実際のテキスト、サブテキストの問題演習を繰り返し、スコア到達に必要な英語力を養成する。
授業内容のレベル、 関連科目	高校卒業程度の英語力
授業外学修 (予習・復習)	テキストに語注は書いてあるが、なお不明な単語に関しては辞書で意味、品詞を確認しておくこと。 また、完了した Unit に関して音声を参考にして音読をすること。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト	ゼロからの TOEIC L&R テスト 600 点全パート講義 (The Japan Times 出版) 和久健司 ISBN 978-4789017480
参考書、その他教材	TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版) TEX 加藤 ISBN 978-4023315686
成績評価方法・基準	レポート課題 60% 科目修得試験 40%
授業の形式・計画	第1回 TOEIC の概要 第2回 Part1 第3回 Part2 概要、例題 第4回 Part2 演習 第5回 Part3 概要、例題 第6回 Part3 演習 第7回 Part4 概要、例題 第8回 Part4 演習 第9回 Part5 概要、例題 第10回 Part 5 演習 第11回 Part6 概要、例題 第12回 Part6 演習 第13回 Part7 概要、例題 第14回 Part7 演習 第15回 まとめ

科目名	国際コミュニケーションⅡ (International Communication Ⅱ)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	大東 真理	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	フランス語の初歩を学修します。フランス語の語彙には、英語の中に似ているものを見つけることができるものも多々あります。ただし、発音や文法は異なりますから、その基礎を学び、身の回りの事柄について表現できるようになることが目標です。 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：②
学修内容	この科目では、旅の途中で実際に出会う場面をとりあげ、それぞれの場面で必要な表現や単語を学びます。そのための教材として、フランス語の基本を身につけられるよう工夫された教科書を用います。
授業内容のレベル、 関連科目	初めてフランス語を学ぶ履修者が対象です。
授業外学修 (予習・復習)	教科書にはページ毎にトラック番号が示されています。フランス語の発音をよく聞いて、少しでも音に慣れるよう、自分でも発音しながら学修を進めてください。試験後にもう一度、教科書の練習問題で、覚えた内容を確認しましょう。 授業外学修に必要な時間：120時間
使用テキスト	『やさしく学ぶ旅のフランス語 四訂版』（中村敦子）第三書房 ISBN:978-4808628086 ※第三訂版でも可
参考書、その他教材	仏和辞典（初学者用のもの）
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	1 アルファベ 2 月の名、数詞、など 3 Nous visitons Paris ensemble. 4 名詞の性、名詞の数、定冠詞 5 -er 規則動詞、疑問文(1) 6 Vous avez une chambre? 7 不定冠詞、不規則動詞の現在形(1) 8 形容詞の変化と一致、疑問文(2) 9 Où est le change? 10 所有形容詞(1)、指示形容詞 11 -ir 規則動詞、不規則動詞の現在形(2) 12 Pour aller au Louvre, s' il vous plaît? 13 不規則動詞の現在形(3) 14 否定文 15 まとめ(1) 16 Vous réglez comment? 17 人称代名詞(1)、近接過去 18 関係代名詞(1)、形容詞の比較級 19 不規則動詞の現在形(4) 20 Dépêchez-vous! 21 命令文 22 代名動詞、近接未来 23 関係代名詞(2) 24 不規則動詞の現在形(5) 25 Vous avez choisi? 26 複合過去(1)、部分冠詞 27 疑問代名詞、人称代名詞(2) 28 Nous sommes montés à la tour Eiffel. 29 複合過去(2)、所有形容詞(2) 30 まとめ(2)

科目名	国際コミュニケーションⅢ (International Communication III)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	山地 良造	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>この科目では、基礎的なドイツ語の学習を通して、ドイツ語に親しむことを目的とする。また、ドイツ語の学習が、ドイツ文化という異文化を理解する一助となることも目指したい。語学上の目標としては基本的なドイツ文法の習得を挙げたい。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	ドイツ語の学習の折々に英文法との比較対照を心掛けると、独文法の理解が早まる。
授業内容のレベル、 関連科目	科目のレベルは、高すぎず低すぎずを心掛けるが、しっかり教科書とサブテキストを併用していけば、理解度もおのずと高まるはずである。関連科目は「実用英語Ⅰ」「実用英語Ⅱ」
授業外学習 (予習・復習)	<p>事前学習:教科書を精読し、練習問題を解いてみること。</p> <p>事後学習:NHKのドイツ語講座(テレビ・ラジオ)を視聴するとドイツ語力が高まる。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	『ドイツ語ルネサンス第3版』(本郷健治他著)、三修社、ISBN:978-4-384-12273-2
参考書、その他教材	本科目の『サブテキスト』、独和辞典(3000～4000円クラスの、和独付きのもの)
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>以下の文法事項を教科書およびサブテキストに従って学んでいく</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・動詞の現在人称変化 2・名詞と冠詞 3・人称代名詞、冠詞類 4・定形の位置 5・前置詞 6・話法の助動詞 7・動詞の三基本形 8・現在完了形 9・分離動詞 10・形容詞 11・再帰動詞、esの用法 12・関係代名詞 13・受動 14・接続法 15・分詞、zu不定詞

科目名	国際コミュニケーションⅣ(International Communication Ⅳ)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	中村 昌彦	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>・現代中国語の基礎を学び以下の具体的内容を習得することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中国語の音節と発音方法(ピンイン)を理解することができる。さらに中国語音節表のすべてのピンインを発音することができ、また声調についても理解をしたうえで、符号を見て正しく発音できるようになる。また基本漢字を見るだけでその中国語音を発音できるようになる。 2 基本文法を理解できる。体言述語文、形容詞述語文を理解し、簡単な作文ができるようになる。また、数字に関する表現にも慣れ、文中で使用する際の規則を理解することができる。 3 現代中国の諸事情について理解する。 <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>中国語初歩の学習であり、文字による練習を中心とする。</p> <p>この講座では、学生が、中国において普通話と呼ばれる共通語の基礎を理解しながらその習得を目指していく。漢字文化を共有する日本人にとって、未履修者が中国語の漢字を見て理解することは可能であり、この点では入門が他の言語より容易であるともいえるだろう。この利点を生かしつつ、さらに音としての言語の学習にも努力してほしい。日本語に慣れた耳は、他の言語を聞きとる能力が低い。「多聴多説」(多く聞き、多く話す)という基本練習を繰り返しながらさらに中国語の能力を高めていく。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	中国語の入門。音韻体系をはじめとした基礎の中国語を学ぶ。はじめて中国語を学ぶ者、すでに学んだことがある者を対象にする。
授業外学習 (予習・復習)	<p>予習: 毎回のテキストの読み込み、新出単語の確認。一年を通して発音の基礎を理解し、練習をすることが重要であり、付属のCDを頻繁に利用してほしい。またラジオを始めいろいろな場で中国語に触れてほしい。</p> <p>復習: テキストの読み込み、文法事項の確認。レポート課題にて指導された内容については何度も練習をして上達するよう努力すること。インターネットを始めいろいろな世界の中国語に関心をもってほしい。</p> <p>レポート課題はテキストの問題文も解答と一緒に書くこと。授業外学修に必要な時間: 120 時間</p>
使用テキスト	『中国 ひと・くに・ことば』守屋宏則(朝日出版)ISBN:978-4255450452
参考書、その他教材	<p>『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂(同学社)ISBN:978-4810200348</p> <p>『はじめての中国語学習辞典』相原茂(朝日出版社)ISBN:9784255001135</p>
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>第1回 発音基礎 声調 母音 子音 鼻母音 一年を通して何度も繰り返し練習をする。</p> <p>第2回 発音基礎復習 第一課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第3回 発音基礎復習 第一課 課文の理解と聞き取り練習(コラムの要約「中国映画祭の楽しみ」)</p> <p>第4回 発音基礎復習 第二課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第5回 発音基礎復習 第二課 課文の理解と聞き取り練習</p> <p>第6回 発音基礎復習 第三課 語句の説明、文法事項を理解する。(コラムの要約「中国史と長江」)</p> <p>第7回 発音基礎復習 第三課 課文の理解と聞き取り練習(レポート課題作成)</p> <p>第8回 発音基礎復習 第四課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第9回 発音基礎復習 第四課 課文の理解と聞き取り練習(コラムの要約「中国の少数民族」)</p> <p>第10回 発音基礎復習 第五課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第11回 発音基礎復習 第五課 課文の理解と聞き取り練習</p> <p>第12回 発音基礎復習 第六課 語句の説明、文法事項を理解する。(コラムの要約「改革・開放の中国」)</p> <p>第13回 発音基礎復習 第六課 課文の理解と聞き取り練習(レポート課題作成)</p> <p>第14回 発音基礎復習 第七課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第15回 発音基礎復習 第七課 課文の理解と聞き取り練習(コラムの要約「中国の概要」)</p> <p>第16回 発音基礎復習 第八課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第17回 発音基礎復習 第八課 課文の理解と聞き取り練習</p> <p>第18回 発音基礎復習 第九課 語句の説明、文法事項を理解する。(コラムの要約「第二外国語は中国語です」)</p> <p>第19回 発音基礎復習 第九課 課文の理解と聞き取り練習(レポート課題作成)</p> <p>第20回 発音基礎復習 第十課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第21回 発音基礎復習 第十課 課文の理解と聞き取り練習(コラムの要約「庶民の暮らし」)</p> <p>第22回 発音基礎復習 第十一課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第23回 発音基礎復習 第十一課 課文の理解と聞き取り練習</p> <p>第24回 発音基礎復習 第十二課 語句の説明、文法事項を理解する。(コラムの要約「北京のおすすめレストラン」)</p> <p>第25回 発音基礎復習 第十二課 課文の理解と聞き取り練習(レポート課題作成)</p> <p>第26回 発音基礎復習 第十三課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第27回 発音基礎復習 第十三課 課文の理解と聞き取り練習</p> <p>第28回 発音基礎復習 第十四課 語句の説明、文法事項を理解する。</p> <p>第29回 発音基礎復習 第十四課 課文の理解と聞き取り練習</p> <p>第30回 まとめ</p>

科目名	コンピュータ演習 I /情報リテラシー演習・DS 概論	年次・単位	1 年次・4 単位
担当者名	今中 厚志・高浦 一	授業形態	スクーリング科目(E)

<p>授業のねらい 及び到達目標</p>	<p>【授業のねらい】 現代の情報化社会に生きる我々にとってコンピュータや通信機器は必須の道具となっており、これらを使いこなす能力は我々現代人に求められる基本的なスキルといえる。これらは単に個人が文書作成や数値計算をするための道具ではなく、ネットワークを介して人間同士がコミュニケーションを行うための重要な道具ともなっている。また、様々な分野において、人々の行動データ等の膨大なデータや人工知能 (Artificial Intelligence: AI) を活用したりすることが増えてきた。このような状況をふまえ、本授業では文書作成ソフトウェア Word (以下「Word」と記す)、表計算ソフトウェア Excel (以下「Excel」と記す)、プレゼンテーション資料作成ツール PowerPoint (以下「PowerPoint」と記す) の操作方法や基本的な機能を学ぶと同時に、学内 LAN やインターネットを利用する過程で、そのネットワーク環境を効果的、安全、適正に使用するための知識や技術を習得する。また、データサイエンスや AI に関するリテラシーレベルの知識を習得し、これらの適切な使い方を修得する。さらに、将来取り組む課題の解決に必要な情報の探索・収集、分析・整理、アウトプット(レポート、プレゼンテーション等)といった一連の情報利活用能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 [教科書 1] の Windows 11・Word・Excel・PowerPoint の各 Section にある「練習」レベルの問題ができること。 [教科書 1] の Section5「セキュリティと情報モラル」の内容を理解し、適切に行動できること。 [教科書 2] の第1章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」・第3章「心得データ・AI 利活用における留意事項」の内容を理解し、データサイエンス・AI の現代社会における役割や留意事項を説明できること。 [教科書 2] の第2章「基礎 データリテラシー」の内容を理解し、データを取り扱い、読み、説明することができること。</p>
<p>学修内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業では、情報リテラシーに関する内容と、数理・データサイエンス・AI に関する内容(以下「数理・DS・AI」)について、以下の通り学修する。 2. [情報リテラシー] オペレーティングシステムの基本操作、タイピングや日本語入力方法のマスターを前提として、Microsoft365(もしくは Office2019 または Office2021)に含まれる Word、Excel、PowerPoint 等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。 3. [情報リテラシー] 教室その他における学内 LAN の利用方法や、WWW、E-Mail 等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法について学ぶ。 4. [情報リテラシー] 情報セキュリティ(ウイルス対策、パスワード管理、暗号化、SSL 等)、知的所有権(特にインターネット上で入手・参照できる Web サイトやオンラインジャーナル等の電子情報を扱う場合の著作権法上の留意点)、個人情報の保護、ネチケット、SNS 等の安全かつ適切な利用方法等について学び、コンピュータリテラシー・情報リテラシーを総合的に向上させていく。 5. [数理・DS・AI] 情報通信技術による社会の変化(ビッグデータ、第4次産業革命、データ駆動型社会等)、活用されているデータの例(人や車の移動データ、監視カメラ等)、DS・AI の技術(機械学習等)や得手不得手、データ・AI 活用の倫理・法的問題(GDPR、ELSI 等)といった数理・DS・AI のリテラシーレベルの知識を学ぶ。 6. [数理・DS・AI] 時系列データ、平均・標準偏差・中央値等の基本統計量、相関、定量データ・定性データ等、Excel を用いてデータを扱う基本的な方法を、実データを用いて学ぶ。 7. [数理・DS・AI] データサイエンス実習では、課題の設定・データ収集・データの分析・プレゼンテーション資料作成という、所謂データサイエンスサイクルの一連の流れを体験する。 8. ※ データ・AI の利活用を学修する際は、クラスの実情に応じ、適宜グループワークやグループディスカッションを行いながら、演習を進める。 9. ※ 本授業の数理・DS・AI に関する内容は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)モデルカリキュラムに準拠している。
<p>授業内容のレベル、関連科目</p>	<p>【授業内容のレベル】 高等学校において教科「情報」を履修していることを前提としているが、習熟度については個人差もあると考えられる。よって、入門的・基礎的な内容から始め、次第に高度な内容へと、十分に時間をかけ段階を追って授業を進めていく。</p> <p>【関連科目】 本演習を履修した諸君を対象とする選択科目(学科によっては必修科目)の「コンピュータ実践演習」あるいは「コンピュータ演習Ⅱ」がある。</p>

<p>授業外学習 (予習・復習)</p>	<p>事前学習・事後学習については、「授業の形式・計画」の項において、個別に記載のない場合は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習:テキストの学習予定範囲を熟読しておくこと。 ・事後学習:授業の振り返りを行い、時間内に終わらなかった課題を次回の授業までに manaba に提出すること。 <p>授業外学修に必要な時間:30 時間</p>
<p>使用テキスト (教科書)</p>	<p>[教科書 1] 情報リテラシーの内容に関するテキスト 『イチからしっかり学ぶ! Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版, 2022 年 3 月 ISBN:978-4-908434-79-2</p> <p>[教科書 2] 数理・データサイエンス・AI の内容に関するテキスト 『AI データサイエンスリテラシー入門』吉岡・森倉・小林・照屋, 技術評論社, 2022 年 10 月 ISBN:978-4-297-13042-8</p>
<p>参考書,その他教材</p>	<p>第 27 回から第 30 回で行うデータサイエンス実習は、オンライン教材を使用する。 その他、必要に応じて Office 基礎、情報モラル、数理・データサイエンス・AI に関連する教材等を配布・使用する。</p>
<p>成績評価方法・基準</p>	<p>以下を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内に出された課題の提出状況およびその内容 60%(4%×15) ・教室で確認できる習熟度 20%(タイピングスキル、受講態度等) ・授業内試験として実施する以下の 5 回の理解度確認テスト 20%(4%×5) <p>[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう [教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを高めましょう [教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-1 ~ 1-3 [教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-4 ~ 1-6 [教科書 2] 第 3 章「心得 データ・AI 利活用における留意事項」</p>
<p>授業の形式・計画</p>	<p>【第 1 回】 [PC の確認と設定] PC を確認し、必要に応じてインストールや設定を行う。各自の PC を学内 LAN に接続し、ウィルス駆除ソフトや Microsoft Office のインストールや設定を行う。 ・事前学習:シラバスと新入生ガイダンス時に配付された「情報リテラシー演習・DS 概論／初回授業について」を熟読し、忘れ物がないよう準備しておくこと。初回授業の前日までに本科目の履修登録を完了しておくこと。 ・事後学習:時間内に終わらなかった設定やインストールがあれば、次回の授業までに完了しておくこと。</p> <p>【第 2 回】 [授業の内容や進め方のガイダンス] 授業の目的と内容、授業の進め方等をシラバスを用いて説明する。学修支援システム manaba の利用方法や、学内メールの利用方法、教員との連絡手段についても説明する。 [教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう Lesson1 コンピューターウィルスを防ぎましょう [教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-1-1 IoT とビッグデータ ・事前学習:前回の授業で実施した PC やパスワード等の設定内容を忘れないように確認しておくこと。 ・事後学習:時間内に終わらなかった設定や課題を次回の授業までに完了しておくこと。</p> <p>【第 3 回】 [教科書 1] Section1「Windows 11」STEP1 Windows11 Lesson1 パソコンを起動しましょう [教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう Lesson1 コンピューターウィルスを防ぎましょう [教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-1-2 第 4 次産業革命と Society 5.0 / 1-1-3 Society 5.0 が目指す社会</p> <p>【第 4 回】 [教科書 1] Section1「Windows 11」STEP1 Windwos11 Lesson2 エクスプローラーを操作しましょう [教科書 1] NESS を用いたタイピング練習 [教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう Lesson1 コンピューターウィルスを防ぎましょう [教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-1-4 データ駆動型社会 / 1-2-1 様々な種類のデータ</p> <p>【第 5 回】 [教科書 1] Section1「Windows 11」STEP2 ファイルとフォルダーを操作しましょう / 演習全体を通して使用する素材データを各自の PC に展開 [教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう Lesson2 スパイウェアを防ぎましょう [教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-2-2 1 次データ・2 次データ・メタデータ / 1-2-3 構造化データと非構造化データ</p> <p>【第 6 回】</p>

[教科書 1] Section2「Word」STEP1 Word の基礎を学びましょう Lesson1 Word を起動しましょう/Lesson2 タッチタイピングをマスターしましょう

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう Lesson3 不正アクセスを防ぎましょう

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-3-1 データ・AI 活用領域の広がり/1-3-2 様々な活用目的

【第 7 回】

[教科書 1] Section2「Word」STEP1 Word の基礎を学びましょう Lesson3 文章を入力しましょう

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう Lesson3 不正アクセスを防ぎましょう

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-4-1 データ解析の種類/1-4-2 構造化データの可視化

【第 8 回】

[教科書 1] Section2「Word」STEP2 文書を作成しましょう Lesson1 チラシを作成しましょう

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう Lesson3 不正アクセスを防ぎましょう

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-4-3 非構造化データの扱い方

【第 9 回】

[教科書 1] Section2「Word」STEP2 文書を作成しましょう Lesson1 チラシを作成しましょう:練習 7

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう Lesson1 情報社会の問題点を学びましょう

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-4-4 AI(人工知能)/1-5-1 データサイエンスサイクル

【第 10 回】

[教科書 1] Section2「Word」STEP2 文書を作成しましょう Lesson2 レポートに必要な機能を学びましょう

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう Lesson2 著作権について学びましょう

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-5-2 データ・AI 利活用例紹介

【第 11 回】

[教科書 1] Section2「Word」STEP2 文書を作成しましょう Lesson2 レポートに必要な機能を学びましょう:練習 8

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう Lesson2 著作権について学びましょう

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-6-1 データ・AI を活用した最新のビジネスモデル/1-6-2 AI を活用した最新の技術や関連用語

【第 12 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-1 Excel の基本的な操作方法① 2-1-1 ~ 2-1-3

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう(ドリルを用いて復習)

【第 13 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-1 Excel の基本的な操作方法② 2-1-4 ~ 2-1-5

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう(ドリルを用いて復習)

【第 14 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-2 時系列データの可視化

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 セキュリティを高めましょう(理解度確認テスト)

【第 15 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-3 平均の算出とその可視化

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう(ドリルを用いて復習)

【第 16 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-4 標準偏差の算出とその可視化

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP1 情報モラルを学びましょう(ドリルを用いて復習)

【第 17 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-5 大量のデータを扱う方法① 2-5-1 ~ 2-5-4

[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう(理解度確認テスト)

【第 18 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-5 大量のデータを扱う方法② 2-5-5

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-1 ~ 1-3(ドリルを用いて復習)

【第 19 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-6 基本統計量の算出と箱ひげ図

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-1 ~ 1-3(ドリルを用いて復習)

【第 20 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-7 度数分布表とヒストグラムの作成

[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-1 ~ 1-3(理解度確認テスト)

【第 21 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-8 散布図の作成と相関係数の算出
[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-4 ~ 1-6(ドリルを用いて復習)

【第 22 回】

[教科書 2] 第 2 章「基礎 データリテラシー」2-9 定性データの扱い方とクロス集計
[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-4 ~ 1-6(ドリルを用いて復習)

【第 23 回】

[教科書 1] Section3「Excel」Excel の印刷、計算、数学関数、if 関数、円・複合グラフ
[データサイエンス実習] 課題の設定・実データの収集
[教科書 2] 第 1 章「導入 社会におけるデータ・AI 利活用」1-4 ~ 1-6(理解度確認テスト)

【第 24 回】

[教科書 1] Section4「PowerPoint」STEP1 PowerPoint の基礎を学びましょう／STEP2 スライドを作成しましょう Lesson1 スライドを作成しましょう(1)~(9)
[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう Lesson3 個人情報の保護について学びましょう
[教科書 2] 第 3 章「心得 データ・AI 利活用における留意事項」3-1-1 倫理的・法的・社会的課題／3-1-2 自身に関するデータのコントロール

【第 25 回】

[教科書 1] Section4「PowerPoint」STEP2 スライドを作成しましょう Lesson1 スライドを作成しましょう(10)~(12)／練習 22
[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう Lesson4 ルールとマナーを学びましょう
[教科書 2] 第 3 章「心得 データ・AI 利活用における留意事項」3-1-3 データ倫理／3-1-4 人間中心の AI 社会原則

【第 26 回】

[教科書 1] Section4「PowerPoint」STEP2 スライドを作成しましょう Lesson2 効果を付けましょう／練習 23
[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう Lesson4 ルールとマナーを学びましょう
[教科書 2] 第 3 章「心得 データ・AI 利活用における留意事項」3-1-5 データ・AI 活用における負の事例／3-2-1 データを守るための原則

【第 27 回】

[教科書 1] Section4「PowerPoint」STEP3 発表しましょう／練習 24
[教科書 1] Section5「セキュリティと情報モラル」STEP2 情報モラルを学びましょう Lesson5 ネットコミュニケーションを学びましょう
[教科書 2] 第 3 章「心得 データ・AI 利活用における留意事項」3-2-2 データを守るための方法／3-2-3 セキュリティ事故の事例

【第 28 回】

[データサイエンス実習] データの加工と解析・推論
[教科書 2] 第 3 章「心得 データ・AI 利活用における留意事項」(ドリルを用いて復習)
・事前学習:[教科書 2]を参考に第 27 回で収集したデータの特徴を考えること。
・事後学習:時間内に終わらなかった課題を次回の授業までに manaba に提出すること。

【第 29 回】

[データサイエンス実習] 実データの分析結果のプレゼンテーション資料作成(Word)
[教科書 2] 第 3 章「心得 データ・AI 利活用における留意事項」(理解度確認テスト)
・事前学習:[教科書 1] Section2 Step2 Lesson2 を参考にレポートの書き方を復習しておくこと。
・事後学習:時間内に終わらなかった課題を次回の授業までに manaba に提出すること。

【第 30 回】

[データサイエンス実習] 実データの分析結果のプレゼンテーション資料作成(PowerPoint)
[まとめ] 授業全体の振り返りを行うとともに、授業内容についてのアンケートを実施する。
・事前学習:[教科書 1] Section4 を参考に PowerPoint の作成方法を復習しておくこと。
・事後学習:時間内に終わらなかった課題を manaba に提出すること。

注 1. この授業はスクーリング期間に実施する授業である。

注 2. 事前学習・事後学習については、個別に記載のない場合は以下のとおりである。

・事前学習:テキストの学習予定範囲を熟読しておくこと。

・事後学習:授業の振り返りを行い、時間内に終わらなかった課題を manaba に提出すること。

注 3. 授業内試験の予定

上記の通り、第 14・17・20・23・29 回の授業において、授業内に理解度確認テストを実施する予定である。教科書を熟読し、manaba のドリルを行って対策をしておくこと。

注 4. 本授業の DS・AI 関連部分の内容は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)モデルカリキュラムに準拠している。

科目名	コンピュータ演習Ⅱ/コンピュータ実践演習	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	米澤 直記・朴 南圭・小林 領・森倉 悠介	授業形態	スクーリング科目(E)

授業のねらい 及び到達目標	アプリケーションプログラムとして Microsoft Office シリーズの Excel と Access を用いつつ、主としてデータベースに関わる知識・技術の学び、習得を目標とする。単にソフトウェアの使い方を学ぶというのではなく、データベースとは何かという本質的な部分をきちんと理解し、そのデータベースを扱うためにそれぞれのソフトウェアではどのような操作を行うのか、という観点から学修する。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	[パート1]では、Microsoft Excel のもつデータベース処理に関わる様々な関数やマクロ機能を中心に学ぶ。[パート2]では、パーソナルコンピュータの世界でデータベース処理ソフトウェアのデファクトスタンダードとなっている Microsoft Access についての基本操作を学びつつ、データベースの本質についての理解を深める。加えて、VBA を用いた簡単なアプリケーションの作成方法を紹介する。
授業内容のレベル、 関連科目	コンピュータ演習Ⅰ/情報リテラシー演習・DS 概論での Excel の操作や関数をスムーズに利用できることを前提に演習を進める。そのため、Excel の操作や関数をスムーズに利用できない場合は、受講までにコンピュータ演習Ⅰ/情報リテラシー演習・DS 概論の教科書を演習しスムーズに利用できるようにしておくこと。以上を履修条件とする。 関連科目:コンピュータ演習Ⅰ/情報リテラシー演習・DS 概論、プログラミング演習(コンピュータ演習Ⅲ)
授業外学修 (予習・復習)	予習:コンピュータ演習Ⅰ/情報リテラシー演習・DS 概論で学修する程度の基本的な関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA・RANK.EQ・IF・AND・OR 等)、四則演算、グラフ作成等について復習しておくこと。 復習:演習で提出した課題を、短時間でかつ資料等を参照せずに完成させることができるようになるまで何度も行うこと。 授業外学修に必要な時間:120時間
使用テキスト (教科書)	[パート1]「30時間でマスター Excel2021(Windows11対応)」 実教出版企画開発部編、実教出版株式会社、ISBN 978-4-407-35940-4 [パート2]「Access 2021 基礎 セミナーテキスト」 日経 BP 著、株式会社日経 BP、ISBN 978-4-296-05042-0
参考書、その他教材	「学内ネットワーク使用許諾書」(ユーザID・パスワード)を必ず持参すること。 容量が1GB以上のUSBメモリの持参は任意とする。
成績評価方法・基準	課題の提出状況及びその内容 50%、教室で確認できる習熟度 20%、平常点 30%(授業に臨む態度・姿勢)を総合して評価する。
授業の形式・計画	【授業の形式】 各回の授業は、原則として、(1)例題を用いた具体的解説、(2)前項の内容理解を踏まえた応用練習の2部構成で行う。課題の提出や資料等の配付は、Webベースの授業支援サーバ(manaba)を利用する。 【授業の計画】 [パート1] Excel 編 1) イントロダクション 2) 関数の復習(1) 3) 関数の復習(2) 4) 課題作成(1) 5) IF関数とネスト 6) 検索関数 7) 課題作成(2) 8) データの検索と置換並べ替えとフィルター 9) データベース関数 10) 課題作成(3) 11) Webクエリデータの Import と Export CSVファイル 12) 課題作成(4) 13) ピボットテーブル 14) 課題作成(5) 15) 全体まとめ [パート2] Access 編 1) 導入・その他 2) データベースの概念と利用分野 3) Excel から Access への道程 4) Access の基本操作 5) テーブル操作 6) テーブル設計 7) クエリとは 8) クロス集計クエリ 9) リンク/リレーション 10) パラメータクエリ 11) アクションクエリ 12) レポート 13) フォーム 14) Access のマクロ 15) 全体のまとめ

科目名	人間・思想・生活(Human, Thoughts and Life)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	ルソーは『人間不平等起原論』において、人間の不平等を正当化するのは社会体制であるとし、当時の封建社会や絶対王制を批判し、あるべき社会を考案しました。『社会契約論』はこうした「自由かつ平等」の理想社会を志向しています。ルソーが目指した幸福社会はどのようなものか、そしてその実現がなぜ困難なのか、テキストを通じて理解することを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	人間の特徴のひとつは、自分とは何か、自分はなぜ生きているのかを問い続けるところにあります。思想は、その問いへの答えを得るための有効なヒントを与えてくれます。本科目では、ジャン＝ジャック・ルソー(1712－1778)の思想と生活を学びながら、民主主義の源流を考え、現代の世界でまだルソーの理想が実現されていない状況を考えたいと思います。
授業内容のレベル、 関連科目	政治や社会問題に関心があれば、履修に必要な特別な条件はありません。関連科目に「社会思想史」があります。
授業外学修 (予習・復習)	【予習】サブテキストを一読してから、テキストに当たってください。サブテキストにはレポート学修のヒントも記載しています。 【復習】試験前にはサブテキストやレポートの講評を読み直し、参考文献で理解を深めてください。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ルソー(小林善彦・井上幸治訳)『人間不平等起原論・社会契約論』(中公クラシックス)中央公論新社, 2005, ISBN4-12-160079-7. 上記が入手できない場合は、以下の2点を使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> ルソー(本田喜代治・平岡昇訳)『人間不平等起原論』(岩波文庫)岩波書店, 1972, ISBN978-4003362327. ルソー(中山元訳)『社会契約論/ジュネーヴ草稿』(光文社古典新訳文庫)光文社, 2008, ISBN978-4334751678.
参考書、その他教材	サブテキスト内で参考文献をご紹介します。
成績評価方法・基準	レポート及び試験の結果を総合的に評価します。(科目修得試験 50%、レポート 50%) レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストやサブテキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にしてください。 レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記してください(出典を明らかにすることはレポート作成の基本的なルールです)。 試験は、レポート内容の理解度を確認するため、論述問題(選択式)を出題します。
授業の形式・計画	第1章 『人間不平等起原論』を読むために 1. 執筆の経緯 2. ルソーとジュネーブ 3. 序文から前書き 4. 本論第一部を読むために 5. 本論第二部を読むために 6. 「自然状態」について 第2章 『社会契約論』を読むために 7. 執筆の経緯 8. 『社会契約論』の成立 9. 『社会契約論』の論理 —— 「一般意思」の概念 10. 『社会契約論』のアポリア —— 「立法者」の問題 11. 『社会契約論』を読む意味 第3章 ルソーと啓蒙思想 12. ルソーと同時代人たち 13. フランス革命について 14. 啓蒙思想家たち —— モンテスキュー、ヴォルテール、デイドロ 15. まとめ —— ルソーのアクチュアリティ

科目名	人間と宗教 (Human and Religion)	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	朴 南圭	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい及び到達目標	人間にとって「なぜ宗教が必要なのか」を学んでいきたい。特定の宗教を追及するのではなく、無宗教感の強い日本人にとっての宗教概念を深く理解し、諸外国人が信仰する宗教とはいかなるものかを把握することでグローバル化が求められる国際人として相互理解の基盤づくりを目指す。 ※ 授業の概要について、 動画シラバス で解説しています (https://ccampus.org/auth/Login)。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	本講義では、宗教とは何なのか、なぜ宗教を学ぶのかという問いに答えていきたい。人間自らの「いのち」の意味を追求し、自覚することを究極の目的とするものが宗教である。すなわち、多くの先人たちが一人ひとりに賦与された生命の「意義」と「価値」をどう捉えたのかを追及することで、グローバル化した複雑な現代社会に生きる私たちが、自己の確立を図るために学ぶべき大切なものが宗教である。 各宗教の持つ特徴について概括した上で、世界の諸宗教を相対的にいくつかの範疇に分ける試みの中で、まず自然宗教と創唱宗教および一神教と多神教について学び、次に世界宗教の代表的なユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの一神教を取り上げる。 次に身近な仏教を考えてみたい。釈尊の説いた教えは、八万四千の法門といった多くの教えがあるが、仏教の教義を学ぶのではなく、身近な生活の中の仏教の存在を主として考えてみたい。日本の仏教は様々な形で生活(言葉や習慣)の中に浸透しているが、私達は気付かないで過ごしている。特に日本仏教は中国で儒教や道教の影響を強く受けた中国仏教として伝来され、更に日本独自の神道思想や自然宗教と融和して複合的な日本人の宗教観を形成した歴史的背景を踏まえて学びたい。 最後に、現代社会における「日本人にとって宗教とは」という問題を考察したい。日本人は「宗教心の大切さ」は理解しているが、「自分の宗教」を自覚することに稀薄であるケースが多い。特に東日本大震災後、日本人の礼儀正しさや他への思いやりの善行が海外で報道されたが、潜在的には仏教的な利他精神が生かされていると考える。自分さえよければ良いという社会的な風潮(自利・利己)に対して、自分よりも他人や社会への思いやりや社会が利するという精神構造(利他精神)に繋がっている。特定の信仰心を持たない特性はどこから来ているのかという問題を併せて考えてみたい。
授業内容のレベル、関連科目	歴史文化概論、情報文化史、日本史概論、社会倫理、社会思想史
授業外学習(予習・復習)	①日常生活の中での宗教的行為(宗教的施設・文化財への参拝や見学、朝晩の仏壇・神棚への参拝、祭礼への参加等)の真の意味の追求や歴史的経緯を理解するよう習慣づけること。 ②ニュースで報じられる宗教的基盤が原因となる様々な確執について、その根本的な本質を見極める癖を習慣づけること。要は「なぜ」の疑問を持つこと。 授業外学習に必要な時間:120時間
使用テキスト	岸本英夫著『世界の宗教』(原書房)ISBN:9784562090020
参考書、その他教材	サブテキスト「人間と宗教」 ひろさちや著『なぜ人間には宗教が必要なのか』(講談社) 阿満利磨著『日本人はなぜ無宗教なのか』(ちくま新書) 保坂幸博著『日本の自然崇拝、西洋のアミニズム』(新評論) その他の参考書は適宜指示する。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	[Ⅰ] 宗教とは (1)宗教とは何か。宗教と人間について。 (2)「自然宗教と創唱宗教」および「一神教と多神教」の相違 (3)宗教の特質: [Ⅱ] 世界の宗教について (1)一神教:イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の概観、関係性と歴史的背景 (2)仏教:釈迦の生涯と仏教の教義・苦悩と解脱・大乘仏教と上座部仏教の違い [Ⅲ]日本の宗教について (1)自然宗教と神道の関係 (2)日本仏教の特殊性:①インド仏教と中国仏教 ②儒教・道教の影響 ③自然宗教と神道の影響 (3)日本人の宗教観:「日本人はなぜ無宗教だ」と自認するか、その背景 [Ⅳ]宗教の現代的使命

科目名	ボランティア論 (Theory of Volunteer)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	小安 雄久	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>日本でボランティアが大きくクローズアップされることになったのは、1995年の阪神淡路大震災でした。この年は「ボランティア元年」と呼ばれています。その後、ボランティア活動は、福祉や環境をはじめ多くの領域へと広がっていき、2011年の東日本大震災以降、ボランティア活動への関心はさらに高くなり、多様な人々がボランティアとして活動するようになっていきます。</p> <p>かつてはボランティアといえば「奉仕、善行、自己犠牲」などのイメージが強くありました。しかし、ボランティアは単なる「奉仕」なのでしょうか？ ボランティア活動は、ボランティアの受け手と提供者が対等な関係の中で成立し、共に学び合い、影響し合う営みであることを、さまざまな視点から考えることがこの授業の大きなねらいです。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに関する基礎的知識を理解する。 ・ボランティアが個人の生活にもたらすものの意味を理解する。 ・現代社会のさまざまな課題とボランティア活動の意義や役割について理解する。 <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:②④</p>
学修内容	<p>ボランティアの歴史、意義や特性、今日的な役割と今後の課題、またボランティア活動とNPO、市民組織などとの関係など、ボランティアに関する基礎的な知識を学修します。あわせて、ボランティア活動が個人や社会にどのように関係しているのかを、学修者の実践も含めて、さまざまな実践例を通して見ていきたいと思えます。そうした学修をふまえて、学修者が自分自身の生活と結びつけつつ、市民社会の担い手としてのボランティアの可能性を考える機会となればと思えます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目として、社会福祉関連科目、生涯学習論など。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習:教科書やサブテキストをよく読んでからレポート学修を開始すること。 日頃から新聞等でのボランティアに関する記事によく目を通しておくこと。</p> <p>事後学習:教科書およびサブテキストを読み返しておくこと。 レポート課題に取り組むうえで不十分だと思ったところについて、さらに調べるなどの事後学習を怠らないこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>『ボランティア論』(manabaの科目コースにて公開)</p>
参考書、その他教材	<p>基礎から学ぶボランティアの理論と実際 巡 静一・早瀬 昇編著,中央法規出版,1997年, ISBN: 978-4805815298</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>1～3. ボランティア活動の本質と現代的意味 4～6. ボランティアと善性の開発 7～9. 技能と意識を身につけよう 10～11. 実践にむけて 12～13. ボランティアの喜びと生きがい 14～15. ボランティア社会への道と課題</p>

科目名	レクリエーション理論 (Theory of Recreation)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	小安 雄久	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	レクリエーション(Recreation)活動の目的は、自らの人生を豊かにするところにあります。例えば、日々暮らす地域の人々との交流や自分と同じ趣味を持つ人との出会いは、仕事とはまた違った充実感を私たちに与えてくれます。レクリエーション活動は日本語では「余暇活動」と訳されますが、これは決して労働時間以外で実施されるものという意味ではなく、むしろ現代社会ではその後の労働意欲を喚起するために実施される活動、といった理解が進んでいます。そこで、本講義では、基本的なレクリエーションに対する理解を進め、それをどのようにしたら実生活の中に組み入れ役立てることが出来るかについて、具体的な事例を学びながら、理解することを到達目標としています。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	第1章では「レクリエーション」に対する基本的理解を進める学修をします。 第2章では現代社会におけるレクリエーションの必要性について学修します。 第3章では健康とレクリエーションの関係について学修します。 第4章では実際のレクリエーション活動時に必要なスキルについて学修します。 第5章ではレクリエーション活動の企画について学修します。 第6章ではレクリエーションプログラム作成方法について学修します。
授業内容のレベル、 関連科目	レクリエーション理論では、社会学や心理学、そして運動生理学などの知識を総合的に学びます。例えば、レクリエーション活動の社会的意味やその活動に携わるための行動変容に関する知識、そして、安全かつ効果的にレクリエーション活動を実施するための運動処方に関する知識を学びます。
授業外学修 (予習・復習)	(予習)本講義のレポートや科目修得試験に取り組む前に、テキストを熟読しましょう。 (復習)本講義で学んだことを地域社会で実践してみましょう。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト (教科書)	「レクリエーション理論・実技」(manaba の科目コースにて公開)
参考書、その他教材	使用テキスト(本学)の「参考文献」欄に載っている参考書を一読することをお薦めします。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	(1) レクリエーションとは何か (2) レクリエーションとレジャーの違い (3) レクリエーション・フロー (4) 我が国のレクリエーション政策 (5) 現代社会におけるレクリエーションの価値 (6) レクリエーションとヘルスケア (7) ライフスキルとレクリエーション (8) レクリエーション活動の実際 (9) レクリエーション・ボランティア (10)レクリエーション活動に必要なスキル I (11)レクリエーション活動に必要なスキル (12)レクリエーション・イベントの企画 (13)レクリエーション・リーダーの作り方 (14)レクリエーション組織のマネジメント (15)まとめ

科目名	レクリエーション実技 I (Practical Recreation I)	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	小安 雄久	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>1、実践を通してレクリエーションとしてのスポーツがもつ機能を理解し、運動を行うことができる。</p> <p>2、運動を通して体を動かす大切さや喜びを味わうことができる。</p> <p>3、健康の保持増進と体力向上を目的とした生涯スポーツの一環となり今後の生活に役立てることができる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>授業の前半は心身のほぐしや他者との交流を目的としてアイスブレーキングを行う。 後半は試合形式で各種目をそれぞれ進めていく。</p> <p><u>アリーナで実技を行うため、体育館で使用できる上履きと運動のできる服装(ジャージ等)を各自で用意すること。(初日より持参すること)</u></p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>授業は男女混合で実施するが、技能・体力等の差のあるメンバーがともに参加できるように内容やルールなどを工夫しながら進めていくため、参加に体力・技能レベルは問わない。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>(予習)授業で扱うスポーツ種目について基本的なルールを調べておく (復習)学習したスポーツ種目の基本的なルールや技術について振り返り自ら行えるようにする。 授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>授業内にて教員より説明します。</p>
参考書、その他教材	<p>なし</p>
成績評価方法・基準	<p>授業への参加態度の授業点80%と個人技能と試合の中での技術の実技点20%を授業で総合的に評価します。</p>
授業の形式・計画	<p>(1) オリエンテーション、用具を使わないアイスブレーキング (2) 2人組のアイスブレーキング・グループで行うアイスブレーキング (3) 柔らかいボールを使ったアイスブレーキング (4) バレーボール・ソフトバレーボール (5) バレーボール・ソフトバレーボール (6) フライングディスクを使ったアイスブレーキング (7) アルティメット (8) アルティメット (9) ボールを使ったアイスブレーキング (10) バスケットボール (11) バスケットボール (12) 足でボールを扱うアイスブレーキング (13) サッカー・フットサル (14) サッカー・フットサル (15) まとめ</p> <p>履修人数によって内容が変更になることがあります。</p> <p><u>※持病がある場合は、持病について記載された診断書をスクーリング申込時に提出してください。</u></p>

科目名	レクリエーション実技Ⅱ (Practical Recreation II)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	小安 雄久	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>1、実践を通してレクリエーションとしてのスポーツがもつ機能を理解し、運動を行うことができる。</p> <p>2、運動を通して体を動かす大切さや喜びを味わうことができる。</p> <p>3、健康の保持増進と体力向上を目的とした生涯スポーツの一環となり今後の生活に役立てることができる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>授業の前半は心身のほぐしや他者との交流を目的としてアイスブレーキングを行う。</p> <p>後半は試合形式で各種目をそれぞれ進めていく。</p> <p><u>アリーナで実技を行うため、体育館で使用できる上履きと運動のできる服装(ジャージ等)を各自で用意すること。(初日より持参すること)</u></p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>授業は男女混合で実施するが、技能・体力等の差のあるメンバーがともに参加できるように内容やルールなどを工夫しながら進めていくため、参加に体力・技能レベルは問わない。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>(予習)授業で扱うスポーツ種目について基本的なルールを調べておく</p> <p>(復習)学習したスポーツ種目の基本的なルールや技術について振り返り自ら行えるようにする。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>授業内にて教員より説明します。</p>
参考書、その他教材	<p>なし</p>
成績評価方法・基準	<p>授業への参加態度の授業点80%と個人技能と試合の中での技術の実技点20%を授業で総合的に評価します。</p>
授業の形式・計画	<p>(1) オリエンテーション、用具を使わないアイスブレーキング</p> <p>(2) 2人組のアイスブレーキング・グループで行うアイスブレーキング</p> <p>(3) 小さいボールを使ったアイスブレーキング</p> <p>(4) 卓球</p> <p>(5) 卓球</p> <p>(6) ラケットとシャトルを使ったアイスブレーキング</p> <p>(7) バドミントン</p> <p>(8) バドミントン</p> <p>(9) マットや跳び箱を使ったアイスブレーキング</p> <p>(10) マット運動・跳び箱</p> <p>(11) マット運動・跳び箱</p> <p>(12) その他の用具を扱うアイスブレーキング</p> <p>(13) ニュースポーツ</p> <p>(14) ニュースポーツ</p> <p>(15) まとめ</p> <p>履修人数によって内容が変更になることがあります。</p> <p><u>※持病がある場合は、持病について記載された診断書をスクーリング申込時に提出してください。</u></p>

科目名	生涯学習論 (Theory of Lifelong Learning)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	生涯学習や社会教育に関する基本的事項について、根拠法令や各種調査結果などを基に、学習することを通して、「いつ・どこで・何を・どのようにして」学んでいくべきかを理解する。特に社会施設としての図書館における児童サービスの基礎知識と実践的な知識を身に付けることを到達目標とします。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④
学修内容	前半2単位分は生涯学習概論、後半2単位分は児童サービス論となります。 前半:生涯学習の意義、生涯学習の思想、我が国における生涯学習の歩み、生涯学習関連施設とその動向等について理解をはかります。 後半:児童サービスの理念とその歴史、乳幼児、児童及びヤングアダルトの発達と学習における読書の役割について考察し、年齢層別の諸サービス(読み聞かせ・ブックトーク・ストーリーテリング等)や公立図書館と学校図書館との協力・連携の在り方について考察します。
授業内容のレベル、 関連科目	学校経営と学校図書館、図書館制度論、図書・図書館史、情報サービス論や博物館概論・教育制度論などの社会教育施設に関連した科目を学習しておくといよい。
授業外学修 (予習・復習)	事前学習:使用テキストを熟読し、ポイントを押さえてからレポート学修を開始する。 レポート課題 1:①の1~4 レポート課題 2:①の5~8 レポート課題 3:②の1~4 レポート課題 4:②の5~8の範囲をしっかりと読み込んだ上で作成すること。 事後学習:使用テキスト及びサブテキストを読み返しておく。新聞・雑誌などで関連ある文章や記事に注意しておくことより具体的に判断できます。 授業外学修に必要な時間:120時間
使用テキスト (教科書)	①学文社『新訂版 テキスト生涯学習 学びがつむぐ新しい社会』 田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜[著] ISBN:978-4-7620-2492-4 ②日本図書館協会『JLA 図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ 6 児童サービス論』 堀川照代[編著] ISBN:978-4-8204-1315-8
参考書、その他教材	・サブテキスト:小沢周三「生涯学習論」帝京平成大学 2014年3月 ・「児童サービス論」金沢みどり著、学文者、ISBN-13:978-4762024702
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	前半 1 生涯学習とは何か 2 生涯学習の理念と理論 3 生涯学習の内容と方法 4 学校教育と生涯学習 5 社会教育の制度 6 生涯学習支援の動向と課題 7 まちづくりと生涯学習 8 グローバリゼーションと生涯学習 後半 1 児童サービスの意義 2 児童資料の種類と特色 3 児童コレクションの形成と管理 4 児童サービスの諸活動 5 児童サービスの運営 6 学校・学校図書館への支援と連携・協力 7 子どもの読書活動の推進と公共図書館 8 児童サービス担当者のキャリアアップ

科目名	心理学 (Psychology)	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	田代 信久	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>心理学を初めて学ぶ人を対象として、心理学の基礎理論を学び、自分自身の心理や日常の様々な現象を心理学の理論を通して捉えること、またそれらの知識について、社会を見る時に活かせるような視点を持つことを目標とします。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています (https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①</p>
学修内容	<p>知覚、学習、パーソナリティ、発達、社会心理、臨床心理など心理学の様々な領域を広く浅く学んでいきます。</p> <p>心理学的な考えを通して人間の行動や心理的な現象についての理解を深めていきます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>心理学の基礎部分を学びます。</p> <p>関連科目としては「教育相談」「カウンセリング」「臨床心理学」「発達心理学」などがあり、これらを学ぶ</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前:各章の最初に「ねらい」が掲げられており、その部分を念頭に置きながらテキストを熟読して下さい。</p> <p>事後:章末の「コラム」「心理学ミニ実験」や参考文献を参照にして復習を行ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	『ベーシック心理学』二宮克美 et al. 医歯薬出版株式会社 ISBN 978-4263422236
参考書、その他教材	『図説 心理学入門 第2版』斎藤勇 et al.誠信書房 ISBN 978-4414301632
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1)知覚－知覚の成立、知覚の体制化、知覚の様相 2)学習・記憶－学習のプロセス、記憶のメカニズム等 3)動機づけ－動機づけの分類、欲求 4)感情－感情のメカニズム、フラストレーション、ストレス 5)パーソナリティー－パーソナリティーの記述、調べ方、異常と障害 6)知能－知能の構造、知能の測定等 7)思考－思考とは何か、問題解決、創造性 8)発達①－児童期まで 9)発達②－青年期以降 10)人間関係－対人認知、帰属理論等 11)集団－集団の心理、リーダーシップ、社会的影響 12)精神的健康－メンタルヘルス、心理臨床の対象、心理療法 13)カウンセリング－カウンセリングの定義と成り立ち・理論と技法 14)コミュニケーション 15)心理学の歴史と研究法

科目名	カウンセリング (Counseling)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	田代 信久	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	この授業では限られた期間でカウンセリング関連知識やカウンセリング諸理論を学び、スクーリングという利点を生かしたロールプレイやワークを行う事で理論+実践によってカウンセリングの基礎を身に付けることを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	スクーリングの日程の半分を使いカウンセリング関連知識やカウンセリング諸理論を学びます。スクーリングの後半を使ってカウンセリングを行う際の留意点やロールプレイやワーク、ディスカッションなどの体験型学習によって理論に偏重せず、実際のカウンセリングを正しく理解できるような授業を行います。 ※この科目は臨床心理士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。
授業内容のレベル、 関連科目	全くの知識がないという前提で授業を行います。出来れば心理学、発達心理学、臨床心理学の単位を取得しておく事が好ましいが必須ではありません。
授業外学修 (予習・復習)	事前:テキストに目を通しておいて下さい。 事後:授業で行った事を中心に復習を行って下さい。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	『有斐閣アルマ カウンセリング・心理療法の基礎』金沢吉展 et al. 有斐閣 ISBN 978-4641123373
参考書、その他教材	必要に応じて DVD 等を使用
成績評価方法・基準	授業への参加度(ディスカッション、ロールプレイ等)60%、小テスト 40%で評価を行います。
授業の形式・計画	第1回 カウンセリングとはなんだろう? 第2回 カウンセリングの倫理 第3回 カウンセリングを行うために何が必要か? 第4回 カウンセリング・心理療法の理論 第5回 カウンセリング実施における留意点ー発達障害 第6回 カウンセリング実施における留意点ー精神疾患 第7回 カウンセリングと心理検査 第8回 まとめとここまでの振り返り 第9回 グループセラピー体験 第10回 カウンセリングの基礎ー聴くこと 第11回 カウンセリングの基礎ー見ること 第12回 ロールプレイとワーク-1 第13回 ロールプレイとワーク-2 第14回 ロールプレイとワーク-3 第15回 カウンセリングを学んでー振り返り

科目名	人間関係論 (Human Relations)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	藤本 裕人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>人間関係の社会心理学的知識を獲得するだけでなく、今を生きる学生が、よりよい人間関係を築き、社会に適応する力をつけていくことができる。自分や自分の人間関係を課題にそって見つめ直すことができることを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>この科目では、私たちの日常生活の中で繰り広げられている様々な人間関係を全般的に広く捉え、その実情を分析し、身近におきている人間関係の諸問題や今後の課題について具体的に学び考えて行こうとするものです。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【関連科目】ライフ・デザイン</p> <p>自分を素材として、人間関係の基本である自己を探求する。次に自分と他者との関係のなかで起こる心の動きと行動、最後に社会構造のなかでの社会と個人のあり様を検討する。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習(予習)】レポートで取り上げた課題を使用テキストや参考文献を熟読した上で作成するようにする。</p> <p>【事後学習(復習)】使用テキストやレポートを読み返し復習するようにする。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>本学教科書</p>
参考書、その他教材	<p>中根千枝著「タテ社会の人間関係」講談社現代新書 ISBN:9784061155053</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>第1章 人間関係論の歴史 第2章 組織と人間関係 第3章 ことばと人間関係 第4章 日本人社会の人間関係 第5章 女性のライフ・サイクルと人間関係 第6章 現代青少年の人間関係 第7章 職場の人間関係 第8章 情報化社会における人間関係 第9章 マス・メディアと人間関係 第10章 これからの人間関係 11～15 まとめ</p>

科目名	社会保障 (Social Security)	年次・単位	4 年次・2 単位
担当者名	村山 佳代	授業形態	スクーリング科目 (S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】 生きる、働く、医療を受ける、とは国民の権利である。これらの権利を保障するために不可欠な社会保障制度の仕組みを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の基本構造を理解できるようになる ・現在の社会保障制度の問題点を知ること、社会保障に関する正しい知識を説明できるようになる。 <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)との関連:①④</p>
学修内容	<p>パワーポイントでの講義形式ですが、知識の深化ためにグループディスカッションを多く行います。受講生同士の活発な意見交換により多様な価値観を学びます。</p> <p>また、授業期間中に複数回リアクションペーパーの回収と、小テストを実施し、理解度を確認します。実体問題のイメージを持つために映像資料も使用します。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業の内容のレベル】 初めて社会保障を学ぶ人を対象とします。</p> <p>【関連科目】 日本概論、社会教育演習、法律関係の科目</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】 時事問題を多く取りあげますので、新聞やニュースに目を通し、自身の意見をまとめておくこと。</p> <p>【復習】 配布プリント、ノートを読み返し、わからなかったことを翌日報告できるようにまとめておくこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 分</p>
使用テキスト	スクーリング内で配布する
参考書、その他教材	<p>椋野 美智子『はじめての社会保障』17 版(有斐閣、2020 年)ISBN 978-4-641-22164-2</p> <p>社会保障入門編集委員会『社会保障入門 2020 』(中央法規、2020 年)ISBN 978-4-8058-5976-6</p>
成績評価方法・基準	授業態度(グループディスカッションへの積極性、リアクションペーパー、小テストの結果を含む)50%+授業内試験50%
授業の形式・計画	<p>第 1 回:オリエンテーション 授業の進め方、「社会保障とは何か」</p> <p>第 2 回: 社会保障制度の目的 「貧困」は自己責任か?</p> <p>第 3 回 社会保障制度の種類 社会保険、社会福祉、社会手当の違い</p> <p>第 4 回 公的年金① 年金制度の誕生と年金制度の必要性</p> <p>第 5 回 公的年金② 日本の年金制度の仕組みとその問題点、老後に備えるとはどういうことか?</p> <p>第 6 回 労働保険① 権利としての側面の労働。労働災害について</p> <p>第 7 回 労働保険② 労働者災害保障保険の仕組み、労働災害の問題点</p> <p>第 8 回 労働保険③ 様々な働き方、正社員、アルバイト、契約社員はどこが違うのか?</p> <p>第 9 回 労働保険 雇用保険のしくみ、現代の失業問題</p> <p>第 10 回 健康保険① 日本の健康保険の誕生、医療費はどうやって計算するのか</p> <p>第 11 回 健康保険② 日本の健康保険制度の仕組みとその問題点</p> <p>第 12 回 医療の供給体制 日本の医療は足りているか、地方医療</p> <p>第 13 回 介護保険制度 介護保険制度の誕生と仕組みと問題点</p> <p>第 14 回 公的扶助 生活保護の仕組みと問題点</p> <p>第 15 回 まとめ</p>

科目名	地球環境と防災／地球環境情報	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	小森 次郎	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【ねらい】日本は気候的には湿潤で地学的には変動帯という変化に富んだ環境にある。したがってそこに住む我々には、地球環境を理解するための情報理解力・活用力(≒リテラシー)が特に求められる。そこで本科目では、地球全体から日本周辺、さらには東京近郊や大学周辺までの地球科学(特に地形学・地質学)を対象に、自らの手足も動員して学修・観察し、地球環境の現状と変遷を理解する。</p> <p>【到達目標】新聞やニュースにある情報から地球や自然環境に関する情報を自ら抽出し、問題意識をもってそれらを考察する能力を身につける。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	地球全体から関東周辺までを対象に地球環境の発達過程を学び(座学)、その関連情報を地形図と空中写真の判読および巡検から実際に抽出する。更に成果の発表を行い、各自の理解を深める。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業内容のレベル】必要とするレベルは不問。</p> <p>【関連科目】特に必要とする関連科目は無い。理解を深めるために自然環境情報、自然地理学と併せて履修することを推奨する。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前】「参考書、その他の教材」に挙げた図書のうち①～⑤のいずれかに目を通しておくこと。</p> <p>【事後】終盤に実施する各自の発表に向けてスクーリング期間を通じて準備を重ねること。また、新聞やインターネットにおいては地学や地球史、災害に関連した言葉注目し、自ら進んで調べ学修を継続してほしい。これらの作業から発生した気付きや疑問に対しては、スクーリングの合間に質疑応答の時間を設けます。授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	資料を授業内で配布する。中学・高校等で使用した地図帳を持参すること。 下記の参考書の一部は資料として授業内で回覧を行う。
参考書、その他教材	<p>①「東京の自然史」 貝塚爽平著。講談社学術文庫。ISBN13:978-4062920827</p> <p>②「江戸・東京地形学散歩 災害史と防災の視点から 増補改訂版」松田磐余著。之潮。ISBN13:978-4902695090</p> <p>③「凹凸を楽しむ 東京「スリバチ」地形散歩」皆川典久著。洋泉社。ISBN13:978-4862488237</p> <p>④「新訂版タモリの TOKYO 坂道美学入門」タモリ。講談社。ISBN13:978-4062172745</p> <p>⑤「大人のための図鑑 地球・生命の大進化—46億年の物語」田近英一監修。新星出版社。ISBN13:978-4405108011</p> <p>⑥「東京都地学のガイド—東京都の地質とそのおいたち」 貝塚爽平監修。コロナ社。ISBN13:978-4339075410</p> <p>⑦「神奈川県地学のガイド—神奈川県の地質とそのおいたち」奥村清編。コロナ社。ISBN13:978-4339075014</p> <p>⑧「エリアガイド地図で歩く東京〈2〉東京区部西」全国地理教育研究会監修。古今書院。ISBN13:978-4772250740</p>
成績評価方法・基準	平常点 30%(授業に臨む態度・姿勢)、室内作業での成果 20%、野外巡検の成果 20%、全体成果の発表内容 30%
授業の形式・計画	<p>本科目のスクーリングは以下の4段階から構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入:関東周辺の地形地質発達史の概説(座学と机上作業)。身近な地形から過去の地球環境(地球史)を復元する手法を習得する(座学と机上作業)。 ・前半:実際に地形図と空中写真の判読を行い、多摩川周辺地形発達史を理解する(4単位履修の場合は更に三浦半島南部を含む)。 ・後半:巡検(現地踏査)を行い、現地での計測と試料収集(土質サンプルの採取)を行う。さらに持ち帰った試料を処理・観察する。 ・まとめ:パワーポイントにスライド、または大判のポスターの作成を行い、スクーリング期間中の成果を発表し相互に議論を行う。 <p>【履修上の注意】メモ帳(フィールドノート)、色鉛筆、定規、カメラを持参してください。巡検の実施日には野外を歩きますので、歩きやすい靴、靴、服装で参加してください。巡検では現地までの往復交通費が別途必要となります。天候、受講者数によって講義内容を一部変更することがあります。</p>

科目名	人文地理学概論 (Outline of Human Geography)	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	境 健	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【ねらい】製造業の活動、都市における人間の移動パターン、過疎化の問題、交通網の発展、土地利用などといった社会現象の分布状況や空間的差異を理解することが、人文地理学のテーマといえる。本科目では、さまざまな空間情報を表示する“地図”から得られる人文地理学的な現象についての見方そして考え方を学修する。</p> <p>【到達目標】人文地理学の基礎的な考え方が理解できるようになる。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	一般図と主題図、地図の歴史、地図から都市開発を考える、土地利用図から都市とその周辺の変化を読む、GISとはなにか?について学修する。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【レベル】本科目は教職に関する科目にも設定されているため、地歴・社会の教員を目指す学修者に対応するレベルとなっている。</p> <p>【関連科目】自然地理学概論・地誌学概論</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】テキストを熟読してから、レポート学修を開始すること</p> <p>【復習】教科書および返却レポートを読み返すこと</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	地図を学ぶー地図の読み方・作り方・考え方ー、ISBN13:978-4817602343、菊地俊夫・岩田修二編著、二宮書店
参考書、その他教材	なし
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>1～3. 一般図と主題図</p> <p>4～6. 地図の歴史</p> <p>7～9. 地図から都市開発を考える</p> <p>10～12. 土地利用図から都市とその周辺の変化を読む</p> <p>13～15. GISとはなにか?</p>

科目名	自然地理学概論 (Outline of Physical Geography)	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	小室 謙	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【ねらい】われわれが生活する地球の表面にはさまざまな形がある。それを「地形」という。「地形」について調べ、“いつ”“どこで”“どのようにして”形成されたのか明らかにする学問を「地形学」といい、「自然地理学」を構成する一分野となっている。本科目では、われわれの生活空間が“どのような地形で構成され”、どのような“プロセス”でその地形が形成されてきたのか学修していく。</p> <p>【到達目標】地形学の基礎的な考え方が理解できるようになる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>以下の項目について学習していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地形ってなんだろう・・地形のできかた、地形の分類などについて学修する。 2.さまざまな地形を探る・・火山、活断層、地すべりなどによって形成される地形について学修する。 3.地形の調べ方・・自分が興味をもつ地域の地形を調査し考察する。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【レベル】本科目は教職に関する科目にも設定されているため、地歴・社会の教員を目指す学修者に 対応するレベルとなっている。</p> <p>【関連科目】人文地理学概論・地誌学概論</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】テキストを熟読してから、レポート学修を開始すること</p> <p>【復習】教科書および返却レポートを読み返すこと</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	目代邦康 著「地形探検図鑑」誠文堂新光社 ISBN: 978-4-416-21109-0
参考書、その他教材	なし
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.地形ってなんだろう 【第1回レポート提出】 2.さまざまな地形を探る <ol style="list-style-type: none"> 2-1 山地の地形 【第2回レポート提出】 2-2 平野の地形 2-3 海岸の地形 2-4 さまざまな地形 【第3回レポート提出】 3.地形の調べ方 【第4回レポート提出】

科目名	産業環境論 (Industrial Environment)	年次・単位	4 年次・4 単位
担当者名	鈴木 一行	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>地球環境の破壊や資源枯渇化が進む中、特に地球温暖化による気候変動が懸念され、環境保全に対する挑戦が地球規模で展開されていることを理解できる。</p> <p>日本は、公害問題や石油ショック、度重なる自然災害を経験することにより、いち早く環境問題の重要性を認識し、国・企業が一体となって問題に取り組んできたことを説明できるようになる。</p> <p>環境問題と経済活動の両立の難しさを理解し、的確に現状を把握することで今後の課題を考えることができる。</p>
学修内容	<p>産業革命以降、人類は工業化に成功し、生産や消費活動を拡大しながら経済発展を遂げてきた。しかし、付随的に温室効果ガスや有害物質を発生させ、健康や生活に重大な影響を及ぼすだけでなく、地球規模での環境問題が深刻化している。</p> <p>我々の時代は経済活動を抜きにして語ることはできないが、環境にも十分配慮することが求められている。授業では、「経済発展と環境保全」の両立という課題に対し、特に我が国がどのように現状を認識し対策を取ってきたのか、また取ろうとしているかについて学ぶ。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目とし経済学基礎、地球環境情報、自然環境情報、国際情報(経済)などが上げられる。幅広い知識が、より理解を深めるのに役立つ。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>各レポート作成前後には以下のことを心がけてもらいたい。</p> <p>事前:テキストにあるレポート課題の該当部分を必ず読むこと。事実関係等をアップデートするために、関連する官公庁・企業などの HP にアクセスして関連情報を得ることを勧める。</p> <p>事後:講評欄は必ず読むこと。課題に関連する新聞などのメディア情報を得るなどフォローを忘れずに。授業外学修に必要な時間:120 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>三橋規宏『環境経済入門<第4版>』日経文庫 1279(日本経済新聞出版社) ISBN:9784532112790</p>
参考書、その他教材	<p>日引聡・有村俊秀『入門 環境経済学』中公新書 1648(中央公論新社) ISBN:4121016483、 その他サブテキストにて参考資料を紹介する。</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 50%とレポートの成績 50%で評価する。</p>
授業の形式・計画	<p>サブテキストの各章の内容に合わせて課題を設定している。</p> <p>【レポート課題第1回部分対応】①～⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの第4,5章に関連するのでよく読む。第4次環境基本計画までの政策の展開を学ぶ。 ・更に、追加情報として2018年4月に発表された「第5次環境基本計画の概要」をサブテキストの第1章から得る。 <p>【レポート課題第2回部分対応】⑨から⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの第3章を読む。地球温暖化対策の世界的な流れと日本の状況を学ぶ。 ・参考文献として外務省や環境省などの資料をサブテキストの第2章にて紹介しているので目を通して情報を更新する。 <p>【レポート課題第3部分対応】⑯～㉓</p> <p>環境対策を経済的側面から学び、実際にどのような手段・方法がとられているのかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの第6章を読む。情報補強のために『入門 環境経済学』の第2,7章を奨める。 ・経済産業省や環境省の資料の紹介をサブテキストの第3章に掲載しているので参考にする。 <p>【レポート課題第4回部分対応】㉔～㉗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の高度成長を支えたワン・ウェイ型から日本の産業はどのように転換を図っているか。テキストの第1,4,5,7章をよく読む(関連箇所はサブテキストの第4章に示す)。特に、循環型社会形成推進基本法をはじめとする法規制は産業側の負担を強いる側面があるが、それをどう克服しよう対応してきたかを学ぶ。 ・環境省や関係機関、企業からの情報をサブテキストの第4章に掲載しているので活用する。サブテキストの「補足」も参考にしてもらいたい。

科目名	社会思想史 (History of Social Thought)	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>人文社会科学分野の伝統的な学習方法のひとつに、古典を読むということがある。この授業は、主に欧米の社会思想の歴史をたどり、代表的な社会思想家の著述(古典)を読み解くことを通じて、現代社会の諸課題の解明をめざす。学生が社会思想史全般の基礎知識を得たうえ、少なくともいずれか一冊、実際に古典を精読し、古典から学ぶ体験をすることが到達目標である。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています(https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>テキストにより、社会思想史の概観を得るとともに、現代社会に直接・間接に影響を与えている代表的な思想家の著作(いわゆる古典)を選択し、それを読解していくことが中心的な学習内容となる。2次的な解説書でなく、1次的な原典(原文が理想だが、日本語訳で可)に当たり、自分で考えることは、ひじょうに重要である。直接原典と対決し、超一流の思想家たちの胸を借りて、思考を鍛えていくなら、多くを得ることができるであろう。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>政治や社会問題に関心があれば、専門的な知識は必要ない。ただし、古典に当たるための読解力が必要である。日本国憲法などが関連科目である。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>(事前学習)それぞれの思想家が解決しようとした問題が何か、できるだけ明確に押さえる。 (事後学習)関連する思想家の著述に取り組み、自分の言葉でその思想をまとめてみる。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120 時間</p>
使用テキスト	<p>中山元『正義論の名著』ちくま新書, 2011, ISBN:978-4480066121</p>
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ K.ポパー『開かれた社会とその敵 第1部 プラトンの呪文』未来社, 1980, ISBN:978-4624010522 ・ F.A.ハイエク『法と立法と自由 I ハイエク全集 1-8』春秋社, 2007, ISBN:978-4393621783
成績評価方法・基準	<p>レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価する(科目修得試験 70%、レポート課題 30%)。レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁などをみて評価する。レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記すること。試験は、論述問題(選択式)を出題する。</p>
授業の形式・計画	<p>序論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会思想史とは何か ・正義と秩序 <p>第一章 公共善と正義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典時代の社会思想概観 ・プラトン『国家』(ポリテイア) <p>第二章 社会契約論と正義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代の社会思想概観 ・ホブズ『リヴァイアサン』 ・ロック『市民政府論』 <p>第3章 市民社会論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューム『人性論』 ・アダムスミス『道徳感情論』 ・ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』 <p>第4章 現代の正義論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の正義論概観 ・マルクス『ドイツ・イデオロギー』 ・ニーチェ『道徳の系譜学』 ・ハイエク『法と立法と自由 2社会正義の幻想』 ・ロールズ『正義論』 ・ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』 ・サンデル『これから「正義」の話をしよう』 <p>まとめ</p>

科目名	社会福祉総論 (General Remarks of Social Welfare)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	大塚 一郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	現代社会を取り巻く様々な不安、困難等に社会福祉がどのように対処しているのか、軽減せねばならないのかを福祉研究、過去の実践を通して客観的および主体的に考える科目である。科目の到達目標としては人間の生活の遵守、幸福追求を目的とした法、施策を理解するとともに、自身、家族にとどまらず、国民全体の生活を社会福祉の観点から、どのように形成すべきかという積極的視点を育成することを目標とする。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	高齢者、障害者、児童、貧困等、現代社会に潜む生活を阻害する要因を明らかにするとともに、社会福祉の概念・理念、歴史、政策、実践技、動向と課題等を具体的に学修する。
授業内容のレベル、 関連科目	社会福祉主事課程科目が関連科目となる。
授業外学修 (予習・復習)	【事前・事後学習】 レポート課題の理解、課題領域に関する専門知識、キーワードを整理する。必要に応じては関連性のある文献、新聞、その他のメディアを参照。自身の考え方の構築の一助とする。事後学習についてはレポート作成時、疑問および関心のあった領域について他の学問分野の関連知識を調べ、理解を深める。授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	「シリーズ・基礎からの社会福祉① 社会福祉概論」基礎からの社会福祉編集委員会編 ミネルヴァ書房 978-4-623-05316-2
参考書、その他教材	「社会福祉小六法」および新聞、雑誌等の関連記事、官報、自治体等の諸資料。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の学問的理解 2 社会福祉総論の学び方 3 生活と社会福祉 4 まとめ 5 社会福祉のあゆみ 6 社会福祉の理念および思想の理解 7 社会福祉の仕組み(法・制度)の理解 8 まとめ 9 社会福祉専門職の体系と役割 10 社会福祉の実践(社会福祉援助技術の理解) 11 社会福祉の機関(公的・民間)および社会資源の活用 12 まとめ 13 社会福祉の世界的動向 14 我が国の社会福祉の展望と課題 15 まとめ

科目名	障害福祉 (Welfare for Disabled People)	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	大塚 一郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	現代社会における障害の概念と障害者の実態を理解するとともに、障害福祉の背景としての理念、目的、意義を学ぶ。また障害福祉に関する法、政策、サービス体系の具体性を整理し、障害福祉および関連分野の専門職と連携のあり方を理解する。到達目標としては広義から狭義の障害の意味づけを考慮する視点から、人間相互の協働としての障害福祉の課題について自己の意見を構築する。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	障害の概念、障害者福祉理念の発展を理解するとともに、障害者を取り巻く社会状況の変化、実際の障害者支援に関する法、制度等の体系を学ぶ。
授業内容のレベル、 関連科目	社会福祉主事課程科目が関連科目となる。
授業外学修 (予習・復習)	【事前・事後学習】 レポート課題の理解、課題領域に関する専門知識、キーワードを整理する。必要に応じては関連性のある文献、新聞、その他のメディアを参照。自身の考え方の構築の一助とする。事後学習についてはレポート作成時、疑問および関心のあった領域について他の学問分野の関連知識を調べ、理解を深める。授業外学修に必要な時間:120 時間
使用テキスト	「シリーズ・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉論」 基礎からの社会福祉編集委員会編 ミネルヴァ書房 978-4-623-05022-2
参考書、その他教材	「社会福祉小六法」および新聞、雑誌等の関連記事、官報、自治体等の諸資料。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害福祉の概要 2 障害の概念と理解 3 障害者と差別 4 障害福祉の概念 5 ノーマライゼーションの理解 6 リハビリテーションの理解 7 エンパワーメント 8 障害者自立支援法(障害者総合支援法)の理念 9 障害者自立支援法(障害者総合支援法)の支援体系 10 障害者福祉とケアマネジメント 11 障害福祉の組織と専門職 12 身体障害者に対する支援 13 知的障害者に対する支援 14 精神障害者に対する支援 15 障害者と私立支援、障害福祉の関連分野(生活・就労・教育・医療等)

科目名	老人福祉 (Welfare of the Elderly)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	大塚 一郎	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護について理解する。 ・高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 ・介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉に関する知識、特に介護保険制度を中心に仕組みと現状・課題について理解を深める。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の特性、少子高齢社会の問題点、高齢者・家族の抱える問題 2 高齢者保健福祉制度の発展と現行制度 3 介護保険制度 4 高齢者・家族の支援の方法
授業内容のレベル、 関連科目	高齢者福祉に関する法制度、現状と課題について、包括的に学びます。
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習:講義で取り上げるテーマについて、介護保険法や運営基準など根拠法律について、事前に読み、理解を深めておくこと。</p> <p>事後学習:講義の中で扱ったテーマについての振り返りと、講義中に示した参考文献等について、各自で積極的に調べておくこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規 ISBN:9784805858073</p> <p>講義前に指定テキストを必ず読んでおくこと。根拠法令については、必ず条文を確認すること。日常的に新聞、TV などにおける高齢者関連の報道に関心をもつこと。</p>
参考書、その他教材	参考文献等は、授業時間内に置いてその都度説明する。
成績評価方法・基準	授業における平常点(授業に臨む態度・姿勢 50%)、提出物(50%)
授業の形式・計画	<p>【第1回】 オリエンテーション</p> <p>【第2回】 少子高齢社会と社会問題・ 老年期の生活困難の特性と構造</p> <p>【第3回】 高齢者保健福祉制度の発展過程</p> <p>【第4回】 高齢者支援の関係法規 1 老人福祉法・高齢者虐待防止法・高齢者障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律等</p> <p>【第5回】 高齢者支援の関係法規 2 高齢者の医療の確保に関する法律その他</p> <p>【第6回】 介護保険法の概要 1 (保険者・被保険者・保険料)</p> <p>【第7回】 介護保険法の概要 2 (要介護等認定)</p> <p>【第8回】 介護保険法の概要 3 (予防給付と介護給付・ケアプラン)</p> <p>【第9回】 介護保険法の概要 4 (居宅サービス・施設サービス)</p> <p>【第10回】 介護保険法の概要 5 (介護保険制度による専門職の役割)</p> <p>【第11回】 介護保険法の概要 6 (地域包括支援センターの役割)</p> <p>【第12回】 介護保険法の概要 7 (介護予防と地域支援事業について)</p> <p>【第13回】 介護保険法の概要 8 (介護保険制度の財政)</p> <p>【第14回】 介護保険法の概要 9 (介護保険制度の組織・専門職、介護保険制度の課題)</p> <p>【第15回】 まとめ</p>

科目名	児童福祉 (Child Welfare and Family Services)	年次・単位	4 年次・4 単位
担当者名	大塚 一郎	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】 少子高齢社会における児童家庭福祉問題について理解を深める。また、子どもの成長・発達と子どもを取り巻く環境との関係を中心に、児童家庭福祉の理念や意義について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉問題について説明することができる。 ・児童家庭福祉の理念や意義について検討することができる。 ・児童家庭福祉問題に対して、必要な基礎知識、考え方を理解する。 <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>現在の少子高齢社会において生じている児童家庭福祉問題について、社会背景、原因と考えられている問題、それに対応する法体系や実施体制、課題について理解を深める。そのために、児童家庭福祉における歴史や児童家庭福祉の理念、意義、子どもの成長・発達に関する基本的な知識を理解する。また、児童家庭福祉の法体系や実施体制、サービスについての基本的知識を習得する。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>社会福祉主事課程科目が関連科目となる。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習】 テキストのレポート課題に該当する部分を必ず読み、課題の理解を深めること。児童家庭福祉の実態については、関連する文献や新聞、官公庁のHPにアクセスし最新の情報を得るように努める。</p> <p>【事後学習】 レポート課題に関連する文献や新聞・雑誌記事、報道に目を通し、理解を深めること。</p> <p>授業外学修に必要な時間: 120 時間</p>
使用テキスト	<p>新保育ライブラリ「子ども家庭福祉」ISBN: 978-4762830921 植木信一 (編著) 北大路書房</p>
参考書、その他教材	<p>「社会福祉小六法」及び新聞、雑誌の関連記事、官公庁や自治体の諸資料</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>【レポート課題第1回部分対応】①～⑧ テキストの第1・2・3章に関連するのでよく読んで理解を深める。 児童福祉法の展開 (第3章第1節)を中心に、子ども家庭福祉に必要な基本的視点 (第1章第2節)、子どもの人権・権利・人権擁護 (第2章第1節)、20世紀における子どもの権利の立法化 (第2章第2節)を関連付けて理解する。</p> <p>【レポート課題第2回部分対応】⑨～⑮ テキスト第4・5・6章に関連するのでよく読んで理解を深める。厚生労働省の資料を調べ、現状について最新のデータを確認すること。</p> <p>【レポート課題第3回部分対応】⑯～㉓ テキストの第3・6章に関連するのでよく読んで理解を深める。「厚生労働白書」を調べ、子育て支援、働き方改革についての現状及び現状への取り組み、環境づくりについて理解する。</p> <p>【レポート課題第4回部分対応】㉔～㉟ テキスト第3・4・6章に関連するのでよく読んで理解を深める。 厚生労働省の資料を調べ、社会的養護の現状と課題を理解するとともに、可能な範囲で各児童福祉施設のHPを調べ、児童福祉施設の様子を理解すること。</p>

科目名	国際情報(政治)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	柴山 信二郎	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	タイの「地方(タイ南部)」に焦点を当てることにより、国民国家としてのタイを「周縁」から眺める素地をつくる。
学修内容	タイ南部の歴史と政治・文化を、国民国家タイのそれらと対比させながら学ぶ。そして、国民国家および地方の双方の文脈でタイ深南部問題の意味を考える。
授業内容のレベル、 関連科目	「国民国家」、「中心と周縁」、「イスラーム」、「紛争問題」などについて関心があること。
授業外学修 (予習・復習)	予習・復習を心掛け、配布資料によく目を通すこと。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト	授業内配布。
参考書、その他教材	適宜、指示する。
成績評価方法・基準	平常点(40%)、小レポート(20%)、学習成果確認試験(レポート)(40%)を総合的に評価する。平常点は受講姿勢などで評価する。
授業の形式・計画	I オリエンテーション タイの南端、マレー世界の北端 II 地方史 タイ南部 III タイ化の政治過程 IV タイの宗教文化 V 深南部問題 * 授業内で学習習得度確認試験(レポート)、小レポートを実施します。

科目名	国際情報(経済) (International Information (Economics))	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	柴山 信二郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>この授業の狙いは、国際社会において、日本がいまどのような位置にあって、いかなる役割を果たすべきかを認識し、日本のあり方について考えることです。そして、将来に亘って活躍する視野の広い人材を育成することを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>国際情勢は大きく変化し動き続けています。こうした世界の政治経済の動きをフォローしてその潮流を探り、現状を把握するとともに世界経済の基本的な枠組みや、国際的な相互依存関係を学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目には「経済学」があります。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>国際社会の動きに関心を持ち、日常的に新聞記事やニュースに目を通して下さい。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>「国際政治経済学・入門」(第3版)野林健・大芝亮・納屋政嗣・山田敦・長尾悟著(有斐閣アルマ) ISBN 9784641123335</p>
参考書、その他教材	<p>「サブテキスト」 「新・国際政治経済の基礎知識」(新版)田中明彦・中西寛編(有斐閣ブックス)ISBN 9784641183872 「世界経済図説」(第3版)宮崎勇・田谷禎三著(岩波新書)ISBN 9784004313540</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>I. 世界大戦後の経済秩序と東西冷戦 ————— 《ブレトンウッズ体制・その崩壊と変容》 II. 金融グローバル化の進展 ————— 《膨大な国際資本移動の弊害・通貨危機》 III. 多面的に展開するグローバル化 ————— 《変動相場制への移行と国際機関 WTO》 IV. 地域統合(リージョナリズム)進展 ————— 《世界の地域統合・自由貿易協定への動き》 V. 欧州連合(EU)の成立と限界————— 《「壮大な実験」から市場統合へ・債務危機》 VI. アジア太平洋経済協力会議(APEC)の重要性—《国際的相互依存関係の広がり》 VII. 地球環境問題への国際的取組 ————— 《グローバル・ネットワークの形成》 VIII. 地球温暖化への対応せめぎ合い ————— 《利害を背景に争う先進国と新興国・途上国》 IX. 金融危機・不況脱出、G20時代の幕開け — 《アメリカ一極から多極協力へ》 (以上、サブテキストの項目です。教科書の目次とは一致しません。)</p>

科目名	歴史文化概論 (Outline of History and Culture)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	江川 由布子	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	私たちが一般に「歴史」として理解しているものは、過去にあった事実そのものではなく、人間がそれを認識し、記憶し、記述することを通して私たちに伝えられているものです。すなわち、「歴史」とは、世界や人間のあり方を探究しようとする人間自身が創造してきた重要な文化と言えるでしょう。本科目では、ヨーロッパにおける世界史記述の変遷とその時代背景を学びながら、人がなぜ、またどのように「歴史」や「世界」を捉えようとしてきたのかを考察し、人間や文化についての理解を深めることを目標とします。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④
学修内容	授業では、みなさんが高校までの教科ですでに学習したであろう古代から近代に至るヨーロッパ史と世界史の流れを振り返りながら、ヨーロッパにおける世界史像の変遷とその歴史的背景を、各時代を代表する歴史家とその著作を手がかりに検討していきます。
授業内容のレベル、 関連科目	【レベル】履修に必要とされる特別な条件はありません。 【関連科目】西洋史、ヨーロッパ史
授業外学修 (予習・復習)	【事前学習】教科書とサブテキストをよく読んでからレポート学修を始めること。 【事後学習】特に興味をもったテーマや人物、著作などについて、サブテキストで紹介している参考図書などを手がかりにしながらい読んだり調べたりすると、さらに発展した知識を身につけることができます。授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	『世界史とヨーロッパ ヘロドトスからウォーラステインまで』 (ISBN:9784061496873) 岡崎勝世(著)、講談社
参考書、その他教材	【教材】サブテキストを使用。その他の参考図書については、サブテキスト内で紹介します。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	授業ではテキストに書かれている内容をそのまますべて取り上げるわけではありませんので、以下の「授業計画」とサブテキストに示されている各テーマの学習のポイントをよくふまえて、レポート学習を進めてください。 【授業計画】 イントロダクション:「歴史」とは何か 1. ヨーロッパ古代の世界史記述 ①ヨーロッパの歴史記述の出発点としての古代ギリシア:ヘロドトスとトゥキュディデス ②古代ローマの世界史記述:ポリュビオスの『歴史』 2. ヨーロッパ中世のキリスト教的世界史記述 ①アウグスティヌスの『神の国』と救済史観 ②中世における「世界」と時間 3. ヨーロッパ近世の世界史記述 ①大航海時代の到来とヨーロッパ人の世界観・人間観の変化 ②啓蒙主義時代における進歩史観とヨーロッパ中心的世界史像の形成 4. 近代ヨーロッパの世界史記述 ①ロマン主義と歴史主義の発展 ②ランケによる科学的歴史学の確立 ③『世界史概観』にみるランケの発展史観とヨーロッパ中心的世界史像の確立

科目名	地誌学概論 (Outline of Topography)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	小室 謙	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【ねらい】 グローバル化が進んだ現代社会においては、地球上で起きている諸現象についてを多様な地域スケールで切り取り、総合的に理解する能力が求められている。それには、地域の特徴とそこでの規則性や傾向を、自然と人の営みの両面の背景を含めて検討する地誌学的な視点が重要となる。そこで、本科目では国家や市町村といった各種のスケールで地域をとらえ、自然・人文の両面からの特徴の抽出を行い、さらに他地域との比較もあわせ地誌学的視点の深化を求めていく。</p> <p>【到達目標】最終的には、新聞の地方面や国際面、更には旅行雑誌を見る時であっても、広い視点でそれらを咀嚼し、さらに興味を広げることができるようになることを目標とする。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	世界の諸地域がもつ特徴を、民族・宗教・植民地史、および資源エネルギー問題の視点から捉え、さらに身近な地域を事例に日本の地誌を考える。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業内容のレベル】必要とするレベル、準備学習は不要。</p> <p>【関連科目】特に他の必須選択科目は無い。関連分野である自然地理学概論、人文地理学概論の選択を推奨する。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前】教科書、サブテキストを熟読してからレポート作成に取り組むこと。 新聞の地方面や国際面、地方の特異性を扱ったテレビ番組(例えば、秘密のケンミンショー等)を見て、「地域性」という言葉に敏感になっておいてほしい。</p> <p>【事後】レポート作成中および作成後には、日頃の話題や新聞等に見られる地域性や複数地域の共通性などに対して、自然・人文の両方の視点をもって興味を抱くことを心がけてほしい。 授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	・「世界の諸地域 NOW 2018」 帝国書院 著. 帝国書院. ISBN-13: 978-4807163717
参考書、その他教材	・「地誌学概論(地理学基礎シリーズ)」 矢ヶ崎典隆ほか著. 朝倉書店. ISBN-13: 978-4254168181 ・中学・高校等で使用した地図帳も手元に準備してください。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>本科目は以下の流れから構成される。</p> <p>①～④ 地誌学とは何か。地域を切り取るスケールについて。地域の特徴はどのような項目で抽出するのか(地誌学一般分野に相当)</p> <p>⑤～⑧ 民族・宗教問題、および20世紀の植民地・占領の歴史的視点から任意の対象地の地域性を明らかにする(世界地誌分野に相当)</p> <p>⑨～⑫ 資源エネルギー問題の視点から任意の対象地の地域性を明らかにする(世界地誌分野に相当)</p> <p>⑬～⑮ レポート著者本人に関係、または関心のある日本の地域について、地誌学的に考察する(日本地誌分野に相当)</p>

科目名	日本史概論 (Outline of Japanese History)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	小野寺妙子	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>古代世界から鎌倉時代までの通史を日本の史実を概説的・通史的に理解し見聞を広めて教養を身につけることを目標としています。</p> <p>到達目標</p> <p>①代表的な出来事や歴史的流れのなかで文化や経済を理解をすることができる。</p> <p>②政治や時代背景を理解して自身で考察することができる。</p> <p>③史跡や旧跡を訪れて背景など問をたてて自ら課題を解決していくことができる。</p> <p>④日本史を探究してレポート発表ができる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性①④</p>
学修内容	<p>1 縄文・弥生・古墳文化について多方面な考察をします。</p> <p>2 仏教美術の幕開け・飛鳥時代・白鳳時代の様相を比較します。</p> <p>3 平安時代・鎌倉時代の武士の台頭、鎌倉時代終焉までを行います。</p> <p>4 現代へつながる歴史を考察します。</p> <p>5 オンライン学習が2日間あります。受講方法や課題については授業に先行して manaba に表示をします。(・内容 1史跡、遺跡、の最新情報を確認(手順は7月はじめごろに manaba にて示します)。2フィールドワーク史跡や遺跡、歴史的な場所を探究します)</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>基本的で代表的な出来事や資料を説明しながら授業をすすめます。課題も多く出しますので、高校レベルの歴史を復習しておいてください。</p> <p>関連科目:情報文化論</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>予習:中学や高校で学んだ通史を再読する。代表的なものごとの歴史的流れを理解しておいてください。この範囲で自分が興味あることを深く調べておいてください。</p> <p>メディア学習は manaba でご連絡いたします。</p> <p>復習:課題提出が多くありますので多くの資料を閲覧しましょう。 授業範囲については流れをよく理解しておいてください。 授業外学修に必要な時間:予習60時間 復習:60時間必要とする。</p>
使用テキスト	<p>新日本史(日 B315)山川出版社 ISBN-978-4-634-70015-4</p>
参考書、その他教材	<p>授業内でお知らせします。</p>
成績評価方法・基準	<p>課題レポート50%、平常点20% 小テスト20% 課題発表10% に基づき総合的に評価する</p>
授業の形式・計画	<p>パソコンを使用します。USBを持参すること。 ノートパソコンをお持ちの方は、持ち込み可能です。</p> <p>●1日目 第1回～第6回 縄文弥生、古墳時代から古代国家の成り立ち 教科書(P10～P49) 史料 魏志倭人伝 倭王武の上表文 大化の改新の詔 グループ発表</p> <p>●2日目 第7回～第12回 古代国家の展開から宮廷貴族 教科書(P49～P78) 史料 国分寺建立の詔 大仏建立の詔 尾張国郡司百姓等解 中右記 グループ発表</p>

●3日目
第13回～16回
武家政権の成立～鎌倉時代
教科書(P79～P110) 史料 平家物語 御成敗式目 紀伊國阿氏河莊民の訴状

第17回～第18回
歴史とは何か、現代へつながる歴史をまとめ回とする。

.....
【メディア学習・オンライン授業による】

スクーリング授業前に公開しますので、詳細が表示されたら、スクーリング日より前から学習可能です。スクーリング日より1か月前に manaba にて課題を表示します。

●4日目
第19回～24回
・史跡、遺跡の最新情報を確認する。(史料は manaba にて示します)。
・小テスト

●5日目
第25回～第30回
・各自で史跡訪問を行い探求する。具体的には manaba にて示します。
・レポートで発表

科目名	世界史(World History)	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	一柳 峻夫	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>ねらい:「大航海時代」を世界史的視点から概観する。</p> <p>到達目標:「大航海時代」の基本的な史実や流れを把握し、歴史的意義が理解できるようになる。</p>
学修内容	<p>「大航海時代」といえば、何を連想しますか。コロンブス、マゼラン、銀、香料などでしょうか。ヨーロッパとアジア、アフリカ、アメリカ大陸といった世界の諸地域が密接に結びつき、近現代の世界史の流れを決定づけたのがこの時代でした。</p> <p>この科目では、世界の一体化という観点から、大航海時代について学習します。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	一般教養レベル。高校で「世界史」を履修していることが望ましい。
授業外学修 (予習・復習)	<p>予習:教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。</p> <p>復習:教科書およびサブテキストを読み返しておくこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト	増田義郎『図説 大航海時代』(河出書房新社) ISBN:9784309761114
参考書、その他教材	
成績評価方法・基準	科目修得試験70%、レポート30%
授業の形式・計画	<p>第1部 未知なる東方へ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 陸の道と海の路 2 地中海世界とインド洋 3 インド洋世界の発展 4 騎士・商人・伝道者 <p>第2部 大航海時代</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ジェノヴァとポルトガル 2 コロンブスとインディアス 3 ポルトガルのアジア進出 4 香料諸島をめぐる争い 5 大航海時代と近代世界

科目名	デザイン (Design)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	加瀬倫有	授業形態	スクーリング(S)

授業のねらい 及び到達目標	デザインをするうえでの、センス(微妙な違いを感じ取る力)を強化する。デザインにはセンスや感性が必要だと言われますが、センスや感性の意味を理解している人は少ない。それゆえ量をこなすことによってデザイン力を向上させるとというのが基本と思われる。ある程度の修練は必要とするが、理論を理解してからのほうがその上達スピードは格段に早い。デザイン力の進化の出発点に立つことを目標とします。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①
学修内容	デザインをするうえで磨くべきセンスを、おおまかに色、形、文字に分けて、個別にそれぞれが持つ意味を分析し言語化する。色についてはカラーインクを使用し、実感しながら理解を進める。文字と形に関しては名刺を制作。要素の配置の造形的バランスと、名刺の持つ機能が調和しているかを確認する。また一眼レフカメラを使用し撮影。それまでの学習を総合し、一枚のポスターを作成する。 ※この科目はグラフィックデザインの実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。
授業内容のレベル、 関連科目	初心者向け。グラフィックソフトの経験がなくても受講できます。関連科目は美術史
授業外学修 (予習・復習)	授業内に説明された色や文字の用法が、実社会において齟齬なく活用されているかを確認する。街中のポスターや看板を一定量撮影(スマホ等で)し、方向性でカテゴライズしていく。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	プリントを配布します。
参考書、その他教材	
成績評価方法・基準	制作した名刺とポスターの仕上がりで理解度を判断します。
授業の形式・計画	第1回から第3回 テーマは色 ●明度●色相●彩度●配色●質感 インクのにじみや発色を経験し、そのニュアンスを感じ取る。明度は何を支配しているか。色相はそれぞれどんな言葉を内包しているか。彩度はなにをコントロールしているか。単色と複数の配色で表現力の差はあるか。質感は何を前面に押し出しているか。 第4回から第6回 テーマは文字 ●明朝・ゴシック●ウエイト●字間・行間・行長●組版(一部分) 文字の種類がどんな印象を呼び起こすか。太さはどんな印象に影響するか。その影響はなにから連想されているか。 第7回から第9回 テーマは写真 ●カメラ操作方法 ボケのコントロール、ブレのコントロール。明るさのコントロール ●光の質 生光、デフューズ、バウンス ●光の方向 トップライト、サイドライト、バックライト 光の質や方向はどんな印象を作るか。またそれは何を模倣しているのか。 用意するもの・黒いシャツと白いシャツ 第10回から第12回 テーマは名刺作成 ●シェイプ・ネガとポジの関係性。地と図。 ●バランス・視覚的バランスの取り方の方法 ●まとまり・ひとつの画面にまとまりを与えるには、どういった方向があるか。 ●強調と焦点・まとまるということは、一方で退屈やつまらないといった印象を持つ事になる。それを打開するためにはどうすればいいか。 ●意味」名刺の機能を意識し、画面全体から受ける印象をどうコントロールし、何を強調するべきか。 第13回から第15回 テーマはポスター作成 ●抽象化・捨像 ●観察・考察 名刺と違い伝えたい事はたくさんある。紙のサイズも大きい。ではたくさんの事を、そのまま列記すれば伝わるのか。ポスターはどこに貼られて、見る人はどんな振る舞いをするのか。一枚のポスターで伝えられる事は、実は少ない。何を伝えるか。それを的確に判断し、どう伝えるかの選択肢を増やす。

科目名	食の文化史 (History of Food Culture)	年次・単位	2年次 4単位
担当者名	富澤 三津男	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	世界の諸民族が、各々発達させてきた食物や料理法、食事行動などを文化の産物と捉え、それぞれの国の食文化について、歴史的な背景をひもときながら、理解を深めていきます。特に、日本の優れた食文化を深く理解し、食を楽しむ、幅広く「食」を語れる教養人になれることを目標とします。 ※ 授業の概要について、 動画シラバス で解説しています (https://ccampus.org/auth/Login)。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	日本及び世界各国の「食文化」について、主食や調味料、保存方法、調理器具など様々な観点から歴史的な考察を行い、学習をしていきます。
授業内容のレベル、 関連科目	食文化の常識レベルの学習。
授業外学修 (予習・復習)	テキスト、サブテキスト、参考書を読み、関連の Web 情報などを調べて、レポート学習を進めること。 授業外学修に必要な時間:120 時間
使用テキスト	岡田哲著「食文化入門—百問百答」(東京堂出版)
参考書、その他教材	・サブテキスト(有松作成) ・農林水産省 HP/「和食・食文化/和食に関連した日本文化」 ・鈴木謙一著「フランス美食の世界」(世界文化社)ISBN: 9784418062348 ・張競著「中華料理の文化史」(ちくま文庫)ISBN:9784480430694
成績評価方法・基準	レポート及び科目修得試験の結果を総合的に評価する。(科目修得試験 70%、レポート 30%)
授業の形式・計画	第1回 主食 第2回 食材の歴史①(コメ) 第3回 食材の歴史②(ムギ、トウモロコシ) 第4回 食材の歴史③(酒と飲料) 第5回 食材の歴史④(コーヒーと紅茶) 第6回 和食文化と歴史①(和食の生い立ち) 第7回 和食文化と歴史②(発酵と料理) 第8回 和食文化と歴史③(多彩な郷土料理) 第9回 和食文化と歴史④(ユネスコ無形文化遺産登録) 第10回 各国料理の歴史①(西洋料理) 第11回 各国料理の歴史②(中国料理) 第12回 各国料理の歴史③(日本料理) 第13回 食事行動(箸文化と匙文化) 第14回 宗教と食 第15回 まとめ

科目名	経営学 (Business Administration)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	大崎 慎一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	経営学は、経営に関する数多い専門科目の基礎を学ぶ科目です。私たちは、さまざまな企業からいろいろな商品やサービスを購入しています。企業なくして社会は成り立たず、社会の発展はありません。企業の行動を通じて、経営・ビジネスの知識を学び、考えることは、社会を見る目を広げる実学そのものです。講義では経営に関する基礎的な知識と理論を説明し、企業がどう行動しているか経営の仕組みを総合的に学び、理解することを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性: ③
学修内容	経営とは何か、その仕組みを「ヒト、モノ、カネ、情報」という経営資源と外部環境との関係から解きほぐし、企業に関するさまざまな項目を多面的に勉強していきます。 企業について、外部環境の中でどのように行動していくのか、企業の組織はどのようになっているのか、今後の企業はどのように発展していくのか、などを具体的に学んでいきます。
授業内容のレベル、 関連科目	基礎レベルから始め、社会に深く関わる会社の経営について学ぶ科目なので、経済、金融、国際問題など社会全般の幅広い分野に触れます。日々新聞を読み、問題意識を持つことを求めます。
授業外学習 (予習・復習)	(予習・復習) 事前学習:新聞・メディア等の経済欄、経済誌等を幅広く読んでおいて下さい。 事後学習:科目の内容について現在の経営や経済の日常に関連付け、理解を深めてください。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	井出久光著 テキスト経営学[第3版]-基礎から最新の理論まで- ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05129-8
参考書、その他教材	伊丹敬之・加護野忠男 「ゼミナール経営学入門」第3版 日本経済新聞社 978-4-532-13247-9
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第Ⅰ編 経営学と企業の特徴 第1章 経営学とその位置づけ 第2章 企業の特徴 第3章 企業の分類 第4章 株式会社の特徴と仕組み 第Ⅱ編 経営理論の流れ 第5章 経営学の発生 第6章 テイラーと科学的管理法 第7章 ヘンリー・フォードとフォードイズム 第8章 ファヨールと管理過程論 第9章 メイヨーと人間関係論 第10章 行動科学と統合理論 第11章 近代管理論からコンティンジェンシー理論へ 第Ⅲ編 経営組織の特徴と理論 第12章 組織とは何か 第13章 基本的な組織形態 第14章 さまざまな組織形態 第15章 経営戦略論 第16章 人事管理論とリーダーシップ論 第17章 マーケティング論 第18章 生産管理論 第19章 財務管理論 第20章 日本的経営論 第21章 現代社会と企業 第22～第30 まとめ

科目名	経済学入門 (Introduction to Economics、Fundamentals of Economics)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	柴山 信二郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	現実の経済現象の事例を用いながら、ミクロ経済学とマクロ経済学に関する基礎的な知識を身に付けることを目標とします。現実の経済現象は様々な要因が絡み合う中で生じているため非常に複雑ですが、経済学の基礎的な知識を身に付けることで、これらの現象とその問題点に対する理解が深まります。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①
学修内容	経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学という2つの支柱となる理論が存在します。大まかに分類すると、前者は家計の消費行動や企業の生産行動と市場を通じたモノやサービスの取引などに主眼を置いており、後者は経済を全体的に捉え、一国の経済活動の水準の決定とその変化などを分析対象としています。本科目では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学びます。
授業内容のレベル、 関連科目	マクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を学びます。 関連科目には「経済学」があります。
授業外学習 (予習・復習)	経済ニュースに関心を持ち、日常的に目を通して下さい。そうすることで、経済感覚が養われます。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	伊藤元重『はじめての経済学[上]』日経文庫 ISBN:978-4-532-11014-7
参考書、その他教材	伊藤元重『はじめての経済学[下]』日経文庫 ISBN:978-4-532-11015-4
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1章 経済学とは何か ①②③ 第2章 経済を大づかみに捉えると -マクロ経済学の基本 ④⑤⑥⑦ 第3章 日本経済を変えた三つの分岐点 -マクロの視点で考える ⑧⑨⑩⑪ 第4章 市場の原理を理解する -ミクロ経済学の基本 ⑫⑬⑭⑮ ※テキストは5章(I~V)から構成されていますが、本授業では1章~4章(I~IV)を扱います。サブテキストでは、それらの内容の主要事項について解説します。

科目名	経済学 (Economics)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	柴山 信二郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>日常生活で使用する製品がどのような流れを経て我々の手元に届くのかを理解するための基礎力を養うことを目標とします。グローバルな社会における相互依存社会について学び知ることを狙いとします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③</p>
学修内容	<p>ハンバーガーや餃子、また自動車やテレビ等は世界の何処かで作られ、やがて我々の手元に届き、消費されます。一つの国の中で全てのものを作りだすことは非効率的であり、もはや一国のみでは生きてはいけないのが現状です。製品の流れには様々な国際的な取り決めが作用しており、その背景には論理的なメカニズムが存在しています。このような一連の流れについて、主に貿易・投資という観点から学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>経済事象(特に貿易や直接投資)に関心があり、基礎的な経済感覚を身に付けていることが望ましいです。関連科目には「経済学入門／経済学基礎」があります。</p>
授業外学習 (予習・復習)	<p>貿易、直接投資に関わる経済ニュースに関心を持ち、日常的に目を通して下さい。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<p>浦田秀次郎『国際経済学入門』日経文庫 ISBN:9784532111953</p>
参考書、その他教材	<p>小峰隆夫『貿易の知識』日経文庫 ISBN:9784532112639</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>第1章 国際貿易のメカニズム ①② 第2章 貿易理論 ③④ 第3章 間接投資 ⑤⑥ 第4章 直接投資 ⑦⑧ 第5章 関税制度 ⑨⑩ 第6章 非関税制度 ⑪⑫ 第7章 経済統合 ⑬⑭ まとめ ⑮</p> <p>※テキストは10章から構成されていますが(序章を含む)、サブテキストでは、それらの内容を上記7つの章に集約して、主要事項および補足事項について解説します。</p>

科目名	会計学 (Accounting)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	小出 徹	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	この科目では、企業が公表する財務諸表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書)を理解し、有効に利用できる知識の修得を目標とします。 この科目を履修すると、財務諸表を読むことで、企業の現状と課題を簡潔に把握する能力を身につけることができます。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:③
学修内容	1. 財務諸表の意味を理解してもらいます。 2. 財務諸表の作り方の復習。 3. 財務諸表の有効利用について勉強します。
授業内容のレベル、 関連科目	簿記、簿記演習、監査論
授業外学習 (予習・復習)	[予習]教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。 [復習]教科書およびサブテキストを読み返して多くこと。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト (教科書)	「ガイダンス企業会計入門」山浦・廣本(編) 白桃書房 ISBN:9784561351979
参考書、その他教材	学習用サブテキスト
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	[第1編] 1 総論 ①② 2 貸借対照表の読み方 ③④ 3 損益計算書の読み方 ⑤⑥ [第2編] 1 財務諸表の作り方の基礎 ⑦⑧ 2 演習による簿記技術の復習 ⑨⑩ [第3編] 1 キャッシュフロー計算書の作り方と利用法 ⑪⑫ 2 貸借対照表の利用法 ⑬⑭ 3 損益計算書の利用法 ⑮

科目名	簿記(Bookkeeping)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	諸藤 加寿代	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	基本的な商業簿記の修得をします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:③
学修内容	簿記とは企業や商店などの日々の経済活動を記録し、それを集計して会計期間ごとに貸借対照表と損益計算書を作成する一連の手続きのことです。この会計期間をワンサイクルとする一連の手続きについて学びます。
授業内容のレベル、 関連科目	予備知識のない学生でも学ぶことは可能です。ただし複式簿記独特の考え方があり、その考え方になじまなければなりません。そのために練習問題を繰り返し解くという地道な努力が必要です。
授業外学修 (予習・復習)	独学しやすいよう、比較的平易なテキストを選びました。初めて目にする言葉も多く、読み進めるのに時間がかかるかもしれません。 簿記は手で書くことが修得の近道です。サブテキストに練習問題を用意しましたので、サブテキストの練習問題を解きながら、テキストを読み進めてください。 テキストとサブテキストの練習問題は、3回以上解いてください。同じ問題を繰り返し解くことで、複式簿記の勘所が身に付きます。 また解答する際には、必ず紙に解答を書いてください。 授業外学修に必要な時間:120時間
使用テキスト	はじめての人の簿記入門塾、浜田 勝義 著、かんき出版
参考書、その他教材	
成績評価方法・基準	レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価します(科目修得試験 70%、レポート課題 30%)
授業の形式・計画	<p>簿記は基礎をしっかりと固めてから先に進まないと身につけません。テキストの1章ごと丁寧に進めてください。はじめはなかなか先へ進むことができないかもしれませんが、あせらず丁寧に進めることが簿記修得の近道です。</p> <p>独習者にお勧めしているのは次のような取り組みです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日30分あるいは1時間などと時間を決めて、規則正しく勉強してください。 ・テキストやサブテキストの練習問題は、3回以上解くつもりで取り組んでください。 ・問題は、紙に書いて解いてください。眺めているだけでは身につけません。 ・一度テキストとサブテキストを最後まで読み終えたら、2回目・3回目はテキストとサブテキストの練習問題だけを解いていきます。出来なかったところは、もう一度該当するテキストのページなどを読み直し、確認をします。 ・1回目は最後まで到達するのに数か月かかるかもしれませんが、3回目になると数週間で解き終わるようになります。 ・簿記は「手で動かして体で覚えよ」と言われています。練習問題を解けるようになるまで何度も挑戦してください。 <p>なお、課題レポートとテキスト、サブテキストの関連はおおむね次の通りです。 サブテキストの練習問題が解けるようになってから課題レポートに取り組まれることをお勧めします。</p> <p>【第1回課題レポート】・・・テキスト P20～88、98～117 サブテキスト P1～20</p> <p>【第2回課題レポート】・・・テキスト P118～127、P89～91 サブテキスト P21～31</p> <p>【第3回課題レポート】・・・テキスト P148～165 サブテキスト P32～42</p> <p>【第4回課題レポート】・・・テキスト P166～167 サブテキスト P43～47</p>

科目名	簿記演習 (Bookkeeping Seminar)	年次・単位	1 年次・4 単位
担当者名	諸藤 加寿代	授業形態	スクーリング科目 (S)

授業のねらい 及び到達目標	基本的な商業簿記の修得を目標とします。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：③
学修内容	簿記とは企業や商店などの日々の経済活動を記録し、それを集計して会計期間ごとに貸借対照表と損益計算書を作成する一連の手続きのことです。この会計期間をワンサイクルとする手続きについて学んでいきます。 ※この科目は経営関係企業の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。
授業内容のレベル、 関連科目	予備知識のない学生でも学ぶことは可能です。講義では受講者の理解の程度を勘案しながら、適宜練習問題を織り交ぜて進めます。
授業外学修 (予習・復習)	独学しやすいよう、比較的平易なテキストを選びました。本授業は毎日 6 コマ、5 日間という少しハードなスケジュールですが、しっかり復習をするように心がけてください。復習は練習問題を繰り返し解いてください。その際には必ず解答を紙に書いてください。簿記はテキストを眺めているだけでは身に付きません。同じ問題を繰り返し解き、必ずその解答を手で書くことが簿記修得の近道です。 授業外学修に必要な時間：120 時間
使用テキスト	はじめての人の簿記入門塾、浜田 勝義 著、かんき出版 ISBN: 9784761262907
参考書、その他教材	初回授業で説明をしますが、2 日日以降電卓をご持参ください。 参考図書は授業の中で紹介します。必要に応じてプリントを配布します。
成績評価方法・基準	平常点 30%と、簿記演習最終日に行う確認テスト 70%を反映して判定します。
授業の形式・計画	<ul style="list-style-type: none"> 【1】オリエンテーションと複式簿記の基本 【2】資産・負債・純資産（資本）・費用・収益 【3】預金と有価証券 【4】売掛金・受取手形・貸付金 【5】固定資産 【6】資産のまとめ 【7】借入金・買掛金 【8】支払手形・未払金・預り金 【9】資本金・資本準備金・繰越利益剰余金 【10】仕入・固定資産売却損 【11】売上・有価証券売却益 【12】負債・純資産（資本）・収益・費用のまとめ 【13】簿記一巡 【14】転記 【15】試算表（合計試算表、残高試算表、合計残高試算表） 【16】残高 【17】残高試算表と補助元帳 【18】転記と試算表のまとめ 【19】決算整理仕訳① 減価償却と貸倒引当金 【20】決算整理仕訳② 費用・収益の見越 【21】決算整理仕訳③ 費用・収益の繰延 【22】決算整理前残高試算表と決算整理後残高試算表 【23】財務諸表 【24】決算整理仕訳と財務諸表のまとめ 【25】精算表 【26】決算整理仕訳と精算表 【27】精算表と財務諸表 【28】精算表のまとめ 【29】簿記一巡のまとめ 【30】確認テスト

科目名	経営数学(Business Mathematics)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	遠藤 和紀	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>経営に関する問題を理解し定式化することのできる基礎力と解析力を身につけるのがこの科目のねらいです。専門科目で必要となる微分積分の基礎事項を習得するのが到達目標です。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:③</p>
学修内容	<p>経営情報学を学ぶ学生に必要な数学おもに微分積分を学習します。基本的な事項からはじめ、応用面まで実際に具体的な場面で数学が幅広く使え応用できるよう、基礎学力をつけます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>初心者にも無理なくわかるような基礎的なレベルです。</p>
授業外学習 (予習・復習)	<p>教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。 レポート課題で間違えた項目はもう一度教科書を読み返し理解すること。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>数学概論 田代嘉宏著 裳華房 ISBN:9784785310783</p>
参考書、その他教材	<p>微分積分 30講 志賀浩二著 朝倉書店</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>(1)極限と連続性 (2)基本的な初等関数 (3)微分の定義と性質 (4)合成関数、逆関数の微分法 (5)平均値の定理、微分の応用 (6)テーラー展開 (7)不定積分 (8)置換積分と部分積分 (9)定積分 (10)いろいろな積分の計算 (11)微分方程式 (12)2変数関数の例とそのグラフ (13)2変数関数の偏微分 (14)2変数関数の重積分 (15)累次積分</p>

科目名	日本国憲法 (Constitution)	年次・単位	2 年次・2 単位
担当者名	大村 浩靖	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【講座のねらい】 本講座は、日本国憲法について学習します。憲法は、人類が今日に至る長い歴史を通じて獲得してきた、自由主義と民主主義をベースとする国の仕組みを定める最重要な法です。一方で、憲法は、「理解しづらく、とっつきにくい」、「難解」な法という、マイナスのイメージが強い分野でもあります。本講座では、「とっつきにくい」憲法を、判例や身近な事例を題材にし、一步一步確実に論理を組み立てることで、理解を容易にします。また、サブテキストでは、それぞれの事例について、受講者各自がどう考えるか、をベースに、議論しながら進めます。このように授業を進めながら、憲法に関する、一見難解に思われる、様々な問題を、皆さんと一緒に考えていきましょう。</p> <p>【到達目標】 身近に発生する可能性がある、憲法に関する問題について、自分で論理を組み立てながら、法律的なものの考え方(リーガルマインドといいます)を活用しながら、解決できるようになることを目指します。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③④</p>
学修内容	サブテキストと教科書を使用します。サブテキストでは、教科書の具体的事例を題材として取り扱い、それに関する法律のルールやその背景にある考え方を学習します。その中で「具体的問題解決のために、どのような法律を用いて、それらをどのように適用すれば法律の趣旨にかなっているか」という観点から説明を行いながら、法律的思考(リーガルマインド)で物事を考える力を身につけます。
授業内容のレベル、 関連科目	法律を初めて学習する初学者の方を前提にした授業を行います。サブテキストでは、具体的事例を題材として取り扱い、「あなたならどう考え、判断するか」という観点から、法律的思考(リーガルマインド)で物事を考える力を身につけます。本講座の受講を契機として、さらに、民法、刑法、会社法、労働法、など様々な他の法律分野に対する興味が高まることが期待できます。
授業外学修(予習・復習)	事前の予習は各回1時間程度必要。予習・復習は各回合計で4時間程度、全部で合計約60時間、必要。
使用テキスト	初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門』(第6版)(有斐閣アルマ)
参考書、その他教材	<p>【参考書】芦部 信喜・高橋 和之『憲法』(第7版)(岩波書店)、長谷部 恭男・石川 健治・穴戸 常寿『憲法判例百選Ⅰ』・『憲法判例百選Ⅱ』(第7版)(別冊ジュリスト)(有斐閣)</p> <p>【参考書】高橋 和之(編)『新・判例ハンドブック憲法 第2版』(日本評論社) ISBN:978-4535008304 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法[第7版]』(岩波書店) ISBN:978-4000613224</p>
成績評価方法・基準	レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価する(科目修得試験70%、レポート課題30%)
授業の形式・計画	<p>第1回: ガイダンス 授業の概要を説明します 事前学習: 特にありません 事後学習: 憲法の概要を理解すること</p> <p>第2回: 子どもの人権・外国人の権利 子どもの人権・外国人の人権を題材として、基本的人権について学習します 事前学習: テキスト Thema1,2 を読んでおくこと 事後学習: 基本的人権について理解すること</p> <p>第3回: プライバシー権・自己決定権 プライバシー権・自己決定権について学習します 事前学習: テキスト Thema3,4 を読んでおくこと 事後学習: プライバシー権・自己決定権にはどのようなものがあるかを理解すること</p> <p>第4回: 法の下での平等 判例を用いて法の下での平等について学習します 事前学習: テキスト Thema3,4 を読んでおくこと 事後学習: 法の下での平等について理解すること</p> <p>第5回: 信教の自由 判例を用いて信教の自由について学習します 事前学習: テキスト Thema7 を読んでおくこと 事後学習: 信教の自由について理解すること</p> <p>第6回: 表現の自由 判例を用いて表現の自由について学習します 事前学習: テキスト Thema8,9 を読んでおくこと 事後学習: 表現の自由について理解すること</p> <p>第7回: 営業の自由 判例を用いて営業の自由について学習します 事前学習: テキスト Thema10 を読んでおくこと 事後学習: 営業の自由について理解すること</p> <p>第8回: 生存権・教育権 判例を用いて生存権・教育権について学習します 事前学習: テキスト Thema11,12 を読んでおくこと 事後学習: 生存権・教育権など国に対する請求権について理解すること</p> <p>第9回: 死刑制度 死刑制度について議論します 事前学習: テキスト Thema13 を読んでおくこと 事後学習: 死刑制度に関する議論を理解すること</p> <p>第10回: 天皇制・平和主義 天皇制・平和主義について学習します 事前学習: テキスト Thema14,15 を読んでおくこと 事後学習: 天皇制・平和主義に関する議論について理解すること</p> <p>第11回: 国会 国会の仕組みや国会議員について学習します 事前学習: テキスト Thema16,17 を読んでおくこと 事後学習: 国会の仕組みや国会議員に関する議論を理解すること</p> <p>第12回: 内閣 内閣と内閣総理大臣について学習します 事前学習: テキスト Thema18 を読んでおくこと 事後学習: 内閣の仕組みを理解すること</p> <p>第13回: 裁判所 裁判所と司法権について学習します 事前学習: テキスト Thema19,20 を読んでおくこと 事後学習: 裁判所の役割について理解すること</p> <p>第14回: 地方自治 地方自治について学習します 事前学習: テキスト Thema21 を読んでおくこと 事後学習: 地方自治の仕組みについて理解すること</p> <p>第15回: 改憲・まとめ 憲法改正と憲法の役割について議論します 事前学習: 講義全体の復習をすること 事後学習: 憲法とは何かについて自分で理解し説明できるようになること</p>

科目名	法学概論 (Outline of Jurisprudence)	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	鈴木 祥司	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	人は意識していると否とにかかわらず、法律に制約を受けて生活しています。よりよく幸せに生活するには、法律の基礎的な理解が必要だと考えます。授業では、民法、会社法、労働法、刑法、憲法などの法律科目の入門編となるとともに、それらの法律の概要を理解することを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	人は生まれたときから、家族集団の中でその一員として生活しており、人の社会生活は、集団的な生活です。そこにはおのずからルールが存在しており、法のみならず道徳、宗教、慣習など私たちが社会生活をおくる上で守るべきルールすなわち社会規範によって保たれています。法は他の社会規範と異なって、法に反した場合には、刑罰を科されたり、損害賠償を請求されたりして、国家の公権力によって、法が予定する秩序の回復がはかられます。しかし、法は決して難しいものでも、こわいものでもありません。法を知ることによってむしろ法は、自分を守ってくれるのです。 本科目では、まず法とは何かを理解した上で私たちの身近な民法、会社法、刑法などにふれて、日本国憲法がめざす基本原理等を学びます。
授業内容のレベル、 関連科目	法律科目についての入門レベルです。他にも「民法・商法」「日本国憲法」「行政法」科目をとることをお勧めします。
授業外学習 (予習・復習)	事前:教科書を熟読してから、レポート学習を開始すること。法、家族、会社、犯罪、紛争などをキーワードとして考え、レポートを作成しましょう。 事後:教科書およびサブテキストを読み返しておきましょう。新聞、ニュースをみる際に、法律に関連した事件に注意をして調べてみましょう。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト (教科書)	谷口貴都・松原哲編著者「基礎からわかる法学」成文堂[第 2 版] ISBN:978-4-7923-0545-1
参考書、その他教材	(参考書) 齊藤信宰編著「現代社会における法学入門」成文堂[第 3 版] ISBN:978-4-7923-0555-0 中川淳著「法学講義[第 2 版]—基礎へのアプローチ」世界思想社 ISBN:978-4-7907-1424-8 トピックからはじめる法学編集委員会編「トピックからはじめる法学」成文堂 ISBN:978-4-7923-0493-5
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	1. 社会生活と法—社会規範とは何か?法規範の構造 2. 法と道徳—法と道徳との関係 3. 法の存在形式と目的—法源・法の分類について・法の理念 4. 法の種類と体系—法は種々の基準によって分類されています。憲法の最高法規性 5. 法の適用と解釈—法の適用は裁判において最も明確に示されます。法の解釈の分類 6. 家族と法—婚姻、離婚、親子 7. 出生・死亡と法—民法 3 条 1 項の意味、権利能力、相続の意義、相続人と相続分 8. 契約と法—契約自由の原則とその修正 9. 消費生活と法—消費者問題と民法・消費者契約法・PL 法等 10. 会社と法—企業活動と法、改正された会社法はどのようなものか 11. 職場と法—労働法、労働契約、労働条件は何によって決まるのか? 12. 不法行為と損害賠償—不法行為と過失責任の原則、その修正、不法行為責任と救済 13. 犯罪と法—刑法とは?罪刑法定主義、刑事手続きの基礎、少年法 14. 紛争と法的解釈—社会生活の紛争と裁判所 15. 人権と統治—憲法とは何か?日本国憲法の制定、法の下での平等、国民主権、三権分立

科目名	民法・商法	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	大村 浩靖	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】 本講座は、民法・商法(主として会社法)の概要を学習します。民法では、契約、物権(不動産)、債権(金融関係)、不法行為(事故)、親族(婚姻・親子関係)、相続、を、商法(会社法)では、会社の設立、機関(取締役会、株主総会など)、取締役の役割、ガバナンスの仕組み、を、それぞれ学習します。法律の初学者の皆さんが理解しやすいよう、現在関わりがあったり、将来発生しうる事例を用いながら、学習していきます。この講座を契機として、皆さんが法律の世界に興味を持てるようになることを目指します。</p> <p>【到達目標】 身近に発生する事象に関する法律を学習することで、それらの事象に関して、自分で内容や仕組みを理解し、法律的なものの考え方(リーガルマインドといいます)で、解釈できるようになることを目指します。本講座をきっかけとして、皆さんが、さらに、様々な法律に興味を持てるようになることを希望します。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③④</p>
学修内容	サブテキストと教科書を使用します。サブテキストでは、教科書の具体的事例を題材として取り扱い、それに関する法律のルールやその背景にある考え方を学習します。その中で「具体的問題解決のために、どのような法律を用いて、それらをどのように適用すれば法律の趣旨にかなっているか」という観点から説明を行いながら、法律的思考(リーガルマインド)で物事を考える力を身につけます。
授業内容のレベル、 関連科目	法律を初めて学習する初学者の方を前提にした授業を行います。 サブテキストでは、具体的事例を題材として取り扱い、「あなたならどう考え、判断するか」という観点から、法律的思考(リーガルマインド)で物事を考える力を身につけます。本講座の受講を契機として、さらに、民法、刑法、会社法、労働法、など様々な他の法律分野に対する興味が高まることが期待できます。
授業外学修 (予習・復習)	事前の予習は各回1時間程度必要。 予習・復習は各回合計で4時間程度、全部で合計約60時間、必要。
使用テキスト	池田真朗・犬伏由子・野川 忍・大塚英明・長谷川由起子 『法の世界へ』(第8版)(有斐閣アルマ) ISBN 9784641221635
参考書、その他教材	【参考書】潮見佳男『民法(全)』第2版(有斐閣)、大塚英明『会社法のみちしるべ』第2版(有斐閣)、田中 亘『会社法』第3版(東京大学出版会)
成績評価方法・基準	レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価する(科目修得試験70%、レポート課題30%)
授業の形式・計画	<p>第1回: ガイダンス 授業の概要を説明します 事前学習: 特になし 事後学習: 民法・商法の概要をつかむこと</p> <p>第2回: 契約1: 契約の締結 契約の締結について学習します 事前学習: テキストp.1-19を読んでおくこと 事後学習: 契約の締結に関する民法の規定を理解すること</p> <p>第3回: 契約2: 契約の種類 様々な契約について学習します 事前学習: テキストp.19-25を読んでおくこと 事後学習: 様々な契約とその役割を理解すること</p> <p>第4回: 不動産 不動産に関する法律について学習します 事前学習: テキストp.25-32を読んでおくこと 事後学習: 不動産に関する民法の規定を理解すること</p> <p>第5回: 金融 金融取引に関する民法の規定を学習します 事前学習: テキストp.32-42を読んでおくこと 事後学習: 金融に関する法律を理解すること</p> <p>第6回: 不法行為1: 事故関連 交通事故・医療過誤をめぐる法律について学習します 事前学習: テキストp.43-56を読んでおくこと 事後学習: 不法行為に関する法律を理解すること</p> <p>第7回: 不法行為2: 製造物責任等 欠陥商品による被害や消費者保護について学習します 事前学習: テキストp.56-68を読んでおくこと 事後学習: 消費者保護に関する法律を理解すること</p> <p>第8回: 結婚・離婚 結婚・離婚をめぐる法律について学習します 事前学習: テキストp.108-132を読んでおくこと 事後学習: 婚姻に関する法律を理解すること</p> <p>第9回: 親子・相続 親子関係・相続について学習します 事前学習: テキストp.133-157を読んでおくこと 事後学習: 親族・相続に関する法律を理解すること</p> <p>第10回: 会社法1: 会社とは何か 会社とは何かを学習します 事前学習: テキストp.158-171を読んでおくこと 事後学習: 会社に関するイメージを理解すること</p> <p>第11回: 会社法2: 会社の経営 会社の経営の仕組み(機関)について学習します 事前学習: テキストp.171-184を読んでおくこと 事後学習: 会社の仕組みを理解すること</p> <p>第12回: 会社法3: 取締役と株主 取締役と株主の関係について学習します 事前学習: テキストp.184-197を読んでおくこと 事後学習: 取締役と株主の関係・役割を理解すること</p> <p>第13回: 会社法4: 株式市場 株式市場について学習します 事前学習: テキストp.198-202を読んでおくこと 事後学習: 株式市場の仕組み・役割について理解すること</p> <p>第14回: 会社法5: 会社の責任 会社をめぐる責任について学習します 事前学習: テキストp.202-209を読んでおくこと 事後学習: 会社に対する責任や責任追求手段について理解すること</p> <p>第15回: まとめ 民法・商法(会社法)の全体像について説明します 事前学習: 講義全体の復習をすること 事後学習: 講義全体を通じて、法律を活用する場面・法律の役割・法律に基づく制度を理解すること</p>

科目名	経営・経済法 (Management and Economic Law)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	阿部 廉	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>本来、市場の自動調節作用が有効に作用すれば、国家は民法、商法などの私人間における紛争解決ルールの整備と刑法などを通じた治安維持だけを行えばよいと考えられる。ところが企業による利益追求行動の結果として市場に独占、カルテルが生じた場合、あるいは大企業と下請け企業、消費者と事業者の関係の様に情報力や交渉力に大きな格差が存在する場合などには、市場の機能が十分機能しない事態が生じることがある。こうした場合には、国家が国民経済に直接干渉せざるを得なくなるが、その根拠となる法律を経済法と総称する。その代表的なものが独占禁止法であり、さらには消費者法や各種の業法等がある。本科目では独占禁止法の基本理念を押さえた後、消費者保護関連法、景品表示法、国際経済法など様々な視点から経済法を理解できることを目標とする。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針:(ディプロマポリシー)との関連:③</p>
学修内容	<p>使用テキストに基づき、独占禁止法の仕組みと基本理念、現代経済法の課題、国際経済法の現状を学ぶ。中でも、経済法の基本と経済法の性格、独禁法の体系、競争制限行為の規制の概要、企業結合規制、公正競争阻害行為の規制、消費者保護関連法の現状と課題、域外適用法理の現状と課題などを重点的に学習する。</p> <p>経営・経済に関連する法律の解釈・解説というよりは、複雑化する経済社会の中で、そうした法制度が必要とされる社会の経済的な背景についての理解を深め、関連する基本的知識を身に付けることを重視する。さらにそうした基本的知識に基づき、社会人として適切な判断・対応ができる能力の涵養を図る。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>教材用サブテキストには、各章ごとに「要点過剰書き」、「学習に当たっての留意事項」、「理解度のチェックリスト」を設けた。また、教材の各章の書き出しに、各章の全般的な解説を付した。同解説に含まれる要点から学習の視点を定め、学習を効率的に進めることが重要である。</p> <p>[関連科目] 法学概論、民法・商法、経営学、経済学</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>教材用サブテキストを活用し、受講と復習を心掛けることが求められる。また、単位認定後も、公正取引委員会や消費者庁のホームページを活用することにより、関連情報の更新を心掛けることが望まれる。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<p>テキスト「ベーシック経済法 ― 独占禁止法入門 第5版」有斐閣アルマ > サブテキスト「経営・経済法」帝京平成大学作成通信教育課程用テキスト</p>
参考書、その他教材	<p>使用テキスト、及び公正取引委員会、消費者庁のホームページでダウンロード可能なプレスリリース、パンフレット等を参考文献として活用する。</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験70%、レポート30%</p>
授業の形式・計画	<p>第1回 オリエンテーション(企業経営と経済法) 第2回 経済活動と市場メカニズム 第3回 公正取引委員会 第4回 独占禁止法の三本柱 第5回 カルテルの弊害と課徴金減免制度 第6回 企業結合規制、ハーフィンダール指数、市場集中度 第7回 不公正な取引方法の規制(1)一般指定 第8回 不公正な取引方法の規制(2)不当廉売と抱き合わせ販売 第9回 不公正な取引方法の規制(3)優越的地位の濫用 第10回 消費者保護関連法の基本理念 第11回 消費者庁の権限 第12回 景品表示法と公正競争規約 第13回 偽装問題 第14回 国際法と国際経済法 第15回 国際貿易と世界貿易機関(WTO)体制、講義のまとめ</p>

科目名	社会学 (Sociology)	年次・単位	1 年次・4 単位
担当者名	江川 由布子	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】 人は皆、他者との様々ななかかわりの中で生きており、こうした人間同士の諸関係から「社会」は成立しています。社会学とは、こうした視座に基づいて社会のあり方や変動、そしてそこにもたらされる諸問題を考察し、そこから「人間とは何か」を考える学問です。この授業では、社会学の基本的なテーマや視点を学びながら、現代がかかえる社会的問題を検討し、人間や社会、文化についての理解力と問題発見力・解決力を養います。</p> <p>【到達目標】 ①社会学の基本的な概念や考え方、議論の方向性を理解し、説明できる。 ②現代社会の諸問題について、社会学的観点から根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①、④</p>
学修内容	<p>授業では、個人と社会の関係性を考える際の基本的なテーマのひとつである「家族」について様々な角度から検討し、そこから現代社会の特徴と諸問題、さらには未来の展望について考えていきたいと思えます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【レベル】履修に必要とされる特別な条件はありません。 【関連科目】ライフ・デザイン、人間関係論</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】 テキストとサブテキストをよく読んでからレポート学修を始めること。 【復習】 学んだ事柄や視点を意識しながら新聞やニュースを見て、知識や自分の考えをさらに深めるよう心がけてください。 授業外学修に必要な時間:120 時間</p>
使用テキスト	<p>岩間暁子・大和礼子・田間泰子(著)『問いからはじめる家族社会学〔改訂版〕—多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣 (ISBN: 978-4-641-15093-5) ※旧版を使用してすでに学修中の場合は、引き続き旧版を使って結構です。</p>
参考書、その他教材	<p>・サブテキスト「社会学」 ・参考図書についてはサブテキスト内で紹介します。</p>
成績評価方法・基準	<p>レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価する(科目修得試験 70%、レポート課題 30%)</p>
授業の形式・計画	<p>使用テキストの項目に沿って授業計画は立てられています。サブテキストに学修の進め方が具体的に説明されていますので、それをよく理解した上でレポート課題に取り組んでください。</p> <p>【第1回レポート課題範囲】 1. 「家族」を読み解くために 2. 「近代家族」の成立</p> <p>【第2回レポート課題範囲】 3. 家族・貧困・福祉 4. 結婚</p> <p>【第3回レポート課題範囲】 5. 就業と家族 6. 妊娠・出産・子育て</p> <p>【第4回レポート課題範囲】 7. 親—成人子関係のゆくえ 8. 個人・家族・親密性のゆくえ</p>

科目名	会社法	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	大村 浩靖	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】 本講座では、会社、主として、株式会社の仕組みを定めた会社法を学習します。会社は、現代の経済社会の中で、必要不可欠の存在として、大きな影響力を持っています。この会社という組織をめぐる法律を、身近に発生している具体的事例を題材にしなが、学生の皆さんが理解しやすいよう、わかりやすく授業を進めていきます。会社は、皆さんが社会に出てから、いや、現在でも、好むと好まざるに関わらず、何らかの接点があると思います。授業を通じて、「会社とは何か」ということを、皆さんが自分の言葉で、理解し、考え、説明できるようになるよう、学習していきましょう。</p> <p>【到達目標】 会社とは何か、会社の役割とは何か、会社は誰のもので誰のために存在しているのか、このような疑問に、学生の皆さんが、自身の言葉で、説明できるようになることが、本講座のゴールです。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③④</p>
学修内容	サブテキストと教科書を使用します。サブテキストでは、教科書の具体的事例を題材として取り扱い、それに関する法律のルールやその背景にある考え方を学習します。その中で「具体的問題解決のために、どのような法律を用いて、それらをどのように適用すれば法律の趣旨にかなっているか」という観点から説明を行いながら、法律的思考(リーガルマインド)で物事を考える力を身につけます。
授業内容のレベル、 関連科目	法律を初めて学習する初学者の方を前提にした授業を行います。 サブテキストでは、具体的事例を題材として取り扱い、「あなたならどう考え、判断するか」という観点から、法律的思考(リーガルマインド)で物事を考える力を身につけます。本講座の受講を契機として、さらに、民法、刑法、労働法、など様々な他の法律分野に対する興味が高まることが期待できます。
授業外学修 (予習・復習)	事前の予習は各回1時間程度必要。 予習・復習は各回合計で4時間程度、全部で合計約60時間、必要。
使用テキスト	大塚英明『会社法のみちしるべ』第2版(有斐閣)
参考書、その他教材	三戸 浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』第4版(有斐閣アルマ)、田中 亘『会社法』第3版(東京大学出版会)
成績評価方法・基準	レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価する(科目修得試験70%、レポート課題30%)
授業の形式・計画	<p>第1回: ガイダンス 授業の概要を説明します 事前学習: テキスト Unit1 を読んでおくこと 事後学習: 会社とは何か、についてイメージをつかむこと</p> <p>第2回: 会社の設立 会社の設立について学習します 事前学習: テキスト Unit2 を読んでおくこと 事後学習: 会社の設立について理解すること</p> <p>第3回: ガバナンス・株式 会社の仕組みと株式について学習します 事前学習: テキスト Unit3-4 を読んでおくこと 事後学習: 会社の仕組みを理解すること</p> <p>第4回: 会社の機関 会社の機関を学習します 事前学習: テキスト Unit5-7 を読んでおくこと 事後学習: 会社の機関とその役割を理解すること</p> <p>第5回: 株主の有限責任と閉鎖会社 株主有限責任と閉鎖会社を学習します 事前学習: テキスト Unit8-9 を読んでおくこと 事後学習: 株主の責任と株式の譲渡について理解すること</p> <p>第6回: 資金調達 会社の資金調達について学習します 事前学習: テキスト Unit10-12 を読んでおくこと 事後学習: 会社の資金調達を理解すること</p> <p>第7回: 株主と株式 株式の種類と権利を学習します 事前学習: テキスト Unit13-15 を読んでおくこと 事後学習: 株式について理解すること</p> <p>第8回: 監査・取締役会 会社経営の仕組みとそのチェック機能について学習します 事前学習: テキスト Unit16-17 を読んでおくこと 事後学習: 監査役・取締役会の機能について理解すること</p> <p>第9回: 経営判断と善管注意義務 取締役の役割について学習します 事前学習: テキスト Unit18-19 を読んでおくこと 事後学習: 取締役の役割を理解すること</p> <p>第10回: 忠実義務 取締役の忠実義務について学習します 事前学習: テキスト Unit 19 を読んでおくこと 事後学習: 取締役の問題事例について理解すること</p> <p>第11回: 内部統制 会社の内部統制の仕組みについて学習します 事前学習: テキスト Unit20 を読んでおくこと 事後学習: 会社の経営管理の仕組みを理解すること</p> <p>第12回: 合併・分割 会社の合併・分割について学習します 事前学習: テキスト Unit21 を読んでおくこと 事後学習: 会社の合併や分割の仕組みを理解すること</p> <p>第13回: 敵対的買収 会社の敵対的買収について学習します 事前学習: テキスト Unit22 を読んでおくこと 事後学習: 敵対的買収に対する会社の対応について理解すること</p> <p>第14回: 企業の社会的責任・ESG 投資 会社の社会的責任と環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)に基づく投資について学習します 事前学習: 会社の社会的責任(会社は社会とどう関係を持つべきか)について考えること 事後学習: 会社の役割はどうあるべきか、自分で考えること</p> <p>第15回: まとめ 会社とは何か、会社の役割は何か、について参加者全員で議論します 事前学習: 講義全体の復習をすること 事後学習: 会社とは何かについて自分の言葉で説明できるようになること</p>

科目名	財務管理システム (Financial Management System)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	小林 俊之	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	財務管理の基礎である財務諸表の考え方、経営・収益性・付加価値・財務安定性・損益分岐点・キャッシュ・フロー分析などを理解し、経営の視点から財務に関する基本的な分析ができるようになることを目標としています。本科目で基礎を学んだ上で、新聞報道などにも目を向け、企業行動の分析を実践していただきたいです。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:③、④
学修内容	企業は、経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」を調達し、それらをうまく使い、付加価値を生み利益を出しています。その中であらゆる活動を支える「カネ」(資金)の動きを経営の視点で管理するのが財務管理であり、企業の規模、業種が異なろうとも基本的な知識や手法は共通です。 近年、経済のグローバル化や金融のボーダーレス化は当然のものとなり、財務業務についても国際化と無縁ではられません。リーマンショック、多くの国の財政逼迫、為替動向など日々の暮らしにまで影響を及ぼす事象には、財務管理の視点からも関心を払わねばなりません。
授業内容のレベル、 関連科目	経営学、会計学、簿記演習、簿記
授業外学修 (予習・復習)	[予習]教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。 新聞を読む習慣を身につけること。 [復習]教科書およびサブテキストを読み返す際には、実際にデータを取得し、計算・分析を行ってみること。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	財務管理の基礎知識[第3版]:財務諸表の見方から経営分析、管理会計まで、ISBN-13:978-4561352150、平野秀輔、2017、白桃書房。
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回 第1章 財務諸表の考え方:1 第2回 第1章 財務諸表の考え方:2 第3回 第1章 財務諸表の考え方:3~4 第4回 第2章 経営分析の基礎 第5回 第3章 収益性の分析:1~5 第6回 第3章 収益性の分析:6~10 第7回 第4章 付加価値の分析 第8回 第5章 財務安定性の分析:1~3 第9回 第5章 財務安定性の分析:4~5 第10回 第6章 損益分岐点の分析及びCVP分析:1 第11回 第7章 キャッシュ・フローの分析:1~2、8 第12回 第8章 管理会計の基礎概念 第13回 第9章 経営計画と予算 第14回 第10章 意思決定会計 第15回 第11章 企業価値の算定方法

科目名	経営情報技術 (Information Technology for Management)	年次・単位	2 年次・2 単位
担当者名	照屋 健作	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】 ビジネスで使用される基本的な情報技術について理解できるようになること</p> <p>【到達目標】 情報を踏まえて経営戦略、情報が係わるマネジメント、情報セキュリティを含む基本的な情報技術の概要を理解できるようになること 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③</p>
学修内容	ICT を利活用するすべての社会人やこれから社会人となる学生が備えておくべき ICT に関する基礎について学修する。具体的には、経営全般(経営戦略、マーケティング、財務、法務など)の知識、ICT(セキュリティ、ネットワークなど)の知識、プロジェクトマネジメントの知識が対象となる。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業内容のレベル】 ICT を利活用するための基本的な内容となっている。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】 使用テキストに指定している図書にある用語や仕組みについて、図書に書かれている内容だけでなく、インターネット等で調べて理解を深めておくこと。</p> <p>【復習】 本学で稼働している学修管理システム(manaba course2)の[経営情報技術]コースの[小テスト]タブに設定された理解度確認問題を理解できるまで何度でも挑戦すること。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	「1 週間で IT パスポートの基礎が学べる本 [動画講義付き]」、IT すきま教室 渡辺さき、インプレス、2021 年。ISBN:978-4-295-01162-0
参考書、その他教材	「改訂版 この 1 冊で合格! 丸山紀代の IT パスポート テキスト&問題集」、丸山紀代、KADOKAWA、2021 年。ISBN:978-4-04-605299-5
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>第 01 回 1 日目 大人はビジネスで何しているの? 【1】 ビジネスって何だろう</p> <p>第 02 回 1 日目 大人はビジネスで何しているの? 【2】 ビジネスを成長させる仕組み</p> <p>第 03 回 2 日目 お金を正しく生み出そう 【1】 マーケティングを知ろう</p> <p>第 04 回 2 日目 お金を正しく生み出そう 【2】 ルールを守ってビジネスしよう</p> <p>第 05 回 3 日目 ビジネスに欠かせないお金トーク 【1】 会社のお財布事情を見てみよう 【2】 いくら売ったら利益なの</p> <p>第 06 回 3 日目 ビジネスに欠かせないお金トーク 【3】 IT とビジネス</p> <p>第 07 回 4 日目 ビジネスをつくる! システム開発プロセス 【1】 プロセスの全体像 【2】 ① 企画プロセス 【3】 ②要件定義プロセス</p> <p>第 08 回 4 日目 ビジネスをつくる! システム開発プロセス 【4】 ③システム開発プロセス 【5】 ④保守・運用プロセス</p> <p>第 09 回 5 日目 コンピュータを動かそう! 【1】 コンピュータの構成</p> <p>第 10 回 5 日目 コンピュータを動かそう! 【2】 いつも身近なネットワーク</p> <p>第 11 回 6 日目 大切な情報を守るセキュリティ 【1】 情報資産への脅威と対策</p> <p>第 12 回 6 日目 大切な情報を守るセキュリティ 【2】 ネットワークを技術で守る</p> <p>第 13 回 7 日目 コンピュータを活用しよう! 【1】 コンピュータの世界</p> <p>第 14 回 7 日目 コンピュータを活用しよう! 【2】 データを扱ってみよう</p> <p>第 15 回 まとめ (これまでの振り返り)</p>

科目名	経営管理論 (Business Management)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	村山 真実	年次・単位	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>社会の構成員である私たちは何らかの組織に属しています。多くの人は企業(会社)という組織に属し活動されています。人が学び働くのは生きるためです。ただ生きていくというわけではなく、よりよく生きるためです。</p> <p>現代の社会をよりよく生きるために、経営管理はどのように役に立つのか、身につけておくべき基礎的な人間力の知識を得ることを目標とします。</p>
学修内容	<p>経営が実際に行われる場としての企業(会社)について、経営や組織に関する基本的な理論や仕組みを知り、経営目標を果たすための戦略や組織活動等を学んでいきます。</p> <p>※この科目は経営関係企業の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。</p>
授業内容のレベル 関連科目	<p>経営、組織、人事、経営戦略、マネジメント、マーケティング、財務・管理会計等に関する基礎的な内容を幅広く扱う経営管理論の基礎入門講座です。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>講義スタート前までに、下記の授業計画で示すキーワードについて、自身で調べ勉強をしておいてください。講義後は授業内容および紹介する参考書等を読んで知識の深堀を行って下さい。</p>
使用テキスト (教科書)	<p>配布するレジュメを中心に、パワーポイント等を併用して講義します。</p>
参考書、その他教材	<p>常に興味を持って新聞、ビジネス誌等の経営経済欄に目を通すことをお勧めします。その他必要に応じて参考書を紹介します。</p>
成績評価方法・基準	<p>平常点(授業への参加意欲・態度・小テスト・小レポート等)50%、理解度チェックテスト・課題レポート)50%とし、総合して評価します。</p>
授業の形式・計画	<p>第1回 オリエンテーション 会社① 会社とは 第2回 会社② 会社の仕事と組織 第3回 会社③ 会社の経営の仕組み 第4回 会社④ 会社と人 第5回 会社⑤ 会社の機関 第6回 会社⑥ 株式と株主 第7回 組織行動 - 現代の働き方考察 第8回 マネジメント - 組織の目的達成の方法 第9回 企業の社会的責任・環境経営 第10回 イノベーション - 新しい事業の創造 第11回 マーケティング - 売れるしくみづくり 第12回 経営戦略・経営計画 - 会社の未来 第13回 会社の数字 - 財務会計 第14回 会社の数字 - 管理会計 第15回 まとめ 理解度チェックテスト</p> <p>授業計画の内容。順番等は変更になることがあります。</p>

科目名	監査論 (Auditing)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	諸藤 加寿代	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>企業が正常に機能するためには、その企業に関する情報が利害関係者に対して適切かつ信頼に足るかたちで提供されなければなりません。情報を準備し提供する役割が会計であり、提供された情報が実態を適切に表しているかどうかをチェックする役割が監査です。</p> <p>本講座では、監査が発達してきたこれまでの道筋を概観したうえで改めて監査の意味・意義を吟味し、そのような視点を維持しながら現今の監査制度の具体的内容について理解します。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③</p>
学修内容	<p>監査は常に、不正や誤謬と対決するという立場で発達してきました。ビジネスの形態が多様化する中で不正の在り方も変化し、そうした実態に対応して監査の在り方や方法は改善を重ねてきました。そのようなバックグラウンドに一定の認識を持つことによって、監査に対して何が求められているかを知ることができます。</p> <p>次に監査の具体的実務として、財務諸表監査と内部統制監査を学びます。後者は適正な財務諸表が作成されるためのプロセスを確保することであり、結局は財務諸表につながります。したがって監査の果たす役割という意味でも、監査論で学ぶ内容においても、財務諸表監査がメインとなります。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>会計と監査は車の両輪ですが、会計があって監査があります。逆ではありません。したがって、会計や簿記の基本知識がない学生は、まず簿記あるいは会計学を学んでから本講座を履修することをお勧めします。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>テキストをよく読み、出てくる用語を正確に覚えてください。紛らわしい言葉が少なくないので、その区別をあいまいにしたまま学修を進めてもよく理解できません。</p> <p>参考書として挙げた書籍は実際に発生した問題を教材にして説明が展開されています。テキストで学んだことの意味をさらに深めるために、適宜関連のあるところや関心のあるところを拾い読みする形で活用していただければよい効果が得られます。</p> <p>テキストの第8章まで学習してからレポート課題1に取り組み、テキストの最後まで学修してからレポート課題2に取り組みしてください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	監査論テキスト【第7版】、山浦 久司 著、中央経済社 ISBN: 9784502327216
参考書、その他教材	ケースブック監査論 第5版、吉見 宏 著、新世社 ISBN:9784883842049
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>テキストは、学びやすい順序で各章が並べられていますので、テキストに沿って学修することをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【1】 会計監査とその基本的役割 【2】 会計監査の現代的機能 【3】 金融商品取引法に基づく会計監査制度 【4】 会社法に基づく会計監査制度 【5】 職業監査と監査基準並びに職業倫理 【6】 会計監査の進め方ーリスク・アプローチ 【7】 会計監査の進め方ー監査計画 【8】 会計監査の進め方ーリスク評価と監査手続き 【9】 会計監査の進め方ー監査の完了まで 【10】 会計監査と不正への対応 【11】 監査意見と監査報告書 【12】 監査意見の種類と諸問題 【13】 四半期レビュー 【14】 内部統制監査 【15】 特別目的の財務諸表の監査

科目名	企業と広報 (Business and Publication)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	柴野 良美	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>《授業のねらい》</p> <p>・広報コミュニケーションの基礎を学び、皆さんが企業広報を活用する知見を身につけること。</p> <p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報コミュニケーションの基礎を理解し、自らの言葉で説明できるようになること。 2. 企業で広報が必要とされる場面において、具体的な手続きを検討できるようになること。 <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:②③</p>
学修内容	<p>高度な情報社会が到来した現代において、企業の広報は単なる情報発信の役割を超えて、企業に関わる様々なステークホルダー(利害関係者)とのコミュニケーション手段となり、その重要性は益々高まっています。本講義では、現代社会における企業広報の役割を学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目として「マーケティング」があります。</p> <p>本講義は「マーケティング」の基本的な知識があることを前提とした内容です。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習】 新聞・ニュース等の情報をチェックし、企業と広報に関する問題を日常的に考察する習慣を身につけること。</p> <p>【事後学習】 教科書を熟読して、ノートを作成してから、各章の課題を解くこと。 教科書の内容を十分に理解してから、レポート学修を開始すること。 レポート課題の指摘に対しては、振り返り学修を行うこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>「広報コミュニケーション基礎」(社会情報大学院編) ISBN:978-4883353750</p> <p>※ 電子書籍(Kindle 等)でも購入できます。</p>
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	レポートおよび試験の結果を総合的に評価します。(科目修得試験 70%、レポート 30%)
授業の形式・計画	<p>現代社会において必要となる、様々な広報コミュニケーションの基礎を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 デジタル時代の「広報パーソン」とは 2 デジタル時代に問われる広報コミュニケーションー「情報集約社会」へ 3 コーポレート・コミュニケーション 4 広報戦略の立案 5 ICT の活用とコミュニケーションデザイン 6 マーケティング・コミュニケーション(マーケティング PR) 7 インターナル・コミュニケーション 8 CSR と地域社会への広報活動 9 成功する IR 活動 10 グローバル広報 11 電子自治体・行政広報の要点と実務 12 危機管理広報(対応とリスク管理) 13 広報効果と効果測定 14 インターネット広報とオウンドメディアの活用 15 メディア・リレーションズ 16 広報業務にかかわる法務

科目名	企業とOJT (Business and OJT)	年次・単位	4年次・4単位
担当者名	柴野 良美	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>《授業のねらい》</p> <p>・企業における人材育成について、応用的な知識と理論を学ぶこと。</p> <p>《到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人材育成の知識と理論に基づいて、人材育成の具体的な方法を説明できるようになること。 2. キャリア開発について、方針を立てることができるようになること。 <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:②③</p>
学修内容	<p>企業は、「ヒト」「モノ」「カネ」の経営資源で成り立っています。そのため、「ヒト」つまり人材を如何に育てられるかは、企業活動の成否に大きく影響します。しかし、人材の育成は各自の経験に基づいて行われる場合が多く、こうした経験に基づく育成では、対象によっては成長を促せない場合があります。本講義は、企業における人材育成に関して、理論的な視点を含めた応用的な知識を学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>本講義の内容は、「経営学」「人材開発」の科目で学ぶ知識があることを前提としています。「経営学」「人材開発」の科目を修得してから本講義を履修することが望ましいです。本講義は、企業における教育研修について理論的な視点を含めた応用的な内容です。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習】 人材育成や教育について、自らの立場に置き換えて日常的に考察する習慣を身につけること。</p> <p>【事後学習】 教科書を熟読して、ノートを作成してから、各章の課題を解くこと。 教科書の内容を十分に理解してから、レポート学修を開始すること。 レポート課題の指摘に対しては、振り返り学修を行うこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間：120 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>「企業内人材育成入門」(中原淳, 荒木淳子, 北村士朗, 長岡健, 橋本諭 著) ISBN: 978-4478440551</p>
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	レポートおよび試験の結果を総合的に評価します。(科目修得試験 70%、レポート 30%)
授業の形式・計画	<p>企業における人材育成について理論的な視点を含めて学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習のメカニズム — 人はどこまで学べるのか — 2 学習モデル — 学び方で効果は変わるか — 3 動機づけの理論 — やる気を出させる方法 — 4 インストラクショナルデザイン — 役に立つ研修をいかにつくるか — 5 学習環境のデザイン — 仕事の現場でいかに学ばせるか — 6 教育・研修の評価 — 何をどう評価するか — 7 キャリア開発の考え方 — 自身の将来をイメージさせる 8 企業教育の政治力学 — 人材教育は本当に必要か—

科目名	企業コンサルティング (Company and Consulting)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	渡部 卓	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>現在グローバル社会にふさわしい価値づくりが日本企業に求められています。企業は人材能力の育成に努めなければいけません。社員(社会人)一人ひとりもグローバル視点に立って自己責任で能力開発を進めていく必要があります。その基礎能力の一つとして経済や経営の現象を客観的かつ論理的に分析し、理論と経験を活用しながら、企業(自社)に実現可能な戦略とプロセスを提案するコンサルティング能力があります。</p> <p>この科目では企業の直面する経営課題を分析・解決し、組織の業績を改善、向上させていく方策について学びながら、企業コンサルティング能力を養うことを目的とし、基礎的なコンサルティングができるようになることが目標です。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています(https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③</p>
学修内容	<p>企業コンサルティングに必要な経営戦略、組織、マーケティング、生産管理、店舗・販売管理、財務・会計、経営情報システム、経営法務等について基礎的なことを学び、経営課題の分析と解決を目指します。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>企業コンサルティングの基礎的レベルです。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p><レポート及び科目修得試験に取り組む前にすること> 教科書、サブテキスト、参考書を熟読してからレポート学修を開始してください。</p> <p><レポート及び科目修得試験に取り組んだ後にすること> 教科書、サブテキスト、参考書を読み返しておいてください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>太田一樹、福田尚好編著「コンサルティングの基礎」同友館(2013) ISBN 978-4-496-04975-0</p>
参考書、その他教材	<p>太田一樹他編著「コンサルティングの作法」同友館(2013) ISBN978-4-496-05008-4 指尾成俊編著「中小企業診断士」成美堂出版(2013) ISBN978-4-415-21694-2</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p><第1回> 企業成長の条件 <第2回> 価値づくりに向けたイノベーション、マーケティング、人材能力 <第3回> 価値づくり能力と中小企業診断士 <第4回> 中小企業の現状と中小企業政策 <第5回> 経営戦略Ⅰ <第6回> 経営戦略Ⅱ <第7回> 組織論 <第8回> マーケティングⅠ <第9回> マーケティングⅡ <第10回> 生産管理 <第11回> 店舗・販売管理 <第12回> 財務・会計 <第13回> 経営情報システム <第14回> 経営法務 <第15回> まとめ</p>

科目名	企業と情報法制 (Business and Information Law)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	鈴木 祥司	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>現在、情報化のなか、企業をとりまく環境も大きく変わり、新しいチャンスとともにこれまで直面したことのない法的問題が次々と生じている。高度情報化社会を生きのこり、さらに発展するための基礎知識を得るとともに、法制度の面から企業と情報の問題への認識を深めることがこの授業のねらいである。学生が情報に関わる現行制度や政策の基礎的知識を得、それらを現実に活用していく能力を得ることが到達目標である。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②③④</p>
学修内容	<p>情報に関わる社会的トラブル(紛争、争い、もめごと、苦情)にどのようなものがあるか?それにたいしてどのような法制度が用意されているのか(作られようとしているのか)?その法制度にどのような問題点があるのか?—これらの具体的事例の検討を通じて、情報に関わる基本的権利、通信法、特許法、著作権法等の知的財産権、電子商取引ほかの情報関連の分野を学ぶ。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>情報法という分野は、憲法・民法・商法などの各法律分野の応用という面を持つ。それらの学習が望まれる。そのほか「情報社会と倫理」「情報と施策」等が関連科目である。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>〔事前学習〕新聞等を読み、現代社会におけるネットの可能性と限界について考えてみる。〔事後学習〕テキストやサブテキストで挙げられている事例等をさらに調べ検討し、自分の考えを文章にまとめてみる。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<p>宇賀 克也・長谷部 恭男編『情報法』有斐閣 ISBN:978-4641125537</p>
参考書、その他教材	<p>(参考書) 松井茂記・鈴木秀美・山口いつ子編『インターネット法』有斐閣 ISBN: 978-4641125834。総務省・特許庁・文化庁・最高裁等の WEB ページ。詳しくはサブテキストを参照のこと。</p>
成績評価方法・基準	<p>レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価する。(科目修得試験 70%、レポート課題 30%)</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報に関わる基本的人権(1)表現の自由 —よど号ハイジャック事件等 2. 情報に関わる基本的人権(2)—インターネットにおける表現の自由、プロバイダーの責任 3. プライバシーの権利の成立 —「宴のあと」事件、前科照会事件等 4. 新しいプライバシー権 —住基ネット事件 5. 個人情報保護制度 6. 情報公開 7. 通信と放送、通信事業 —ネットワーク経済の特徴 9. 知的財産法(1)概観、所有権と違い —顔真卿自書建中告身帖事件等 10. 知的財産法(2)特許権と著作権 11. 知的財産法(3)デジタル化・ネットワーク化に伴う課題 12. 電子商取引 13. コンピュータ犯罪—刑法による情報の保護 14. 準拠法 15. まとめ

科目名	マーケティング (Marketing)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	大崎 慎一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	この科目はマーケティング理論の基礎を理解し、企業のマーケティング行動がどのような意図で行われているのかを見極める目を養うことを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:③、④
学修内容	マーケティングとは現代産業社会において、モノやサービスを効率よく消費者に届けるための活動です。戦後日本の驚異的な経済発展は活発なマーケティング活動の成功の成果とも言えるでしょう。その後は、サービス・マーケティング、ソーシャル・マーケティング、関係性マーケティング、デジタル・マーケティングといった言葉に表象されるように、さらなる発展を遂げてきました。こうしたマーケティングを通じて、履修生には、社会の変化も感じ取っていただきたいです。
授業内容のレベル、 関連科目	マーケティングの基本を学びます。
授業外学修 (予習・復習)	[予習]教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。 新聞を読む習慣を身につけること。 「復習」教科書およびサブテキストを読み返しておくこと。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト (教科書)	マーケティング戦略(第6版)、ISBN:9784641221833、和田充夫、2022
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回:序章ーマーケティング戦略への招待、第1章ー事業機会の選択 第2回:第2章ー事業領域の選択 第3回:第3章ー標的市場の選択(第4章は任意) 第4回:第5章ー消費者行動分析 第5回:第6章ー競争分析 第6回:第7章ー流通分析 第7回:第8章ー製品対応 第8回:第9章ー価格対応 第9回:第10章ーコミュニケーション対応 第10回:第11章ー流通チャネル対応 第11回:第12章ー競争対応 第12回:第13章ーサービス・マーケティング 第13回:第14章ーソーシャル・マーケティング 第14回:第15章ー関係性マーケティング 第15回:第16章ーデジタル・マーケティング

科目名	販売管理 (Sales Management)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	今中 厚志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>本科目では、販売管理をマーケティングの視点から位置づけて、しっかり知識を身につけてもらうことを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③</p>
学修内容	<p>近年、マーケティング(市場分析、市場創造活動)の考え方が浸透するに及んで従来の企業内の各部門(販売、製造、財務、人事)の独立性が崩れ、販売部門は、全体的な方向付けを行う中核的な部門に位置づけられている。</p> <p>販売管理は、物流管理、在庫管理と統合的に取り組まれることにより、企業活動の合理的展開に貢献する。販売活動は、生産・輸送活動と並ぶ企業活動の根幹である。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	経営学、経営管理
授業外学修 (予習・復習)	<p>「予習」教科書を熟読してからレポート学修を開始すること</p> <p>「復習」教科書およびサブテキストを読み返しておくこと</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>相原修著「マーケティング入門」(2013年)日本経済新聞出版社 ISBN:9784532118129</p> <p>野口智雄著「マーケティングの基本」(2013年)日本経済新聞出版社 ISBN:9784532119164</p>
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>マーケティングの主要要素を学ぶ</p> <p>第1章-① マーケティングとは</p> <p>第1章-② マーケティングとは</p> <p>第2章-③ 市場のつかみ方</p> <p>第2章-④ 市場のつかみ方</p> <p>第3章-⑤ 製品管理の方法</p> <p>第3章-⑥ 製品管理の方法</p> <p>第4章-⑦ 価格の設定方法</p> <p>第4章-⑧ 価格の設定方法</p> <p>第5章-⑨ チャネルの構築方法</p> <p>第5章-⑩ チャネルの構築方法</p> <p>第6章-⑪ コミュニケーションの実施方法</p> <p>第6章-⑫ コミュニケーションの実施方法</p> <p>まとめ ⑬～⑮</p>

科目名	人材開発 (Development of Human Resources)	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	柴野 良美	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>本講義は、企業の経営資源のうち「ヒト」に関して、基本となる知識と理論を学ぶことを目的とします。人材開発の知識と理論に基づいて、現実の企業における人材の活用方法を適切に理解して説明できるようになることを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:③</p>
学修内容	<p>企業は、「ヒト」「モノ」「カネ」(「情報」を加える場合もあります。)の経営資源で成り立っており、「ヒト」つまり人材は、企業の活動に大きく影響する要素の一つです。皆さんは、企業に就職して企業の一員となり、企業活動に関わることとなりますので、ご自身を含めた「ヒト」つまり人材の開発について、適切に理解し、活用できるようになることはとても大切です。本講義は、企業の経営資源のうち「ヒト」に関して、基本となる知識と理論を学ぶことを目的とします。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目として、本講義の基礎となる「経営学」があります。</p> <p>本講義の応用科目として「企業とOJT」があります。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習】 新聞・ニュース等の情報をチェックし、人材開発に関する問題を日常的に考察する習慣を身につけること。</p> <p>【事後学習】 教科書を熟読して、ノートを作成してから、各章の課題を解くこと。 教科書の内容を十分に理解してから、レポート学修を開始すること。 レポート課題の指摘に対しては、振り返り学修を行うこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>「入門 人的資源管理」第2版 (奥林 康司,上林 憲雄,平野 光俊 編著) ISBN: 978-4502673603</p>
参考書、その他教材	<p>サブテキスト</p>
成績評価方法・基準	<p>レポートおよび試験の結果を総合的に評価します。(科目修得試験 70%、レポート 30%)</p>
授業の形式・計画	<p>人材開発に関して、基本となる知識と理論を学ぶことを目的とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 企業経営と人的資源管理 2 モチベーション・リーダーシップ・コミットメント 3 組織構造と職務内容 4 人事等級制度 5 雇用管理 6 キャリア開発 7 人事考課制度 8 専門職制度 9 賃金制度 10 福利厚生制度 11 労使関係 12 非正規労働者 13 女性労働者 14 高年齢労働者 15 海外派遣者 16 研究開発技術者

科目名	オフィススタディ (Study of Office)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	渡部 卓	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>仕事をするための足場である「オフィス」での円滑な進め方への心構えと、実際的な方策を身につけることを目標とする。</p> <p>※ 授業の概要について、<u>動画シラバス</u>で解説しています (https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③</p>
学修内容	<p>仕事を効率良く効果的に進めるための組織のあり方、指揮命令系統と評価のあり方、組織を支える人間関係の構築のヒントを中心に学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>企業等の組織に所属した経験のある方には理解が速いと思います。</p> <p>「人材開発」に共通する面があると思います。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>テキストを十分読み込み、自分の言葉でレポートが書けるようにして下さい。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>岩井克人著「会社はこれからどうなるのか」平凡社 (ISBN:9784582829778)</p>
参考書、その他教材	<p>「仕事術」森清著 岩波新書 (ISBN:4004306450)</p> <p>「知識経営のすすめ」野中郁次郎、紺野登著 ちくま新書 (ISBN:4480058257)</p> <p>「組織戦略の考え方」沼上幹著 ちくま新書 (ISBN:4480059962)</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフィスワークはいかに評価されるか①～③ その具体的なメカニズムと、上司によって加味される心理的要素の重要性、部下、同僚との親和関係と評価のからみ 2. 「仕事ができる人」というのは「コミュニケーション上手な人」④～⑥ 簡潔適確な話し言葉、箇条書きによる文書伝達、発言のタイミング、相手の話の聞き方の4大要素の重要性 3. 出過ぎず、埋没せず、バランスをとる⑦～⑨ 概して自己顕示の強すぎる人を日本のオフィスは嫌うが、一方で発言すべきときに発言しなければ無能と見なされる 4. 集団主義の中で自立精神を保ち続ける⑩～⑫ 協調を重視するあまり、自立精神を失ってはならない。職場の中で常に自己実現を心がけねば良い仕事は出来ない 5. オフィス内部にオフィス外部の社会の空気を導入する⑬～⑮ 一旦オフィスのメンバーになると、オフィス内部が孤立した世界になってそこにこもってしまう傾向がある。これは極めて危険である

科目名	統計学 (Statistics)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	村川 賀彦	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	この科目は統計学の入門コースとし、統計学の基本的な概念や考え方に触れ、実際の場面で応用できるようになるのがこの科目の到達目標です。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③④
学修内容	自然科学、社会科学、人文科学の研究をするためにさまざまな科学的分析方法が用いられるが統計学もそれらの科学的分析方法の一つです。統計学は大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析方法です。統計学の方法は、学問的な研究だけでなく、私たちにとって身近な家計の管理、企業の経営、政府の行政等の実務にも大いに使われます。
授業内容のレベル、 関連科目	初歩の微分積分や確率の概念を使いますが、初心者でも理解できるレベルです。経営数学 I,II を学んでいることが望ましい。
授業外学修 (予習・復習)	教科書を熟読してからレポート学修を開始すること。 レポート課題で間違えた項目はもう一度教科書を読み返し理解すること。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト (教科書)	知の統計学I(第2版)福井幸男 ISBN:9784320016637
参考書、その他教材	初等統計学 P.G.ホーエル著 培風館
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎事項 順列と組み合わせ 2. 標本データの記述, 特性値, 平均値, 中央値, 最頻値 3. 度数分布表 4. 分散, 標準偏差 5. 確率の基礎 6. 確率分布, 期待値, 分散 7. 主要な確率分布, 二項分布, ポアソン分布 8. 正規分布 9. 二項分布の正規分布による近似 10. 標本抽出, 無作為抽出 11. 中心極限定理 12. 母平均の推定 13. 母比率の推定 14. 仮説の検定 15. 統計的検定

科目名	プログラミング演習／コンピュータ演習Ⅲ	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	石川 尋代	授業形態	スクーリング科目(E)

授業のねらい 及び到達目標	データ処理技術や情報システムについての理解を深める。C 言語を用いてプログラミングの基本を学び、プログラム作成に必要となる基本要素を学習し、「入力された情報を処理し結果を出力する」という基本的情報処理の流れにそったプログラムを作成することができることを目指す。 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：②																														
学修内容	大学備え付けのコンピュータを用いて、実際にプログラムを作成する形で演習を行う。プログラムを作成・実行することを通じて、プログラミングの基本要素と文法を理解していく。同時に、情報処理の特性を体感し、データの扱い方、プログラムの流れの組み立て方、計算のアルゴリズムなどを学習する。また、プログラムの開発手法とそのツールについても学修する。																														
授業内容のレベル、 関連科目	Windows を自由自在に操作することができ、タッチタイピングを習得していることを履修条件とする。また、IF 関数のネスト、VLOOKUP 関数など、「コンピュータ演習Ⅱ」で学修する各種関数を使いこなせることを前提とする。通信科目「プログラミング」の履修を推奨する。 関連科目：応用プログラミング演習（ソフトウェア演習）																														
授業外学修 （予習・復習）	事前学習（予習）：高校の「情報Ⅰ」のプログラミングに該当する章を熟読し理解しておくこと。 事後学習（復習）：課題が授業時間内に終わらなかった場合、翌日の授業までにやっておくこと。授業後、自分で課題を定め、それを解決するプログラムを作成すること。 授業外学修に必要な時間：120 時間																														
使用テキスト	[第 2 版] 例題で学ぶ はじめての C 言語 大石 弥幸、朝倉 宏一 ムイスリ出版 ISBN 978-4-89641-309-0																														
参考書、その他教材	授業の進捗に応じて、追加の参考資料を配布する場合がある。 C 言語に関する書籍を持っている場合は、必要に応じて参考資料として持参すること。																														
成績評価方法・基準	5 日間、毎日 6 限に理解度確認テストを計 5 回実施する。5 回の理解度確認テスト 20%×5 を総合して評価する。但し、スクーリング演習科目であるため、30 回全て出席して演習に臨むことが前提であり、授業に臨む姿勢などについても評価の対象とする（最大で 50%減点をする可能性あり）。																														
授業の形式・計画	大学備え付けのコンピュータを用いて、実際にプログラムを作成するという形で演習を行う。 基礎の確認から段階を追って徐々に複雑なプログラムを作成する。 <table border="0"> <tr> <td>(1) プログラムとは何か</td> <td>(16) 標準関数とヘッダファイル</td> </tr> <tr> <td>(2) C 言語のプログラム作成の実際</td> <td>(17) ユーザー関数</td> </tr> <tr> <td>(3) C 言語プログラムの書き方</td> <td>(18) 理解度確認テスト 3</td> </tr> <tr> <td>(4) 変数の利用と入出力</td> <td>(19) ポインタ</td> </tr> <tr> <td>(5) キーボードからの数値の入力</td> <td>(20) 配列とポインタ</td> </tr> <tr> <td>(6) 理解度確認テスト 1</td> <td>(21) アドレス渡しによる関数の呼び出し</td> </tr> <tr> <td>(7) if による分岐</td> <td>(22) グローバル変数、コマンド引数</td> </tr> <tr> <td>(8) 論理演算子</td> <td>(23) ファイルからの読み込み、ファイルへの書き込み</td> </tr> <tr> <td>(9) switch-case による分岐</td> <td>(24) 理解度確認テスト 4</td> </tr> <tr> <td>(10) while、do while による繰り返し</td> <td>(25) 構造体</td> </tr> <tr> <td>(11) for による繰り返し</td> <td>(26) 構造体の関数</td> </tr> <tr> <td>(12) 理解度確認テスト 2</td> <td>(27) プリプロセッサ</td> </tr> <tr> <td>(13) 1 次元配列</td> <td>(28) アルゴリズム（ソート）</td> </tr> <tr> <td>(14) 2 次元配列</td> <td>(29) アルゴリズム（サーチ）</td> </tr> <tr> <td>(15) 文字コードと文字列</td> <td>(30) 理解度確認テスト 5</td> </tr> </table> 補足：必ず、容量が 1GB 以上の USB メモリーを持参すること。 クラスの实情に応じて、復習課題や確認課題を適宜組み込む。	(1) プログラムとは何か	(16) 標準関数とヘッダファイル	(2) C 言語のプログラム作成の実際	(17) ユーザー関数	(3) C 言語プログラムの書き方	(18) 理解度確認テスト 3	(4) 変数の利用と入出力	(19) ポインタ	(5) キーボードからの数値の入力	(20) 配列とポインタ	(6) 理解度確認テスト 1	(21) アドレス渡しによる関数の呼び出し	(7) if による分岐	(22) グローバル変数、コマンド引数	(8) 論理演算子	(23) ファイルからの読み込み、ファイルへの書き込み	(9) switch-case による分岐	(24) 理解度確認テスト 4	(10) while、do while による繰り返し	(25) 構造体	(11) for による繰り返し	(26) 構造体の関数	(12) 理解度確認テスト 2	(27) プリプロセッサ	(13) 1 次元配列	(28) アルゴリズム（ソート）	(14) 2 次元配列	(29) アルゴリズム（サーチ）	(15) 文字コードと文字列	(30) 理解度確認テスト 5
(1) プログラムとは何か	(16) 標準関数とヘッダファイル																														
(2) C 言語のプログラム作成の実際	(17) ユーザー関数																														
(3) C 言語プログラムの書き方	(18) 理解度確認テスト 3																														
(4) 変数の利用と入出力	(19) ポインタ																														
(5) キーボードからの数値の入力	(20) 配列とポインタ																														
(6) 理解度確認テスト 1	(21) アドレス渡しによる関数の呼び出し																														
(7) if による分岐	(22) グローバル変数、コマンド引数																														
(8) 論理演算子	(23) ファイルからの読み込み、ファイルへの書き込み																														
(9) switch-case による分岐	(24) 理解度確認テスト 4																														
(10) while、do while による繰り返し	(25) 構造体																														
(11) for による繰り返し	(26) 構造体の関数																														
(12) 理解度確認テスト 2	(27) プリプロセッサ																														
(13) 1 次元配列	(28) アルゴリズム（ソート）																														
(14) 2 次元配列	(29) アルゴリズム（サーチ）																														
(15) 文字コードと文字列	(30) 理解度確認テスト 5																														

科目名	プログラミング (Programming)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	小林 領	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>C 言語を利用して、プログラムの概念やプログラミング言語の基本的な文法を学びます。本授業を通して、基本的な C 言語のプログラムを理解し、簡単なプログラムが書けるようになることを到達目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①, ②, ④</p>																
学修内容	<p>作業の手順を記述したものがプログラミングです。コンピュータのプログラムは機械語と呼ばれる命令を組み合わせて動作手順を書いたもので、ソフトウェアともいいます。プログラムを書くことで、コンピュータに思い通りの作業をさせることができます。</p> <p>しかし、機械語は人間にとって非常に分かり難いものです。人間に分かりやすい「表現」でプログラムを書き、それを機械語に翻訳するという仕組みが作られました。これがプログラミング言語です。プログラミング言語の種類を沢山ありますが、この授業では、広く普及しているプログラミング言語 C(C 言語)を学習します。</p>																
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目:コンピュータ演習Ⅲ／プログラミング演習</p>																
授業外学修 (予習・復習)	<p>(事前学習:予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書・サブテキストを熟読してからレポート学習を開始すること。 ・試験前には教科書・サブテキストと作成したレポートを読み返すこと。 <p>(事後学習:復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書・サブテキストをよく読み返しておくこと ・下記の参考書を読むと、より多くの演習を行うことができる。 <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>																
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林 晴比古, 『新 C 言語入門 ビギナー編』, ソフトバンククリエイティブ; 新訂版, ISBN: 978-4797325614 																
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ B.W. カーニハン/D.M. リッチー(訳: 石田晴久), 『プログラミング言語 C 第 2 版 ANSI 規格準拠』, 共立出版, ISBN: 978-4320026926 ・ 林 晴比古, 『新 C 言語入門 スーパービギナー編』, ソフトバンククリエイティブ; 新訂版, ISBN: 978-4797325638 ・ 柴田 望洋, 赤尾 浩, 肘井 真一, 高木 宏典, 『解きながら学ぶ C 言語』, ソフトバンククリエイティブ, ISBN: 978-4797327908 																
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験:70% レポート:30% 以上を総合的に判断して評価します。</p>																
授業の形式・計画	<table border="0"> <tr> <td>1. プログラム作成</td> <td>2. C 言語入門</td> </tr> <tr> <td>3. 変数とデータ型 I</td> <td>4. 変数とデータ型 II</td> </tr> <tr> <td>5. 演算子</td> <td>6. 制御文 I</td> </tr> <tr> <td>7. 制御文 II</td> <td>8. コンソール入出力</td> </tr> <tr> <td>9. 関数の作り方</td> <td>10. ポインタ I</td> </tr> <tr> <td>11. ポインタ II</td> <td>12. 構造体</td> </tr> <tr> <td>13. プリプロセッサ</td> <td>14. 標準ライブラリ</td> </tr> <tr> <td>15. ファイル入出力</td> <td></td> </tr> </table>	1. プログラム作成	2. C 言語入門	3. 変数とデータ型 I	4. 変数とデータ型 II	5. 演算子	6. 制御文 I	7. 制御文 II	8. コンソール入出力	9. 関数の作り方	10. ポインタ I	11. ポインタ II	12. 構造体	13. プリプロセッサ	14. 標準ライブラリ	15. ファイル入出力	
1. プログラム作成	2. C 言語入門																
3. 変数とデータ型 I	4. 変数とデータ型 II																
5. 演算子	6. 制御文 I																
7. 制御文 II	8. コンソール入出力																
9. 関数の作り方	10. ポインタ I																
11. ポインタ II	12. 構造体																
13. プリプロセッサ	14. 標準ライブラリ																
15. ファイル入出力																	

科目名	データベース (Database)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	森倉 悠介	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>コンピュータシステムで幅広く利用されているデータベースについて、それらの機能的役割を中心に学びます。本授業を通して、データベースの仕組みを体系的に把握し、主にリレーショナルデータベースの機能やそれらに関する基礎理論について理解することを到達目標とします。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています (https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>データベースは、今やインターネットとともに現在のコンピュータ技術の骨格となり、日常利用している予約システムや物販・管理システムなどに広く利用されています。そのため、データベースの専門知識を養うことは非常に重要となってきました。</p> <p>この科目では、データベースの概要や歴史・種類からはじめ、関係データベースとその管理システムの基礎知識、論理設計・物理設計の基本、関係データベース操作の国際標準言語であるSQL (Structured Query Language)、複数一括処理のトランザクション、データから情報・知識・知恵へと導くデータウェアハウス、さらに、大規模な並列分散処理に向けたNOSQL(Not Only SQL)と総称される最新のデータベースの動向まで、データベースの世界の全体像を学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	(関連科目)情報システム
授業外学修 (予習・復習)	<p>(事前学習:予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。 ・試験前には教科書と作成したレポートを読み返すこと。 <p>(事後学習:復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書をよく読み返しておくこと ・下記の参考書を読むと、より発展的な知識を身につけることできる。 <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	体系的に学ぶデータベースのしくみ 第2 版, 山本 森樹, 日経 BP 社, ISBN: 978-4891006655
参考書、その他教材	7つのデータベース 7つの世界, Eric Redmond, Jim R. Wilson(訳:角征典), オーム社, ISBN: 978-4274069086
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. データベースの誕生:データベースとは、データベースの種類と歴史 2. リレーショナルモデル(1):データモデル, リレーショナルモデル 3. リレーショナルモデル(2):リレーショナル代数 4. リレーショナルデータベースの設計(1):ER モデル, IDEF1X,UML 5. リレーショナルデータベースの設計(2):正規化 6. リレーショナルデータベース言語SQL(1):問合せ, 月号, 更新処理のSQL 文 7. リレーショナルデータベース言語SQL(2):表の作成, プログラムとSQL, データベースのセキュリティ 8. データベースの物理的側面(1):ファイル構造とインデックス, 逆正規化 9. データベースの物理的側面(2):問合せ処理の最適化 10. トランザクション処理(1):トランザクション管理, 障害回復処理 11. トランザクション処理(2):分散データベース 12. データウェアハウスとOLAP(1):データウェアハウス, データウェアハウスのデータベース 13. データウェアハウスとOLAP(2):OLAP とデータマイニング 14. 新しいデータベース(1):オブジェクト指向データベース, Webとデータベース 15. 新しいデータベース(2):XML とデータベース

科目名	マルチメディア (Multimedia)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	小林 統	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	文字・画像・映像・音楽などの様々なコンテンツを扱うマルチメディアは、コンピュータ・スマートフォンの普及により、一層身近な存在となっている。これらの本質を理解するために本授業の到達目標として以下を掲げる。1)マルチメディアの仕組みを理解できる 2)社会における利用のされ方を理解できる。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	テキスト・サブテキストを元に、マルチメディア情報を扱うコンピュータの原理・コンテンツの制作方法・インターネットの仕組みといった基本を習得し、それらがどのように社会に影響を与えているかについて学修する。
授業内容のレベル、 関連科目	履修の前提となる知識は特に指定しない。 関連科目:マルチメディア演習
授業外学修 (予習・復習)	事前:テキスト、サブテキストを読み、重要事項をまとめる。 事後:サブテキストのキーワードを確認し、整理する。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト	入門マルチメディア[第二版] CG-ARTS ISBN: 978-4-903474-67-0
参考書、その他教材	実践マルチメディア[改訂新版] CG-ARTS ISBN: 978-4-903474-61-8
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%, レポート 30% 科目修得試験についての説明・注意事項等はサブテキストに記載とする。
授業の形式・計画	第1回 マルチメディアの特徴1 第2回 マルチメディアの特徴2 第3回 コンテンツ制作のためのメディア処理1 第4回 コンテンツ制作のためのメディア処理2 第5回 マルチメディア機器 第6回 インターネット1 第7回 インターネット2 第8回 インターネットで提供されるサービス 第9回 インターネットビジネス1 第10回 インターネットビジネス2 第11回 デジタルとネットワークの活用で変わるライフスタイル 第12回 社会に広がるマルチメディア1 第13回 社会に広がるマルチメディア2 第14回 セキュリティと情報リテラシ1 第15回 セキュリティと情報リテラシ2

科目名	マルチメディア演習 (Multimedia Seminar)	年次・単位	3 年次・2 単位
担当者名	小林 統	授業形態	スクーリング科目(E)

授業のねらい 及び到達目標	<p>文字・画像・映像・音楽などの様々なコンテンツを扱うマルチメディアは、コンピュータ・スマートフォンの普及により、一層身近な存在となっている。これらの本質を理解するために本授業の到達目標として以下を掲げる。1)各種コンテンツを制作できる。2)ホームページにまとめることができる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>デジタルコンテンツの基礎知識を理解する。実際に画像・動画・インタラクティブコンテンツ・音楽等のコンテンツを制作し、まとめたホームページを制作する。</p> <p>利用アプリケーション: Adobe CC(Photoshop, Illustrator, Premiere Pro 等), GarageBand 等</p> <p>※この科目はデジタルデザインの実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。</p> <p>※正科生(3年次編入含む)は入学初年度に本科目を履修することはできません。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	履修の前提となる知識は指定しない。 関連科目:マルチメディア
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前:扱うトピックについて各自調べる 事後:制作した内容について到達できたこと、できなかったことについて確認する</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	PDF 等を授業内で配布する。
参考書、その他教材	適宜授業内に推薦・配布する。
成績評価方法・基準	演習課題の提出状況 50%、平常点(授業に臨む態度・姿勢)50%とし、総合して評価を行う。
授業の形式・計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 デジタルコンテンツの基礎知識 第3回 デジタルカメラによる撮影及びポスター制作演習</p> <p>第4回 HTML 入門 第5回 CSS, JavaScript 入門 第6回 テンプレートを利用したホームページ制作演習</p> <p>第7回 Photoshop 入門 第8回 Photoshop 応用 第9回 Photoshop を用いた画像編集演習</p> <p>第10回 動画の基礎知識 第11回 Premiere 入門 第12回 CM 制作演習</p> <p>第13回 音楽制作入門 第14回 インタラクティブメディア入門 第15回 マルチメディア制作演習</p> <p>各演習課題については随時授業内に講評する。 履修者は USB メモリを持参のこと(USB 3.0, 16GB 以上推奨)</p>

科目名	応用プログラミング演習／ソフトウェア演習	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	蜂屋 孝太郎・村川 賀彦	授業形態	スクーリング科目(E)

授業のねらい 及び到達目標	教育用途にとどまらずデータサイエンスや Web アプリケーションの開発等で多用されているプログラミング言語 Python を用いて、実際に役に立つ小規模プログラムを作成するスキルを身につけます。Python の基本構文を使いこなせるとともに、公開されているライブラリを活用して効率よくプログラム作成ができるようになることを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：②																														
学修内容	大学備え付けのコンピュータを用いて実際に操作し、プログラムを作成する形で演習を行います。大きく2つのパートに分け、それぞれの課題に取り組みます。 【パート1】Python の基本構文を学修した後、デスクトップ処理の自動化を行う演習を行います。 【パート2】プログラミング言語 Python による AI プログラミングを画像検出と機械学習を例に学修します。																														
授業内容のレベル、 関連科目	「コンピュータ演習Ⅰ」「コンピュータ演習Ⅱ」で学修するコンピュータに関する基本操作は習得していることが前提です。また、C 言語プログラミングを扱う「プログラミング演習／コンピュータ演習Ⅲ」を履修しておくことを強く推奨します。 ※正科生(3年次編入含む)は入学初年度に本科目を履修することはできません。																														
授業外学修 (予習・復習)	事前学習(予習): Python の特徴や歴史について調べておき、教室で簡単に発表できるようにしておいて下さい。 事後学習(復習): 課題が時間内に終わらなかった場合、翌日の授業までにやっておいて下さい。授業後、自分で課題を定め課題を解決するプログラムを作成しましょう。 授業外学修に必要な時間: 120 時間																														
使用テキスト	【パート1】授業の際に資料を配付します。 【パート2】「文系でも転職・副業で稼げる AI プログラミングが最速で学べる！」日比野新著、かんき出版、2020/1 (ISBN: 978-4-7612-7469-6)																														
参考書、その他教材	【パート1】大澤「さわって学べる SikuliX Python で作る RPA」日経 BP 【パート2】授業の進状況に応じて適宜補足資料を配付します。																														
成績評価方法・基準	スクーリングで行う演習科目です。授業に出席した上で、演習課題を実施し、提出することが前提となります。1日の終わりに実施する確認テスト40%、課題の提出状況およびその内容60%。																														
授業の形式・計画	<p>大学備え付けのコンピュータを用い、実際にプログラムを作成・実行する形で演習します。</p> <p>【パート1】Python の基本構文について学修し、簡単な計算やデータ操作を行うプログラムを作成します。さらに、マウス操作やキーボード入力などのデスクトップ操作を自動化する演習をとおして応用力を高めます。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) プログラムの入力と実行方法</td> <td>(7) SikuliXの起動と操作方法</td> </tr> <tr> <td>(2) 基本構文</td> <td>(8) マウス操作、キーボード入力の自動化</td> </tr> <tr> <td>(3) ファイルの読み書き</td> <td>(9) アプリケーションの起動と終了</td> </tr> <tr> <td>(4) オブジェクト</td> <td>(10) 画像マッチングの調整とOCR機能</td> </tr> <tr> <td>(5) ソートとサーチ</td> <td>(11) Excel ファイルの操作</td> </tr> <tr> <td>(6) 確認テスト①</td> <td>(12) 確認テスト②</td> </tr> </table> <p>【パート2】パート1で学んだ Python を使って AI プログラミングを学修します。まずは簡単な例で基礎的なプログラミング方法を学び、AI プログラミングの代表の画像検出と機械学習について実際にプログラミングを行い学修します。</p> <table border="0"> <tr> <td>(13) サンプルファイルの表示</td> <td>(22) 画像の大きさを変化、回転、色反転、モザイク</td> </tr> <tr> <td>(14) あいさつ、BMI値の計算①、ファイルに保存</td> <td>(23) 画像の検出、グレースケール、2値化、輪郭表示</td> </tr> <tr> <td>(15) コメント、定数、キッチンの最適な高さを計算①</td> <td>(24) 輪郭表示、角表示、確認テスト④</td> </tr> <tr> <td>(16) 変数、型、キッチンの最適な高さを計算②</td> <td>(25) 画像から顔を検出、画像から目を検出</td> </tr> <tr> <td>(17) 組込関数、条件分岐、BMI値の計算②、キッチン③</td> <td>(26) 画像の一致部分を検出</td> </tr> <tr> <td>(18) タプル、モジュール、引数、キッチン④、確認テスト③</td> <td>(27) 特徴点で一致具合を見る</td> </tr> <tr> <td>(19) 画像検出とは、OpenCV、デジタル画像の基礎</td> <td>(28) 機械学習とは</td> </tr> <tr> <td>(20) 円と四角を描く、文字を描く</td> <td>(29) 機械学習プログラム作成①②</td> </tr> <tr> <td>(21) 画像を選んで表示</td> <td>(30) 機械学習プログラム作成③④、確認テスト⑤</td> </tr> </table> <p>補足: 必ず、容量が 1GB 以上の USB メモリーを持参してください。 クラスの实情に応じて、復習課題や確認課題を適宜組み込みます。</p>	(1) プログラムの入力と実行方法	(7) SikuliXの起動と操作方法	(2) 基本構文	(8) マウス操作、キーボード入力の自動化	(3) ファイルの読み書き	(9) アプリケーションの起動と終了	(4) オブジェクト	(10) 画像マッチングの調整とOCR機能	(5) ソートとサーチ	(11) Excel ファイルの操作	(6) 確認テスト①	(12) 確認テスト②	(13) サンプルファイルの表示	(22) 画像の大きさを変化、回転、色反転、モザイク	(14) あいさつ、BMI値の計算①、ファイルに保存	(23) 画像の検出、グレースケール、2値化、輪郭表示	(15) コメント、定数、キッチンの最適な高さを計算①	(24) 輪郭表示、角表示、確認テスト④	(16) 変数、型、キッチンの最適な高さを計算②	(25) 画像から顔を検出、画像から目を検出	(17) 組込関数、条件分岐、BMI値の計算②、キッチン③	(26) 画像の一致部分を検出	(18) タプル、モジュール、引数、キッチン④、確認テスト③	(27) 特徴点で一致具合を見る	(19) 画像検出とは、OpenCV、デジタル画像の基礎	(28) 機械学習とは	(20) 円と四角を描く、文字を描く	(29) 機械学習プログラム作成①②	(21) 画像を選んで表示	(30) 機械学習プログラム作成③④、確認テスト⑤
(1) プログラムの入力と実行方法	(7) SikuliXの起動と操作方法																														
(2) 基本構文	(8) マウス操作、キーボード入力の自動化																														
(3) ファイルの読み書き	(9) アプリケーションの起動と終了																														
(4) オブジェクト	(10) 画像マッチングの調整とOCR機能																														
(5) ソートとサーチ	(11) Excel ファイルの操作																														
(6) 確認テスト①	(12) 確認テスト②																														
(13) サンプルファイルの表示	(22) 画像の大きさを変化、回転、色反転、モザイク																														
(14) あいさつ、BMI値の計算①、ファイルに保存	(23) 画像の検出、グレースケール、2値化、輪郭表示																														
(15) コメント、定数、キッチンの最適な高さを計算①	(24) 輪郭表示、角表示、確認テスト④																														
(16) 変数、型、キッチンの最適な高さを計算②	(25) 画像から顔を検出、画像から目を検出																														
(17) 組込関数、条件分岐、BMI値の計算②、キッチン③	(26) 画像の一致部分を検出																														
(18) タプル、モジュール、引数、キッチン④、確認テスト③	(27) 特徴点で一致具合を見る																														
(19) 画像検出とは、OpenCV、デジタル画像の基礎	(28) 機械学習とは																														
(20) 円と四角を描く、文字を描く	(29) 機械学習プログラム作成①②																														
(21) 画像を選んで表示	(30) 機械学習プログラム作成③④、確認テスト⑤																														

科目名	OA 機器 (Office Automation Equipment)	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	朴 南圭	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	現代のビジネスシーンにおいて変化しつつある OA 機器の全体像を理解し、業務の自動化に向けて今後改善していくべきところ、問題点を発見する。経営・業務のワークフローにおける OA 機器の役割と働きについて理解を深めることを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:②
学修内容	OA (Office Automation) 機器とは、一般に職場環境で利用されるパーソナルコンピュータ、ファクシミリ、複写機など業務支援の機器の総称である。また、OA を「職場の自動化」と訳せるように、より広範囲に業務を支援するシステムの総称と考えるべきであろう。この科目では、情報技術・通信技術によって、ビジネスがどう変わるか、また何が変わらないのかを、要素となる技術と業務という二つの側面から考察する。
授業内容のレベル、 関連科目	職場環境において身近な機器の働きと全体の業務のなかでの役割について知識を深める。
授業外学修 (予習・復習)	予習: テキストを読み、用語を調べる 復習: 全体像を把握するようにテキストの説明を自分の言葉で説明する 授業外学修に必要な時間: 60 時間
使用テキスト (教科書)	『ビジネス情報学概論』 定道宏著 オーム社 (2006 年) ISBN-13: 978-4274202193
参考書、その他教材	『OA 機器』(サブテキスト)
成績評価方法・基準	800 字以上 1000 字以内の問題を 1 回 2 問、合計 2 回のレポートおよび科目修得試験により評価する。(科目修得試験 70%、レポート 30%) [評価基準] C: 課題について最低限の内容が記されているもの。B: 一般的な理解がうかがえるもの。A: 考察等が特に優れているもの、という基準で採点する。
授業の形式・計画	1. 情報技術の概要(サブテキスト) 2. 全社企業システム体系 3. データウェアハウス 4. ビジネスインテリジェンス(BI) 5. 全社業務資源管理(ERP) 6. サプライチェーン生産管理(SCM) 7. デマンドチェーン顧客管理(DCM) 8. 業務アプリケーション統合(EAI) 9. ビジネスプロセス連携 10. ビジネスプロセス管理 11. 電子商取引データ交換 12. 情報漏洩防止 13. 情報セキュリティー 14. ビジネス環境の問題点 15. 将来ビジネス環境の理想

科目名	ハードウェア基礎 (Fundamentals of Hardware)	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	蜂屋 孝太郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>一般的なコンピュータは電気で動いており、データは電気信号で表現され、電気的な変換や保存により演算(計算)が行われている。本授業ではコンピュータ・システムを適切に活用するために必要となる電気回路の解析方法について学修する。抵抗、コンデンサ、コイルなどの受動素子からなる線型回路の特性を解析できるようになることを到達目標とする。ここで学ぶ解析方法はロボットや化学反応プロセスなどの制御システム全般で利用されており、幅広い分野に応用できる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性: ①②</p>
学修内容	<p>テキストとサブテキストを用いて、直流回路解析の基礎、交流回路解析の基礎、ラプラス変換やフィルタの概念など、電気回路の基礎を学修する。この過程で、連立方程式、微積分、三角関数、指数関数、対数、複素数、ベクトル、行列といった、経済学や工学などで行われる解析全般で必要となる数学も学修する。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>「経営数学」を受講していることが望ましい(必須ではない)。また、本科目の受講により「コンピュータ回路Ⅰ」のアナログ回路に関する部分の理解がより深まる。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>予習: テキスト、サブテキストを熟読し演習問題を解いてからレポート課題に取り組むこと。 復習: テキスト、サブテキストを読み返しておくこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間: 120 時間</p>
使用テキスト	<p>series 電気・電子・情報系 ⑧ 「電気回路」 森真 作 共立出版 ISBN:978-4-320-08583-1 series 電気・電子・情報系 ⑩ 「回路とシステム」 浜田 望 共立出版 ISBN:978-4-320-08585-5</p>
参考書、その他教材	
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験の成績 60%、レポート課題の成績(4 回) 10%×4 の配分で成績を評価する。レポート課題と同等の難易度の問題を 60%以上正答できることを単位付与基準とする。</p>
授業の形式・計画	<p>テキスト「電気回路」 第 1 回: キルヒホッフの法則 第 2 回: 抵抗 第 3 回: 電源 第 4 回: 回路方程式 第 5 回: 回路における諸定理 【レポート課題】 第 1 回</p> <p>第 6 回: コンデンサとインダクタンス 第 7 回: 基本回路の性質 第 8 回: 正弦波定常状態の解析 【レポート課題】 第 2 回</p> <p>テキスト「回路とシステム」 第 9 回: ラプラス変換による回路解析 第 10 回: 回路の電力とエネルギー 第 11 回: 2 端子対回路 【レポート課題】 第 3 回</p> <p>第 12 回: 周期信号に対する回路の応答 第 13 回: 信号処理機能としての回路 第 14 回: 分布線路 第 15 回: オペアンプ 【レポート課題】 第 4 回</p>

科目名	コンピュータ回路 I (Computer Circuit I)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	村川 賀彦	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	コンピュータで扱われるハードウェアとソフトウェアのうち、電気回路および電気部品を中心とするハードウェアについて、それらの機能的役割を中心に学修する。 本講義を通して、論理演算や論理回路、論理関数と標準形及びその単純化について理解できることを到達目標とする。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①, ④
学修内容	基数変換や補数加算、符号体系などの論理数学と2値論理の基本となるブール代数の考え方を学修する。さらに前述の基礎知識をもとに、論理関数の単純化を学び、足し算を行う回路(加算器)や引き算を行う回路(減算器)などの回路構成の設計の仕方について学修する。
授業内容のレベル、 関連科目	コンピュータ回路の初学者向けの入門的な内容である。 「コンピュータ回路 II」を受講する場合、この「コンピュータ回路 I」を履修する事を強く勧める。 関連科目:情報システム、コンピュータ回路 II
授業外学修 (予習・復習)	(事前学習: 予習) ・教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。 ・試験前には教科書や作成したレポートを読み返すこと。 (事後学習: 復習) ・教科書をよく読み返しておくこと。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト	浜辺隆二,『論理回路入門(第3版)』, 森北出版株式会社(2005). ISBN:978-4-627-82363-1
参考書、その他教材	河崎 隆一, 安藤 隆夫, 清水 秀紀,『デジタル回路入門』, コロナ社(1990). ISBN:978-4339005769
成績評価方法・基準	科目修得試験:70% レポート:30% 以上を総合的に判断して評価する。
授業の形式・計画	下記の内容について学修する。 1. 数体系(テキスト:1.1 節) 基数変換と補数加算について学修する。 2. 符号体系(テキスト:1.2 節) BCD 符号などの符号と符号による誤り検出について学修する。 3. 基本論理演算 I(テキスト:2.1.1 項~2.1.2 項) ベン図と論理演算、真理値表について学修する。 4. 基本論理演算 II(テキスト:2.1.3 項) ブール代数の基本法則について学修する。 5. 基本論理演算 III(テキスト:2.1.4 項~2.1.5 項) 論理演算と論理記号、MIL 記号について学修する。 6. 論理関数の標準形と真理値表 I(テキスト:2.2.1 項~2.2.2 項) 加法標準形と乗法標準形について学修する。 7. 論理関数の標準形と真理値表 II(テキスト:2.2.3 項~2.2.4 項) 標準形とその真理値表について学修する。 8. 論理関数の標準形と真理値表 III(テキスト:2.2.5 項) 排他的論理和とその標準形について学修する。 9. 論理関数の単純化 I(テキスト:3.1 節~3.2 節) カルノー図を用いた単純化について学修する。 10. 論理関数の単純化 II(テキスト:3.3 節~3.4 節) カルノー図を用いた乗法形の単純化について学修する。 11. 論理関数の単純化 III(テキスト:3.5 節~3.6 節) クワイン・マクラスキー法による単純化について学修する。 12. 組み合わせ回路 I(テキスト:4.1 節~4.2 節) 組み合わせ回路の構成について学修する。 13. 組み合わせ回路 II(テキスト:4.3.1 項~4.3.2 項) 半加算器と全加算器について学修する。 14. 組み合わせ回路 III(テキスト:4.3.3 項~4.3.5 項) 半加算器と全加算器以外の加算器について学修する。 15. 組み合わせ回路 IV(テキスト:4.4 節) 減算器について学修する。

科目名	コンピュータ回路Ⅱ(Computer Circuit Ⅱ)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	村川 賀彦	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	コンピュータで扱われるハードウェアとソフトウェアの内、電気回路および電気部品を中心とするハードウェアについて、それらの機能的役割を中心に学びます。 本講義を通して、論理演算と論理回路、論理関数と標準形及び簡単化について理解できることを到達目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①, ④
学修内容	コンピュータ回路Ⅰで学修した基数変換やブール代数の基本法則、論理関数の簡単化などの基礎理論を基に回路の構成について学修する。加算器や減算器、比較器などの入力情報だけで出力が決まる組み合わせ回路を学び、次いで状態や状態遷移を伴うフリップフロップやレジスタ、カウンタなどの順序回路についても学修する。
授業内容のレベル、 関連科目	「コンピュータ回路Ⅰ」の応用的な内容となるため、「コンピュータ回路Ⅰ」を受講し、基礎理論となるブール代数や論理関数の標準形、真理値表、論理関数の簡単化などを理解していることが望ましい。 関連科目:情報システム、コンピュータ回路Ⅰ
授業外学修 (予習・復習)	(事前学習:予習) ・教科書を熟読してからレポート学習を開始すること。 ・試験前には教科書や作成したレポートを読み返すこと。 (事後学習:復習) ・教科書をよく読み返しておくこと。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト	浜辺隆二著、『論理回路入門(第3版)』, 森北出版株式会社(2005). ISBN:978-4-627-82363-1
参考書、その他教材	河崎 隆一, 安藤 隆夫, 清水 秀紀, 『デジタル回路入門』, コロナ社(1990). ISBN:978-4339005769
成績評価方法・基準	科目修得試験:70% レポート:30% 以上を総合的に判断して評価します。
授業の形式・計画	下記の内容について学修する。 1. 数体系と符号体系、論理関数(テキスト:1章~2章) 基数変換と補数加算などの数体系と符号や符号による誤り検出並びに論理関数とベン図、真理値表、ブール代数の基本法則などについて簡単に学修する。 2. 論理関数の簡単化(テキスト:3章) カルノー図を用いた論理関数の簡単化について体系に学修する。 3. 組み合わせ回路Ⅰ(テキスト:4.1節~4.4節) 半加算器や全加算器、減算器について学修する。 4. 組み合わせ回路Ⅱ(テキスト:4.5節) 比較器について学修する。 5. 組み合わせ回路Ⅲ(テキスト:4.6節~4.7節) エンコーダとデコーダ、マルチプレクサと出マルチプレクサについて学修する。 6. 順序回路(テキスト:5.1節~5.2節) 現在の状態と入力から次の状態と出力を決定する順序回路について学修する。 7. フリップフロップⅠ(テキスト:5.3.1項) 2つの安定点があるフリップフロップ(FF)回路について学修する。特にセットやリセットを入力に持つSR-FFについて学修する。 8. フリップフロップⅡ(テキスト:5.3.2項) トグル動作という出力の反転動作を入力Tによって制御するT-FFについて学修する。 9. フリップフロップⅢ(テキスト:5.3.3項) SR-FFに状態遷移を制御する入力を加えたJK-FFについて学修する。 10. フリップフロップⅣ(テキスト:5.3.4項) 状態遷移制御の入力先駆けて次の状態Dを入力するD-FFについて学修する。 11. 応用方程式と入力方程式(テキスト:5.4節) 順序回路の応用方程式と入力方程式について学修する。 12. レジスタの設計Ⅰ(テキスト:5.5.1項) 1ワード単位で情報を取り扱うレジスタについて学修する。 13. レジスタの設計Ⅱ(テキスト:5.5.2項) けたの移動であるシフトを行うシフトレジスタについて学修する。 14. カウンタの設計Ⅰ(テキスト:5.6.1項) 2 ⁿ 進数カウンタについて学修する。 15. カウンタの設計Ⅱ(テキスト:5.6.2項~5.6.3項) N進数カウンタについて学修する。

科目名	コンピュータネットワーク論 (Computer Network)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	森倉 悠介	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	今日の情報化社会においては、インターネットによる通信が重要性を増していますが、この科目では、その基本となるコンピュータ間のデータ通信に関する基礎を学びます。 現代の複雑・高度な通信技術を学修するために必要なデータ通信技術の基本について、ハードウェアとソフトウェアの両側面から理解することを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④
学修内容	今日の情報化社会においては、インターネットによる通信が重要性を増しています。このようなコンピュータネットワークにおける通信は、プロトコルと呼ばれる通信規定により支えられています。 本講義では、コンピュータネットワークの構造、通信方式、プロトコルの実際などについてLAN(ローカルエリアネットワーク)の構成を主体として学びます。
授業内容のレベル、 関連科目	コンピュータに関する工学技術の学修ですから、ある程度のコンピュータ(ハードウェア、ソフトウェア)関連知識が必要となります。
授業外学修 (予習・復習)	まず、人とのデータ(音声)通信技術である電話はどのようにしてつながるのかをWebなどで調べてみてください。また、レポート作成に当たっては、下記のテキストをよく読んでください。 この科目で基礎がわかってきたら、次はインターネットの仕組み(ハードウェア、ソフトウェア)の理解にチャレンジしてください。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	松下温、重野寛、屋代智之共著「コンピュータネットワーク」オーム社(2000) ISBN:9784274132131
参考書、その他教材	A.S. タネンバウム著「コンピュータネットワーク」第4版日経BP社(2003) 「基礎から身につくネットワーク技術」シリーズ 日経BP社
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1章 コンピュータネットワークとは 第2章 アーキテクチャの階層化はなぜ必要か 第3章 コンピュータネットワークと通信網 第4章 通信プロトコル設計の基本的な考え方 第5章 インターネット 第6章 ローカルエリアネットワーク 第7章 代表的なLAN 1(ポーリング方式とトークンパッシング方式) 第8章 代表的なLAN 2(コンテンション方式) 第9章 代表的なLAN 3(スイッチ技術によるLAN) 第10章 代表的なLAN 4(無線LAN) 第11章 ホームネットワーク(IEEE1394) ⑫～⑮ まとめ

科目名	情報システム	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	磯部 大	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	【授業のねらい】高度情報化社会で活用される情報システムを正しく理解するに、コンピュータなど IT 技術の理解を基礎にその IT 技術がどのような業務にどのように活用されているのかを理解することが必要不可欠です。本科目は、社会で活用されている情報システムについて技術面、導入効果など関連する論点をほぼ全て網羅して学びます。【到達目標】情報システムの概要が理解できるようになること。【卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性】①、②
学修内容	最初に社会的背景から情報システムの必要性などを学び、次に企業の中での利活用意義を学びます。次に、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの技術の概要を学び、新分野における情報システムの展開を学び、最後に代表的な情報システム例と情報システムの開発などを学びます。 なお、各課題は次のような学修方法を想定して出題しています。 第1課題:教科書全体を第1章～第15章をまずは通読し用語や概念などを理解する。 第2課題:さらに教科書を精読し、社会の中での実地応用も考えながら理解を深める。 ですので必ず繰り返し教科書を学修するようにして下さい(教科書を読まずに課題だけ出すようなことがないように)。また、サブテキストは課題の補足説明なども記載しているため必ず参照すること。
授業内容のレベル、 関連科目	・原則として、 情報科学論ほか情報関連科目レベルの知識があることを前提とします。 ・関連科目:情報科学論、経営情報技術ほか情報関連科目
授業外学修 (予習・復習)	予習:教科書を熟読し、IT 技術でわからない箇所はサブテキストやインターネット等で確認してからレポート学習を開始すること。 復習:教科書やサブテキストの該当箇所を読み返しておくこと。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト	「経営情報システム 第4版」(ISBN978-4-502-09170-4), 宮川公男・上田泰編著, 中央経済社
参考書、その他教材	本科目サブテキスト(本学)
成績評価方法・基準	レポートおよび科目修得試験の結果を総合的に評価します。
授業の形式・計画	第1回 第1章 情報化社会における企業経営 第2回 第2章 企業活動と情報システム 第3回 第3章 情報社会を支える情報技術の基盤 第4回 第4章 新たな情報処理技術とその活用 第5回 第5章 ナレッジマネジメント 第6回 第6章 SCMにおける情報技術と組織能力 第7回 第7章 IT投資の効果とその測定 第8回 第8章 ビジネスプロセス 第9回 第9章 インターネットビジネスの戦略とビジネスモデル 第10回 第10章 消費者向けネットビジネスとインターネット・マーケティング 第11回 第11章 経営情報システムの諸概念 第12回 第12章 意思決定を支援する応用ソフトウェア 第13回 第13章 オフィス情報システムとEUC 第14回 第14章 情報システムの計画・設計・開発 第15回 第15章 情報システムの運営と管理

科目名	ネットワーク演習／情報通信(Information and Telecommunication)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	遠藤 和紀	授業形態	スクーリング科目(E)

授業のねらい及び到達目標	情報通信に関わる基礎的な内容を理解し、基本的なネットワークを自分で構築でき、また、ネットワークに関するトラブルに対して、ある程度自力で解決出来るレベルに達することを到達目標とする。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①, ②						
学修内容	本講義は、座学によるネットワークに関する基礎知識の習得とコンピュータを用いたネットワーク構築による演習とで構成する。演習は、以下のことを行うことにより、簡単な Local Area Network(LAN)を実際に受講生が構築し、通信ができる仕組みを学修する。 1. OS のインストールと OS のネットワーク設定 2. ファイル/Web サーバー構築						
授業内容のレベル、関連科目	コンピュータを用いた実習形式で講義を進めるため、Microsoft Office を用いた文書を作成できること、ブラウザを用いて情報を検索できること等、基本的なコンピュータリテラシーがあることを前提として講義を行う。(例えば、コンピュータ演習 I の講義レベル) ※正科生(3年次編入含む)は入学初年度に本科目を履修することはできません。 関連科目:情報システム、インターネット工学、コンピュータネットワーク論						
授業外学修(予習・復習)	事前学習(予習):高校の「情報 I」のネットワークに該当する章を熟読し理解しておくこと。 講義では、実習形式でサーバーを構築していくため、講義中に行ったサーバー構築の設定などを復習として自宅ですとめる作業が必要である。 また、講義でネットワークを構築することにより、ネットワークの用語を理解した上で、より発展的な知識を習得するため、下記の参考書を読んで学修すること。 授業外学修に必要な時間:60 時間						
使用テキスト	指定しない。必要な資料は講義中に配布する。						
参考書、その他教材	・ 左門至峰、『ストーリーで学ぶネットワークの基本』, インプレス (2021). ISBN: 978-4295006053. ・ Gene, 『おうちで学べるネットワークのきほん』, 翔泳社 (2012). ISBN: 978-4798125268. ※ 事前に予習として読んでくる必要はない。講義をある程度受講した段階で、自分に合った参考書を選んで読むのが望ましい。						
成績評価方法・基準	5 回の理解度確認テストを総合して評価する(1・2 回:20%, 3・4 回:40%, 5 回:40%, 合計 100%)。但し、基本的なネットワークを構築できるようになることが到達目標の一つであるため、全ての講義に出席して演習に臨み、技術を習得することが前提である。そのため、講義に臨む姿勢などについても評価の対象とする(最大で 50%減点をする可能性あり)。なお、メディア授業については、動画視聴後に実施する理解度確認テストの合格を以て出席があったものとみなす。						
授業の形式・計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 1 回 講義の概要 第 2 回 ネットワークの基礎 第 3 回 クライアントサーバーシステム、第 1～3 回のまとめ 第 4 回 IP アドレスの計算 第 5 回 インターネットと Web サーバー 第 6 回 仮想環境、第 4～6 回のまとめ 第 7 回 仮想マシンのインストール、IP アドレスの設定 第 8 回 ファイルサーバーの構築 第 9 回 第 7, 8 回のまとめ 第 10 回 リモートアクセスとユーザ権限 第 11 回 DNS とプリンターの設定、Web サーバー構築 第 12 回 第 10, 11 回のまとめ 第 13 回 第 1～12 回の復習 1 第 14 回 第 1～12 回の復習 2 第 15 回 講義のまとめ </td> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding: 0 10px;">}</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">メディア授業 (オンデマンド)</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第 13 回 第 1～12 回の復習 1 第 14 回 第 1～12 回の復習 2 第 15 回 講義のまとめ </td> <td style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding: 0 10px;">}</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">対面授業</td> </tr> </table> <p>※第 1～6 回のメディア授業は、第 7 回に先行して受講しておくこと。 ※第 3, 6, 9, 12, 15 回は、講義内でそれぞれ理解度確認テスト 1, 2, 3, 4, 5 を行う。</p>	第 1 回 講義の概要 第 2 回 ネットワークの基礎 第 3 回 クライアントサーバーシステム、第 1～3 回のまとめ 第 4 回 IP アドレスの計算 第 5 回 インターネットと Web サーバー 第 6 回 仮想環境、第 4～6 回のまとめ 第 7 回 仮想マシンのインストール、IP アドレスの設定 第 8 回 ファイルサーバーの構築 第 9 回 第 7, 8 回のまとめ 第 10 回 リモートアクセスとユーザ権限 第 11 回 DNS とプリンターの設定、Web サーバー構築 第 12 回 第 10, 11 回のまとめ 第 13 回 第 1～12 回の復習 1 第 14 回 第 1～12 回の復習 2 第 15 回 講義のまとめ	}	メディア授業 (オンデマンド)	第 13 回 第 1～12 回の復習 1 第 14 回 第 1～12 回の復習 2 第 15 回 講義のまとめ	}	対面授業
第 1 回 講義の概要 第 2 回 ネットワークの基礎 第 3 回 クライアントサーバーシステム、第 1～3 回のまとめ 第 4 回 IP アドレスの計算 第 5 回 インターネットと Web サーバー 第 6 回 仮想環境、第 4～6 回のまとめ 第 7 回 仮想マシンのインストール、IP アドレスの設定 第 8 回 ファイルサーバーの構築 第 9 回 第 7, 8 回のまとめ 第 10 回 リモートアクセスとユーザ権限 第 11 回 DNS とプリンターの設定、Web サーバー構築 第 12 回 第 10, 11 回のまとめ 第 13 回 第 1～12 回の復習 1 第 14 回 第 1～12 回の復習 2 第 15 回 講義のまとめ	}	メディア授業 (オンデマンド)					
第 13 回 第 1～12 回の復習 1 第 14 回 第 1～12 回の復習 2 第 15 回 講義のまとめ	}	対面授業					

科目名	情報通信システム (Information and Telecommunications System)	年次・単位	2 年次・2 単位
担当者名	米澤 直記	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>情報通信システムの要素技術、およびそれらを組み合わせた情報通信システムの全体像を履修者が修得することを到達目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>スマートフォンやクラウドコンピューティングに代表されるような情報通信システムが身近なものになり、社会のあり方を変えるほどの影響を与えています。Twitter による情報交換、ブログサービスによる情報発信など、新しい情報通信技術を使った仕組みが日常生活にまで浸透しつつあります。</p> <p>現在のシステムは、電気通信技術、集中・分散コンピューティング技術、移動体通信技術、放送技術、メディア処理技術、ネットワークセキュリティ技術など非常に多くの技術の複合体のため、これまでの学問体系に収まらない広がりを持っています。この科目では、基本から現在の革命的な技術、さらに今後の情報社会への展開まで、体系的に情報通信システムの本質と全体像を学びます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目:情報科学論、情報システム、情報通信</p> <p>PC やスマートフォン等のネットワーク関連の設定項目を自力で設定し、有線 LAN や無線 LAN に接続した経験があることが望ましい。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習:教科書をただ読むだけでなく、手近なコンピュータやスマートフォンのネットワーク関連の設定項目を調べること。</p> <p>事後学習:コンピュータネットワーク関連の複数の書籍を比較対照することにより、各トピックについてより深く理解すること。授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	『情報通信システム改訂版[電気・電子系教科書シリーズ]』(岡田正、桑原裕史、コロナ社、2007) ISBN:9784339012125
参考書、その他教材	『決定版クラウドコンピューティングーサーバは雲のかなたー』(加藤英雄、共立出版、2011) ISBN:9784320122918
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報通信の歴史 2. ネットワーク 3. 通信サービスの基本事項 4. 標本化と符号化 5. デジタルネットワーク 6. ネットワークアーキテクチャ 7. 通信プロトコル 8. LAN とインターネット 9. ネットワークサービスーインターネットアプリケーションー 10. ATM とマルチメディア通信 11~15 まとめ

科目名	情報科学論 (Information Science)	年次・単位	1年次・4単位
担当者名	今中 厚志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	社会生活において、PC等の情報機器を有効かつ安全に活用していく上で必要なコンピュータとネットワークに関する基礎知識を身につけることを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:②④
学修内容	コンピュータ関連科目を学んでいく上で基礎となる内容です。 (1)情報とコンピュータの基礎 (2)コンピュータのハードウェア・ソフトウェア (3)コンピュータネットワークの基礎と応用 (4)情報社会の課題
授業内容のレベル、 関連科目	・授業内容のレベル: コンピュータの仕組みや活用に関する基礎的な事項 ・関連科目: 情報関連科目と密接な関連があります。
授業外学修 (予習・復習)	予習: 当該レポートに関連する教科書等の部分を十分学習してレポートに取り掛かりましょう。 復習: レポートの添削結果を吟味し、正しい知識の定着を図りましょう。 授業外学修に必要な時間: 120時間
使用テキスト (教科書)	情報科学論(manabaの科目コースにて公開)
参考書、その他教材	・情報科学入門[第2版] 伊東俊彦著(ムイスリ出版) ISBN:978-4-89641-186-7 ・文系学生がまなぶ情報学 大内東編 小林仁 ほか著(コロナ社) ISBN: 978-4-339-02466-1
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第 1 回 コンピュータの歴史 第 2 回 ハードウェアの基礎 第 3 回 ソフトウェアの基礎 第 4 回 情報の表現 第 5 回 まとめ 第 6 回 プログラムの基礎 第 7 回 データベース 第 8 回 データ通信の基礎 第 9 回 コンピュータネットワーク 第 10 回 まとめ 第 11 回 インターネットの活用 第 12 回 ネットワーク社会の情報セキュリティ 第 13 回 情報保護の監査 第 14 回 ユビキタス・コンピュータ社会 第 15 回 まとめ

科目名	情報社会と倫理	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	今中 厚志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>情報化の進展は利便性をもたらす反面、新たなトラブルを誘発する面があり、情報倫理の重要性がますます認識されるにいたっている。情報倫理の基本を学習し、倫理という側面から情報社会についての認識を深めることがこの科目のねらいである。学生が基本的な情報倫理を身につけ、社会の責任ある一員としてインターネットを発展育成させる能力を持つことが到達目標である。卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②③④</p>
学習内容	<p>インターネットの世界でありがちな事例を検討しながら、情報倫理を学び、監視社会の諸問題など情報社会について考察する。学生は、単にテキストに書いてあることを覚えるのではなく、サブテキストの指針・研究課題にそって、それらを批判的に吟味・理解し、関連する問題を自主的に文献その他で(とくにインターネットを実際に使用して)調べ、考えることが求められる。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>専門的な知識はとくに必要としない。インターネットを利用した体験があり、社会的問題に興味があれば十分に受講可能である。「法学概論」「企業と情報法制」「情報文化史」「情報文化論」など。</p>
授業外学習 (予習・復習)	<p>[事前学習] 新聞やネットを利用し、ネットやスマートフォンに関連した事件に注目し、何が問題か、自分で考えてみる。 [事後学習] 学んだことは直ちに実践する。またテキストやサブテキストで挙げた事例、最近の類似の事例等をさらに調べ検討し、自分の考えを文章にまとめる。授業外学習に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<p>大橋真也ほか『最新情報モラル 高校版』日経BP社 ISBN: 978-4536253093</p>
参考書、その他教材	<p>(参考書)文化庁「著作権テキスト(令和2年版)」(PDFファイル)そのほか文化庁、公益社団法人著作権情報センター(CRIC)のWEBサイト上の資料・教材。</p>
成績評価方法・基準	<p>レポートと科目修得試験の結果を総合的に評価する(科目修得試験70%、レポート課題30%)。</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理と法(1)—情報倫理とはいかなる問題領域か? 2. 倫理と法(2)—法と倫理を歴史的に考える 3. インターネットの世界 4. メールのマナー 5. プライバシー権と通信の秘密 6. 社内メールをめぐる諸事例を考える 7. レポート作成のマナー 8. 剽窃(ひょうせつ) 9. 著作権制度の概要とその目的 10. 著作権制度の諸問題 11. プレゼンテーションのマナー 12. ネットワーク社会との付き合い方 13. 表現の自由とその限界 14. SNSと匿名性をめぐる問題—「炎上」 15. 情報社会を考える—新しい文化と監視社会

科目名	情報社会と職業 (Information Society and Vocational)	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	内野 雅一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	東西冷戦構造の崩壊、情報技術の高度化、インターネットの普及などより、1990年代以降、経済のグローバル化が急速に進みました。その結果、企業の経営環境は劇的に変化し、わが国では、産業構造の変化、就業構造の変化、雇用の流動化などが起こりました。当科目では、このような経済・経営環境の大きな変化を踏まえ、情報社会における職業のあり方とキャリア形成、仕事の取り組み方、企業における教育と人材育成について学びます。また、情報社会における大きな課題である情報倫理、情報セキュリティ、危機管理についての知識習得を目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	① 情報社会における職業のあり方 ② 情報社会における仕事の取り組み方 ③ 情報社会における企業教育と人材育成 ④ 情報社会における職業倫理と危機管理
授業内容のレベル、 関連科目	特に専門的な知識を必要としません。テキストをよく読み、要点をノートにまとめるなどの通常の学修を行えば、理解できる内容です。
授業外学修 (予習・復習)	最初にテキストを通読し、情報社会の全体像を把握してください。そのうえで、4つのテーマごとに再度テキストを読み、要点をまとめ、課題レポートに臨んでください。また、課題レポートが返却されたらコメントを読み、課題のテーマについて理解を深めてください。授業外学修に必要な時間:120時間
使用テキスト	『情報と職業』 近藤勲編著 丸善出版 ISBN978-4-621-02806-5
参考書、その他教材	
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 情報社会における職業のあり方 <ol style="list-style-type: none"> 情報社会と職業 (第1章第1-4節) 日本経済の変遷 (第1章第2節) 高齢化社会と社会保障 (第2章第2節) 高学歴社会 (第2章第3節) 労働と余暇 (第2章第4節) 第1回課題レポート 情報社会における仕事の取り組み方 <ol style="list-style-type: none"> キャリア形成 (第3章第1-3節) IT革命 (第4章第2節) 企業組織の情報化 (第4章第3節) 企業が求める人材像 (第4章第6節) 情報技術を利用した協調/協働システム (第7章第1節) 情報技術と消費行動の変化 (第7章第2節) 第2回課題レポート 情報社会における企業教育と人材育成 <ol style="list-style-type: none"> 学習する組織とコンピテンシー学習 (第3章第2節) 情報処理技術者とITスペシャリスト (第4章第6節) 企業の人材育成 (第5章第1節) 情報技術と公的資格 (第5章第2節) 情報技術を活用した企業教育 (第5章第3節) 情報産業における職制と職種 (第5章第4節) 第3回課題レポート 情報社会における職業倫理と危機管理 <ol style="list-style-type: none"> 情報社会における危機管理 (第2章第1節) 企業・組織体のセキュリティ (第4章第5節) 情報産業におけるビジネスモデルと倫理 (第6章第4節) メディア融合と情報公開 (第7章第3節) 知的財産の保護 (第7章第4節) 第4回課題レポート (注) ()内の章および節は、テキストの参照箇所を示します。

科目名	情報と施策 (Information and Enforcement of Policy)	年次・単位	2 年次・2 単位
担当者名	佐々木良壽	授業形態	スクーリング

授業のねらい 及び到達目標	不特定多数の大衆に向けて情報を伝達するマスコミュニケーション。その中心的な担い手となってきた新聞を軸に、多様化が進むメディアの現状と課題について、歴史的、国際的な視点も交えて学ぶことでジャーナリズムが果たす社会的な役割を理解し、ニュースを批判的に読むことで情報の真偽を見極めることができるようになる。
学修内容	メディアの現場について理解を深め、社会人となるためにふさわしい常識を身に付ける。授業では受講生が関心を持つニュースについて、意見交換することもある。また、新聞の社説を読み、記事の縮約をすることで、文章力を鍛える。小レポートを課すこともある。さらに、授業では新聞社の投書欄に投稿するために、投書を書く。
授業内容のレベル、 関連科目	予備知識は求めない。日々のニュースに関心を持つことが求められる。
授業外学修 (予習・復習)	新聞やテレビ、ネットサイトなどを通じて発信されるニュースに関心を持ち、自分の意見、分析を試みる。授業で配布されたレジュメなどを参考に授業内容を復習することで、ニュースの読み方を深化させる。 授業外学修に必要な時間:約 60 時間
使用テキスト	特になし。レジュメや参考記事を配布する。
参考書、その他教材	ジャーナリズムの思想(原寿雄著 岩波新書)、図説日本のメディア(藤竹暁、竹下俊郎編著 NHK ブックス)、読売新聞用字用語の手引(読売新聞社)、記者ハンドブック(共同通信社)など。そのほか、適宜紹介する。
成績評価方法・基準	最終レポート50%、平常点(授業内の発言状況、態度、積極性などを総合的に評価50%として総合評価する。
授業の形式・計画	第1回 オリエンテーション 授業の目的と進め方 第2回 メディアとの接触の現状 ニュース媒体の種類と特性を学ぶ 第3回 情報化社会の今「ポスト真実の時代」とは何か、その背景と影響を学ぶ 第4回 言論の自由 新聞とテレビの特性の違い、メディアを取り巻く法的な規制などを学ぶ 第5回 報道の自由とプライバシー 報道の自由とプライバシーとの緊張関係を考える 第6回 新聞入門 新聞が各家庭に届くまでの過程、新聞の構成、新聞の効率的な読み方などを学び、日本の新聞界の現状を考える 第7回 権力とメディア 新聞、特に政治面がどのように作られているのかを学ぶことを通じて、メディアと権力の関係を考える 第8回 社説を読む 新聞各社の社説を読み比べながら、新聞と政治の関係を学ぶ 第9回 世論とは何か メディア各社による世論調査の役割などを学ぶ 第10回 投書を書く 新聞各社の投書欄の役割を学び、実際に投書を書いてみる 第11回 国際ニュースと対外発信 国際ニュースはどのように発信され、逆に国内のニュースはどのように対外発信されるのかを学ぶ 第12回 米国ジャーナリズムの今 世界のジャーナリズムがモデルとしてきた米国ジャーナリズムの現状を考える 第13回 SNSと政治 インターネットの特性と限界を学ぶとともに、中東を揺るがした「アラブの春」や2020年米大統領選に絡む連邦議事堂乱入事件などを題材に、SNSの持つ衝撃力と危険性を考える 第14回 報道とファクトチェック 近年、世界のメディア界で叫ばれるファクトチェックの必要性について学ぶ 第15回 まとめ 多様化するメディアと報道の今後について考える (国内外の情勢に応じて内容が変更になる場合もある)

科目名	情報文化論 (Information Culture)	年次・単位	1 年次・4 単位
担当者名	松村 紀明	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	現代は情報化社会と言われており、様々な IT(インフォメーション・テクノロジー)が身の回りに氾濫しています。本科目では、各受講生がそれらに振り回されずに主体的・能動的に関っていくための手がかりをつかむことを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	20 世紀の終わりから 21 世紀のはじめの文明史的出来事とされるいわゆる「IT 革命」は、我々人類にどのような可能性をもたらすのでしょうか。「スマートフォン」「インターネット」「ビッグデータ」「SNS」「AI」な身近な事例をあげつつ、その視点から「IT 革命」について検討します。もちろん、これらは我々に大きな利益をもたらしてはいますが、個人情報漏洩などの負の側面も持っています。正と負の両面から「IT 革命」について考察を試みるのが、この科目の目的です。
授業内容のレベル、 関連科目	現代社会、特に IT(インフォメーション・テクノロジー)に関する一般常識知識を必要とします。 「情報文化史」、「メディアの活用」
授業外学修 (予習・復習)	IT の諸側面についての科目であり、レポート課題のテーマも「スマートフォン(スマホ)」や「ビッグデータ」ということで、皆さんの日常生活とも深く関わり、かつ、関連する報道(新聞・テレビ・ネット)は諸方面・諸分野に渡ります。問題意識をもって、日常生活を送り、かつ、報道を読んだり聞いたりすることが必要となります。そのなかで気がついたことを、使用テキストなどを読み直しながらかつて再考して下さい。 授業外学修に必要な時間:120 時間
使用テキスト	小川和也『デジタルは人間を奪うのか』講談社現代新書 (ISBN-13:978-4062882835)、 宮下紘『ビッグデータの支配とプライバシー危機』集英社新書 (ISBN-13:978-4087208740)
参考書、その他教材	近年のスマホやビッグデータと深い関係のある AI の動向については、小林雅一『AI が人間を殺す日 車、医療、兵器に組み込まれる人工知能』集英社新書 (ISBN-13:978-4087208900)を薦めます。その他については、サブテキスト内で指示します。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	使用テキストや参考書などを参考にしながら、以下の諸課題について受講生が自ら調査を行い、それを基に自ら議論を組み立ててもらいます。 (1)スマートフォン(スマホ)と、人々のコミュニケーションについて (2)スマートフォン(スマホ)と現代社会について (3)「ビッグデータ」の有用性について (4)「ビッグデータ」と個人情報保護について

科目名	情報文化史 (History of Information Culture)	年次・単位	2 年次・4 単位
担当者名	松村 紀明	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>現代は情報化社会と言われており、我々は様々な IT(インフォメーション・テクノロジー)から得られる数多くの情報を利用しながら生活を送っています。本科目では、各受講生がそれらに振り回されずに主体的・能動的に関っていくための手がかりをつかむことを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>20 世紀の終わりから 21 世紀のはじめにかけて登場してきた「IT(インフォメーション・テクノロジー)」によって現代社会は大きな影響を受け、現代は「情報化時代」とも言われます。しかしながら、我々人類はそれ以前に「情報」を扱う(術=テクノロジー)を持たなかった訳ではありません。それは、「文字」でありそれを書き記した紙をまとめたものが「本・書物」です。この「本・書物」が、我々人類の歴史や社会において、どのような役割を担いどのような影響を与えてきたのかを考えます。</p>
授業内容のレベル、関連科目	<p>日本史と世界史に関する一般常識知識を必要とします。 「情報文化論」、「メディアの活用」</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>「本・書物」を通じて、日本史・世界史の諸側面について考える科目ですので、関連するできごとは多方面・諸分野に渡ります。まず与えられたテーマ(レポート課題)について、自らの問題意識から具体的な対象を選び、主体的に調査・考察を行いながら、さらにそれらを絞り込み掘り下げていくことが必要となります。レポート課題についての図書館などでの文献調査が主な授業外学修となります。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120 時間</p>
使用テキスト	<p>樺山紘一(編)『図説 本の歴史』河出書房新社 (ISBN-13:978-4309761695)</p>
参考書、その他教材	<p>参考書、参考文献などについては、サブテキスト内で指示します。</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>使用テキストや参考書などを参考にしながら、以下の諸課題について受講生が自ら調査を行い、それを基に自ら議論を組み立ててもらいます。</p> <p>(1) 宗教と「本・書物」について</p> <p>(2) 江戸時代の庶民文化と「本・書物」について</p> <p>(3) 学問・科学と「本・書物」について</p> <p>(4) 現代の「本・書物」と読まれ方について</p>

科目名	メディアの活用 (Utilization of Media)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	松村 紀明	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	現代は情報化社会と言われており、様々な「メディア」が身の回りに氾濫しています。本講義では、各受講生がそれらに振り回されずに主体的・能動的に関わっていくための手がかりをつかむことを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②
学修内容	私たち人間は、他人との意思疎通なくしては生きて行けません。先史時代においてそれは音(はなし言葉)によって行われていたのですが、文明の発達とともに、情報の記録・伝達・保管のためのモノや装置が開発されるようになりました。これがすなわち「メディア」です。メディアは、我々の生活を豊かにし、文化・学術を発展させてきました。本講義では、そのメディアについて、様々な側面・事例から検討を加えていきます。
授業内容のレベル、 関連科目	現代社会・日本史・世界史の知識をある程度必要としますが、必要に応じてそれらの補充説明をします。
授業外学修 (予習・復習)	「メディア」の諸側面についての講義ですので、関連する報道(新聞・テレビ)は諸方面・諸分野に渡ります。それらに対して、問題意識をもって読んだり聞いたりするようにして下さい。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト	プリントをこちらで用意します。
参考書、その他教材	必要な参考書がある場合は、項目毎に授業内で紹介します。
成績評価方法・基準	授業内レポート・授業内応答および授業内試験(小論文形式を予定)の結果を総合的に評価します。評価比率は、授業内試験 60%、授業内レポート・授業内応答 40%です。
授業の形式・計画	1、メディアとは何か? その本質は何か? 2、科学や芸術とメディア 3、大学の登場と解剖 4、ルネサンスとは 5、ルネサンス絵画とヨーロッパの解剖図 6、日本における解剖のはじまり「蔵志」 7、「蔵志」と「解体新書」と浮世絵の共通性 8、江戸時代の数学、和算 9、和算と算額 10、現代社会とメディア 11、臓器移植とIT技術 12、Google 革命 13、ITと個人情報 14、マンガと地域社会 15、まとめ(博物館などの見学) ※注意:参加者の構成などによっては、上記内容を入れ替える場合があります。また、授業時間内に博物館などへの見学も考えています。その際には入場料は実費負担となりますのでご了承下さい。

科目名	インターネット工学 (Internet Engineering)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	遠藤 和紀	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>インターネットを成立させている通信技術およびコンピュータ関連技術について学修し、高校生や一般の人々にインターネットを成立させている技術の概要を伝えるとともに、その正しい使い方について説明できるようになることを目標とする。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>現代社会に必要不可欠なインターネットについて、工学的な観点から、その基本的な仕組みと利用されている技術について学ぶ。</p> <p>インターネットの基本思想、インターネットとは何かを理解した後、パケット交換による情報伝達の原理や、インターネットのプロトコルであるTCP/IPの基礎を学修する。さらに、WWWや電子メールなどのアプリケーションの仕組みを学修する。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	「インターネット工学」は、「工学」的観点からインターネットというシステムを学修する科目である。したがって、ある程度のコンピュータ(ハードウェア、ソフトウェア)関連知識が必要となる。
授業外学修 (予習・復習)	<p>第1回レポートは、テキストの第5章までに記載されている内容を学修して要約することが主眼となる。テキストをよく読んでから作成すること。</p> <p>第2回レポートでは、TCP/IPによる通信やウェブサイトを支える技術を学修し、理解することが主眼となる。テキストに加え、参考書や各種書籍、ウェブで、TCP/IPによる通信技術やウェブサイトによる情報配信に関する技術について学修すること。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	小林浩・江崎浩著「インターネット総論」共立出版(2002) ISBN:9784320120396
参考書、その他教材	みやたひろし著「図解入門TCP/IP」SBクリエイティブ(2020) ISBN:9784815604974
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットの基本概念 (テキスト:第1章) 2. インターネット層 (テキスト:第2章) 3. 物理/データリンク層 (テキスト:第3章) 4. まとめ1 (テキスト:第1~3章) 5. トランスポート層 (テキスト:第4章) 6. ディレクトリサービスと電子メール (テキスト:第5章) 7. World Wide Web (テキスト:第6章) 8. まとめ2 (テキスト:第4~6章) 9. セキュリティ (テキスト:第7章) 10. 次世代インターネット技術 (テキスト:第8章) 11. システム設定と運用管理 (テキスト:第9章) 12. まとめ3 (テキスト:第7~9章) 13. インターネットビジネス (テキスト:第10章) 14. サイバースペースの統治 (テキスト:第11章) 15. まとめ4 (テキスト:第10~11章)

科目名	オペレーションズリサーチ (Operations Research)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	米澤 直記	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>オペレーションズリサーチは、当初、軍事目的で開発されたが、現在では企業経営の効率化の手法として研究・応用されている。具体的には、企業経営の諸問題を解決するために、それらの問題を数学的に表現し、解を求めることにより、よりよい解決方法を提示する。解を求めるにあたっては、コンピュータの力を借りることも少なくない。オペレーションズリサーチは、1つの手法というより、様々な問題解決手法の集まりである。本授業では、それらの手法に対する理解、および問題に適用するための基礎的な力を養うことを到達目標とする。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	オペレーションズリサーチを構成する諸手法について、基本的概念、数学的表現、応用を学び、例題による学習を通して理解を深める。
授業内容のレベル、 関連科目	高校までの数学(数学I、AからIIIまで)の内容と、線形代数の基礎知識を前提とします。
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習:教科書をただ読むだけでなく、紙と鉛筆を用いて、教科書で述べられる式の展開を確認すること。</p> <p>事後学習:オペレーションズリサーチ関連の複数の書籍を比較対照することにより、各トピックについてより深く理解すること。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	『経営情報処理のためのオペレーションズリサーチ(情報・技術経営シリーズ)』(栗原 謙三、明石 吉三、コロナ社、2000)
参考書、その他教材	『オペレーションズ・リサーチ(経営システム工学ライブラリー)』(森雅夫、松井知己、朝倉書店、2004) ISBN: 9784254275384
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オペレーションズリサーチとはなにか 2 線形計画法 3 ネットワーク分析 4 ダイナミックプログラミング 5 待ち行列 6 シミュレーション 7 階層化意思決定支援手法 8 日程計画管理手法 9 在庫管理 10 需要予測 11~15 まとめ

科目名	人工知能	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	吉岡剛志	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	人工知能の研究は「考える機械」をつくることを目的としている。ここで考える機械とは、物体を認識したり、自然言語を理解したり、問題を解いたりすることのできる機械のことである。このような機械の実現のためには、コンピュータ技術はもちろん、他の様々な分野の成果が統合されて初めて可能となる。そこで、本講義では、人工知能とは何か、人工知能の工学的意義は何か、から初めて、人工知能に関する様々なテーマを取り上げて、人工知能の全体像を理解することを目標とする。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①, ②																
学修内容	人工知能について学習するためには、コンピュータ技術はもちろんではあるが、それ以外に数学や論理学などの知識が必須となる。よって、アルゴリズムや記号論理学など、人工知能の学習に必須となる知識から習得し、人工知能のテーマを学習する。																
授業内容のレベル、 関連科目	人工知能に関する概要を理解する内容であるが、人工知能を理解するためには数学の知識は必須となる。理系の大学初級程度の数学や論理学の知識は必要となる。																
授業外学修 (予習・復習)	(事前学習:予習) ・教科書, 及びサブテキストを熟読してからレポート学習を開始すること。 ・試験前には教科書, サブテキストと作成したレポートを読み返すこと。 (事後学習:復習) ・教科書, 及びサブテキストをよく読み返しておくこと。 授業外学修に必要な時間: 60 時間																
使用テキスト	『人工知能の基礎』, 978-4781912172, 小林 一郎, サイエンス社.																
参考書、その他教材	特に指定しない。 ※ 但し、教科書を読み進めるにあたり、理系の大学初級程度の数学の知識を必要とする。理系の大学初級程度の数学の知識が不足している学生は、必要に応じて該当する分野の本を参考にすること。																
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%, レポート 30%																
授業の形式・計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 人工知能概説</td> <td>9. プロダクションシステム</td> </tr> <tr> <td>2. 問題解決</td> <td>10. 知識の不確実性の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>3. 系統的探索法と発見的探索法</td> <td>11. 機械学習</td> </tr> <tr> <td>4. 問題分解法とゲーム探索</td> <td>12. ニューラルネットワーク</td> </tr> <tr> <td>5. 記号論理</td> <td>13. 遺伝的アルゴリズム</td> </tr> <tr> <td>6. 導出原理と論理プログラミング</td> <td>14. エージェント</td> </tr> <tr> <td>7. 意味ネットワークとオントロジー</td> <td>15. 自然言語処理</td> </tr> <tr> <td>8. フレーム理論とオブジェクト指向</td> <td></td> </tr> </table>	1. 人工知能概説	9. プロダクションシステム	2. 問題解決	10. 知識の不確実性の取り扱い	3. 系統的探索法と発見的探索法	11. 機械学習	4. 問題分解法とゲーム探索	12. ニューラルネットワーク	5. 記号論理	13. 遺伝的アルゴリズム	6. 導出原理と論理プログラミング	14. エージェント	7. 意味ネットワークとオントロジー	15. 自然言語処理	8. フレーム理論とオブジェクト指向	
1. 人工知能概説	9. プロダクションシステム																
2. 問題解決	10. 知識の不確実性の取り扱い																
3. 系統的探索法と発見的探索法	11. 機械学習																
4. 問題分解法とゲーム探索	12. ニューラルネットワーク																
5. 記号論理	13. 遺伝的アルゴリズム																
6. 導出原理と論理プログラミング	14. エージェント																
7. 意味ネットワークとオントロジー	15. 自然言語処理																
8. フレーム理論とオブジェクト指向																	

科目名	システム監査	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	磯部 大	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】誰かが行った行為を“正しい”と、第三者に論理的で客観性のある説明をすることは大変難しいことですよ。システム監査に限らず監査とは、その困難事を先人の試行錯誤、知恵などの蓄積により体系化したものです。さらに、システム監査は経営情報論といわば表裏の関係にあるとも言えます。情報システムをビジネスにいかにも有効に活用するかを考えることが経営情報論とするならば、システム監査はそれが“正しく”行えているかを検証するものかも知れません。システム監査を学べば、きっと色々なものが見えるようになるでしょう。本授業はその具体的な内容や手法等を担当教員の実務経験上のエピソードを交えながら学習します。</p> <p>また、システム監査は監査対象となる情報システムへの理解が前提となるので、受講生の要望によってはシステム監査の前段階に位置する、システムコンサルティングに関するグループ演習も取り入れる可能性があります。</p> <p>【到達目標】システム監査の実施手順についての各項目の内容と目的を理解できるようになること。 【卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性】①、③</p>
学修内容	<p>システム監査の全般にわたる内容を解説します。詳細は「授業の形式・計画」欄を参照して下さい。 ※この科目はIT関連企業の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業のレベル】原則として、下記関連科目のうち特に情報システム、経営情報技術の内容を理解していることを前提としますが、受講者の理解に不足があれば可能な範囲で都度、補います。また、何らかの社会人経験があれば尚このまじいと思われれます。</p> <p>【関連科目】情報システム、情報科学論、経営情報技術、監査論</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】スクーリング受講前に教科書を熟読し、用語等でわからないものはインターネット等で下調べをしておいて下さい。そして、内容面でわからない箇所を明確にして臨んで下さい。</p> <p>【復習】教科書や授業内容、小テスト(理解度確認テスト)を振り返り理解を確認すること。 授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<p>「よくわかるシステム監査の実務解説 改訂版」(ISBN978-4-495-19782-7), 島田祐次, 同文館出版 ※教科書は受講者の要望により、グループ演習も取り入れる可能性があるため、第1日目は購入せず教室に来て下さい。</p>
参考書、その他教材	<p>授業内で必要に応じ別途指示します。</p>
成績評価方法・基準	<p>原則として毎日のまとめとして実施する小テスト(理解度確認テスト)の結果の合計を70%、平常点を30%とし、総合的に評価する。</p>
授業の形式・計画	<p>【第1日目】 イントロダクション 第1章 システム監査の意義、第2章 システム監査の歴史、第1日目の振り返りと理解度確認テスト(1)</p> <p>【第2日目】 第3章 IT統制とシステム監査の概念、第4章 システム監査の推進体制と手順、第5章 システム監査におけるリスクアプローチ、第2日目の振り返りと理解度確認テスト(2)</p> <p>【第3日目】 第6章 システム監査の監査手続と技法、第7章 CATTs(コンピュータ利用監査技法)、第8章 監査判断と監査報告、第3日目の振り返りと理解度確認テスト(3)</p> <p>【第4日目】 第9章 システムのライフサイクルからみた監査ポイント、第10章 アプリケーションシステムの監査ポイント、第11章 テーマ監査のポイント、第4日目の振り返りと理解度確認テスト(4)</p> <p>【第5日目】 第12章 新しいITとシステム監査、第13章 今後の課題、第5日目の振り返りと理解度確認テスト(5)、全体のまとめ</p>

科目名	教職概論(Outline of School Teaching)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>現在のわが国の学校と子どもが置かれている状態を概観し、学校教育の意義や教師のあるべき姿について考察し、教職の意義や具体的な教師の仕事を理解する。教職をめざす学生諸君に教職に就くことの意味を各自の人生の中で考えることができるようなテーマを提供する。</p> <p>到達目標</p> <p>①教育をめぐる状況について理解できる</p> <p>②現代日本の教育と学校制度と学校(組織・制度等)について理解できる</p> <p>③教師に求められる役割や資質能力、職務内容、服務上、身分上の義務が理解できる</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④</p>
学修内容	<p>教職の意義と教師の仕事、教師の資質・能力、学校の組織運営、学校の間関係など幅広く教師に求められる役割や専門性について考察する。</p> <p>教育者としての使命感や子どもに対する責任について理解できるようなテーマについて考察する。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>教師を志望し、教員免許取得を目指す学生を対象とした授業を展開する。</p> <p>「関連科目」教育原理、教育制度</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習:まずテキストを熟読し、重要ポイントは何かを各自押さえてからレポート作成のための学修を開始する。さらに、参考図書からレポートに補うべき諸点を考察する。</p> <p>事後学習:再度テキストや参考文献を読み返し、重要な点を整理する。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>羽田積男・関川悦雄編『現代教職論』 弘文堂 2021年 ISBN978-4-335-00220-5</p>
参考書、その他教材	<p>田中智志・橋本美保監修 高橋勝編著『教職概論』 一藝社 2017年 ISBN978-4-86359-065-6</p> <p>西林克彦・近藤邦夫・三浦香苗・村瀬嘉代子編「教師をめざす」新曜社 2012年ISBN4788507072</p> <p>中谷彪・浪本勝年編著「現代の教育を考える」北樹出版 2006年 ISBN4779300541</p> <p>山崎清男編著「教育をまなぶ」川島書店 2006年 ISBN4761007915</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>第1回 教職の意義</p> <p>第2回 学校と教員の歴史1(戦前の師範教育と教員像)</p> <p>第3回 学校と教員の歴史2(戦後の教育改革と教員像)</p> <p>第4回 教員の養成 大学の教職課程とその学び方</p> <p>第5回 介護体験・教育実習</p> <p>第6回 教員の仕事と役割1(学習指導・校務分掌・学級経営・学校経営・生徒指導と進路指導)</p> <p>第7回 教員の仕事と役割2(道徳教育・教育相談・特別活動・部活動・保護者や地域との関わり)</p> <p>第8回 教員の資質と能力1(授業と教材研究・生徒理解と指導)</p> <p>第9回 教員の資質と能力2(教育評価における専門性・社会が求める資質能力)</p> <p>第10回 教員の地位と身分1(教員の身分とその保証・教員の服務規程・懲戒と分限処分)</p> <p>第11回 教員の地位と身分2(待遇と勤務条件・私立学校の教員)</p> <p>第12回 教員研修1(教員の資質能力の形成と研修・さまざまな研究制度)</p> <p>第13回 教員研修2(自己研修・教員評価)</p> <p>第14回 教職への進路1(教師の一日)</p> <p>第15回 教職への進路2(教員採用試験)</p>

科目名	教育原理 (Principle of Education)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>(授業のねらい) 教育の理念や学校教育の目的を教育の歴史・教育の思想という観点から明らかにして、教育研究の基礎的・基本的な事項について理解する。</p> <p>(到達目標) (1)社会と教育の関係について理解する。 (2)教育方法学の発展過程と教師の役割について理解する。 (3)教員養成や学校経営・教育政策など現代の教育課題について理解する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④</p>
学修内容	教育の目的・意義・方法・内容などについての基本的原則・理論的原理をもとにした教育・教育のしくみの概説を内容とします。加えて、現実の実際的な教育課題を検討の対象にします。教職に関する科目の入門的・基礎的な科目です。
授業内容のレベル、 関連科目	教育制度論・教育課程論・生涯学習論などの関連した科目を学習しておくことよい。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習(予習)】 常に新聞などの教育関連の記事を読む習慣をつけておくこと。 テキストや参考書を熟読してからレポート学習を開始すること。</p> <p>【事後学習(復習)】 関連のある新聞記事等に常に関心をもつ。 教科書、参考書をよく読み返す。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	佐久間裕之編著『教育原理』 玉川大学出版部 2022年 ISBN978-4-472-40621-8
参考書、その他教材	<p>山内清郎他編著『教育原論』 ミネルバ書房 2021年 ISBN978-4-623-08184-4</p> <p>林勲編『教育の原理』 ISBN978-4-589-03597-4 法律文化社</p> <p>佐藤晴雄『教職概論』 ISBN978-4-313-61137-5 学陽書房</p>
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育理念 2 教育の歴史(西洋)1(古代ギリシャ・ローマ、中世) 3 教育の歴史(西洋)2(ルネサンスの教育・近代教育の父コメニウス) 4 教育の歴史(西洋)3(啓蒙主義の教育・新人文主義の教育) 5 教育の歴史(西洋)4(19世紀・20世紀の教育) 6 教育の歴史(日本)1(古代・中世の教育) 7 教育の歴史(日本)2(近世の教育) 8 教育の歴史(日本)3(明治期から終戦までの教育) 9 教育の歴史(日本)4(戦後の教育) 10 教育の思想(西洋)1(プラトン・コメニウス・ルソー・カント) 11 教育の思想(西洋)2(ペスタロッチ・ヘルバルト・フレーベル) 12 教育の思想(西洋)3(デューイ) 13 教育の思想(西洋)4(ペーターゼン・ボルノー) 14 教育の思想(日本)1(近世以前) 15 教育の思想(日本)2(近代)

科目名	発達心理学 (Developmental Psychology) 発達と教育の心理学	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	田代 信久	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>個人の様々な側面が発達をするにつれてどのような変化をするのか、また、それらの変化が人の生涯の中でどのような意味を持つのかを学ぶことがねらいです。</p> <p>それらを学ぶ事によって、様々な世代の人たちの行動や心理が理解できるようになることを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①</p>
学修内容	<p>発達心理学とは人間が受胎し、生まれてから死ぬまでの一生涯における様々な変化を捉えていく事を学修します。</p> <p>具体的には運動機能の発達、認知・知能等の発達、家族関係・社会性の発達、自己意識の発達を学修します。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>発達心理学は心理学の中で生涯発達を扱う領域です。</p> <p>心理学概論レベルに比べて少し専門性が高くなります。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前:使用テキストを良く読んでレポートに取りかかって下さい。</p> <p>事後:使用テキスト、参考書などを読み返して理解を深めて下さい。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	『基礎から学ぶ発達心理学』佐伯素子 他 大学図書出版 ISBN 978-4909655349
参考書、その他教材	『よくわかる発達障害』小野次朗 他 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4623057368
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>第1回 人間と発達-1 発達心理学を学ぶことの意義</p> <p>第2回 人間と発達-2 発達の原則について</p> <p>第3回 人間と発達-3 遺伝と環境について</p> <p>第4回 発達の理論-1 フロイトの発達理論の概要</p> <p>第5回 発達の理論-2 エリクソンの発達理論の視点</p> <p>第6回 発達の理論-3 ピアジェの発達理論の各発達段階について</p> <p>第7回 乳児期の発達の基礎</p> <p>第8回 アタッチメント(愛着)理論の概要</p> <p>第9回 幼児期の発達-身体面について</p> <p>第10回 幼児期の発達-言語面について</p> <p>第11回 児童期の発達-身体発達面について</p> <p>第12回 児童期の発達-社会性の発達について</p> <p>第13回 思春期・青年期の発達について</p> <p>第14回 成人期・老年期とは</p> <p>第15回 発達障害について(*参考書を用いて学習して下さい)</p>

科目名	教育制度論	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	川越 孝洋	授業形態	通信教育(T)

授業のねらい 及び到達目標	現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解することをねらいとする。また、初等中等教育に照準化し、我が国の教育政策、教育制度、学校の日常に迫り、公教育が真正面から対処できる教育環境、条件整備の現状から今日の問題を深く掘り下げたい。さらに学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎知識も身に付けることをねらいとする。
学修内容	教育制度についてその仕組みや考え方の本質を法的な観点を含めて考察し、現代の課題にどう対処していくべきかを学ぶ。児童生徒に対して課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導をする学校教員となることを目指す学習となるので、学生自身が同様の力・態度を身に付けることとともに、自身の考察を深めることを目指し主体的な学修に取り組むことが望まれる。
授業内容のレベル、 関連科目	日常生活やニュースで教育問題に関心をもつとともに、サブテキストや教育施策の気になる記事等について自分の意見をまとめておくことが大事である。関連科目教職概論、日本国憲法等
授業外学修 (予習・復習)	各項目の学修を進める際、必ずサブテキストや参考書欄に挙げた図書等に目を通しておくとよい。レポートや科目習得試験に取り組んだ後は、疑問点などサブテキストや他の参考図書等や文部科学省や各自治体教育委員会のホームページ等確認すると良い。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト	「教育制度論」教育行政、教育政策の動向をつかむ 早田幸政著 ミネルヴァ書房 ISBN: 9784623075980 教育小六法
参考書、その他教材	「教育制度・教育法規」改訂版 霜鳥秋則 ジアース教育新社 ISBN: 9784863712768 「小学校・中学校学習指導要領(平成29年告示)」文部科学省
成績評価方法・基準	科目習得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1:教育法規の理論と体系 第2:公教育とは何か 第3:教職と教員養成・研修 第4:教員の任用と身分保障 第5:教育行政の原理と国及び地方公共団体における教育行財政 第6:教育委員会の組織と職務 第7:教員の人事評価制度 第8:学校管理と学校経営及び学校評価 第9:教育課程と学習指導要領 第10:教科書制度 第11:学校・地域・保護者との連携及び学校安全 第12:特別支援教育制度 第13:教育制度をめぐる諸課題(1) ・教育施策とエビデンスや規制緩和(学校選択制、民間人校長など)について 第14:教育制度をめぐる諸課題(2) ・学校種を超えての一貫教育、就学前教育、小・中・高・大の接続と「確かな学力」について 第15:教育制度をめぐる諸課題(3) ・学習評価の基本的視点や指導要録、調査書、通知表さらには生徒指導と教員の指導観について

科目名	特別の支援を必要とする子どもの理解	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	藤本 裕人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱(身体虚弱を含む)、言語障害、自閉症・情緒障害、発達障害のある子どもの障害の種類、程度を概略理解できるようにする。 ・ 特別支援教育に関する法令や制度と教育課程の基本的事項を理解できるようにする。 ・ 個別の指導計画、特別支援教育コーディネーターの在り方、就学指導について理解できるようにする。 <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を学びます。 ・ 特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法を学びます。 ・ 障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの学習上又は生活上の困難とその対応を学びます。
授業内容のレベル、 関連科目	教員免許取得に必要な科目である。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前】テキスト、サブテキスト、参考文献やウェブページも活用し予習をしてください。</p> <p>【事後】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の基礎.杉野学・長沼俊夫・徳永亜希雄編著.大学図書出版, 2018, 191p ISBN978-4-907166-89-2 C3037
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) ・ 特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) ・ 小学校学習指導要領解説 総則編
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 50%、レポート 50%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、テキストの理解度、レポートの体裁などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にして下さい。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意する他、引用文献・参考文献を明記して下さい(出典を明らかにすることはレポート作成の基本的なルールです)。</p> <p>試験は、テキストやレポート内容の理解度を確認するために行います。</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の現状 2. 教育要領・学習指導要領の改訂のポイント 3. 幼稚園等の特別支援教育 4. 小学校の特別支援教育 5. 特別支援学校の教育 6. 自立活動の指導 7. 視覚障害児の理解と指導 8. 聴覚障害児の理解と指導 9. 知的障害児の理解と指導 10. 肢体不自由の理解と指導 11. 病弱児の理解と指導 12. 重複障害児の理解と指導 13. 発達障害児の理解と指導 14. インクルーシブ教育の推進 15. 実践的指導力と教員に求められる資質能力

科目名	教育課程論 (Theory of Curriculum)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程についてその役割・機能・意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う事の意義を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>① 教育課程編成の意義と歴史について理解する。 ② 教育課程の編成の方法や社会的基盤について理解する。 ③ 教育課程の構成について理解する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー) との関連性: ①④</p>
学修内容	<p>授業教育の目的・理念や各学校の教育の目的・目標、教育課程の意義や課題などについてその役割・機能や編成の方法を学ぶとともに、教育課程編成に関する基本的知識や法的根拠、関係する学校内外の制度的枠組みなどを学びます。カリキュラム・マネジメントの意義についても理解します。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目: 「特別活動の指導法」「道徳教育の指導法」「生徒・進路指導法」</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前指導: まずテキストを熟読し、重要ポイントは何かを各自押さえてからレポート作成のための学修を開始する。さらに、参考図書からレポートに補うべき諸点を考察する。</p> <p>事後指導: 再度テキストや参考文献を読み返し、重要な点を整理する。</p> <p>授業外学修に必要な時間: 60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>吉田武男監修、根津朋実編著『教育課程』ミネルヴァ書房 2021年 ISBN978-4-623-08486-9 中学校学習指導要領(平成 29 年3月告示、文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示 文部科学省)</p>
参考書、その他教材	<p>吉富芳正他編著『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい 2021年 ISBN978-4-324-10793-5 柴田義松編著『教育課程論』学文社 2013年 ISBN978-4-7620-1896-1 小澤周三編著『教育学キーワード』有斐閣 2012年 ISBN:9784641058903 広岡義之編著『新しい教育課程論』ミネルヴァ書房 2014年 ISBN:9784623059133</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>第1回 教育課程とカリキュラム 第2回 カリキュラムの類型論 第3回 教育課程と学習指導要領 第4回 教育課程行政の基礎知識 第5回 教科書と学習指導要領 第6回 総合的学習の時間の成果と課題 第7回 カリキュラム・マネジメントの理解 ①教育課程とカリキュラムとの違い 第8回 カリキュラム・マネジメントの理解 ②カリキュラム評価の方法 第9回 高等学校の多様な教育課程 第10回 学習指導要領の変遷① (試案から告示化へ) 第11回 学習指導要領の変遷② (教育の現代化から「ゆとり」路線へ) 第12回 学習指導要領の変遷③ (生涯学習社会と「生きる力」の育成) 第13回 学習指導要領の変遷④ (「確かな学力」から「資質・能力」育成重視) 第14回 教育課程をめぐる今日の動向① (教育課程の研究校制度) 第15回 教育課程をめぐる今日の動向② (多文化共生)</p>

科目名	教科教育法(商業) I (Education Method (Business) I	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	今中 厚志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	商業科教諭を目指すために、教育基本法及び学習指導要領を理解するとともに、実戦例の紹介やシラバス、学習指導案の作成演習を通して、この教科の本質を理解する。あわせて必要な知識、技能そして商業における人づくりを念頭に置いた意識を身につけることを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	高等学校の商業教育の目的、内容、指導方法等について理解するとともに、この教科の本質を理解する。 この科目は、教職免許「高等学校教諭一種免許・商業」取得の必修科目です。
授業内容のレベル、 関連科目	簿記、簿記演習、会計学
授業外学修 (予習・復習)	「予習」新聞を読む習慣を身につけること 試験前には教科書と作成したレポートを読み返すこと 「復習」新聞、ニュースを見る際に、商業教育の観点を忘れないようにすること 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編』(文部科学省、2019) ISBN: 978-4491036397 https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_1.pdf 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 商業編』(文部科学省、2019) ISBN: 978-4407348637
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回:学校教育法と職業教育 第2回:高等学校商業教育の現状 第3回:商業教育の歴史的変遷 第4回:商業教育の意義と目標 第5回:商業教育の必要性 第6回:学習指導要領とその解説書 第7回:学習指導要領の法的根拠と主たる教材である教科書について 第8回:各教科の内容とその指導法 マーケティング分野 第9回:各教科の内容とその指導法 マネジメント分野 第10回:各教科の内容とその指導法 会計分野 第11回:各教科の内容とその指導法 ビジネス情報分野 第12回:各教科の内容とその指導法 総合的科目 第13回:シラバスの解説と作成演習 第14回:学習指導計画と指導案の作成演習 第15回:教員の身分を含む、職務と研修

科目名	教科教育法(商業)Ⅱ (Education Method (Business) Ⅱ)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	今中 厚志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	商業科教育法Ⅰの学習の上に、さらに学習指導要領を精読することにより、商業編の学習を通じて商業教育の教育内容を理解することを目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	高等学校の学習指導要領を主要教材として学習する中で、商業教育の現状と課題を明らかにし、同時に商業教育の意義と重要性についても理解を深める。 ※この科目は、教職免許「高等学校教諭一種免許・商業」取得の必修科目です。 ※この科目は、 <u>模擬授業のスクーリングに1日出席する必要があります。</u>
授業内容のレベル、 関連科目	簿記、簿記演習、会計学
授業外学修 (予習・復習)	「予習」新聞を読む習慣を身につけること 試験前には教科書と作成したレポートを読み返すこと 「復習」新聞、ニュースを見る際に、商業教育の観点を忘れないようにすること 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編』(文部科学省、2019) ISBN: 978-4491036397 https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_1.pdf 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 商業編』(文部科学省、2019) ISBN: 978-4407348637 https://www.mext.go.jp/content/1407073_15_1_1_2.pdf
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回:学習指導要領改訂の歴史 第2回:商業諸科目群の基本的理念 第3回:商業諸科目群学習指導の一般原則 第4回:商業諸科目群学習指導の形態と方法 第5回:学習指導要領解説 商業編 ビジネス基礎(1) 第6回:学習指導要領解説 商業編 マネジメント(1) 第7回:学習指導要領解説 商業編 マーケティング(1) 第8回:学習指導要領解説 商業編 マーケティング(2) 第9回:学習指導要領解説 商業編 会計(1) 第10回:学習指導要領解説 商業編 会計(2) 第11回:学習指導要領解説 商業編 ビジネス情報(1) 第12回:学習指導要領解説 商業編 ビジネス情報(2) 第13回:学習指導要領解説 商業編 総合的科目(1) 第14回:学習指導要領解説 商業編 総合的科目(2) 第15回:学習指導案の作成と模擬授業

科目名	教科教育法（社会）Education Method (Social Studies)	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目（T）

授業のねらい 及び到達目標	<p>戦後誕生した社会科教育の変遷について理解し、中学校社会科の地理的、歴史的、公民的分野の授業づくりの方法及び学習指導案の作成及び模擬授業を実施し授業改善の視点を身につけることができる。</p> <p>到達目標 ①社会科の意義について理解できる ②地理的、歴史的、公民的分野の内容について理解できる ③社会科授業の学習指導案を作成し、模擬授業を通して授業実践の基礎的能力を習得できるようになると同時にICT教育技術を用いた授業作りにも挑戦し、実際に模擬授業を実施する</p> <p>※学習指導案の作成方法についてはmanabaのコースコンテンツ掲載資料を参照して学習すること。 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：①④</p>
学修内容	<p>戦後における社会科の誕生とその後の変遷、及び今日の中学校の社会科の構成とその特徴を明らかにし、社会科で求められる学力等について学びます。また、スクーリングでは各分野の模擬授業の実施やグループワークによる振りかえりを通して学習指導案の作成や実践的な指導力の基礎を身につけます。</p> <p>※この科目は教員の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目となり、履修者自身における「模擬授業」を実施します。 ※本科目は、スクーリングに1日出席する必要があります。</p>
授業内容のレベル、関連科目	関連科目：「教育課程論」「道德教育の指導法」「特別活動の指導法」
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前指導：教科書や中学校社会科教育に関する書籍を参考にして課題学習を進める事 事後指導：学習指導案を再検討し、よりよい指導案の作成に努める事 授業外学修に必要な時間：60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社 2020年 ISBN978-4-7806-0681-2 社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』学術図書出版社 2020年 ISBN978-4-7806-0680-5 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月告示 文部科学省）</p>
参考書、その他教材	<p>森茂岳雄、大友秀明、桐谷正信「新社会科教育の世界」梓出版社 2011年 ISBN:978-4-87262-635-3 小澤周三「教育キーワード」第3版 有斐閣 2012年 壽福隆人監修「新訂増補版 歴史教育の課題と教育の技術・方法」11・12章 DTP出版 2019年 注）（manaba）のコースコンテンツに学習指導案の作成方法に関する補充資料を掲載しています。</p>
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>第1回：中学校社会科地理的分野の意義と課題 第2回：中学校社会科地理的分野の構成 第3回：中学校社会科地理的分野と小学校社会科との連携 第4回：中学校社会科地理的分野における教師の働き 第5回：中学校社会科地理的分野の目標と学力 第6回：中学校社会科地理的分野における学力 第7回：中学校社会科地理的分野のカリキュラムデザイン 第8回：中学校社会科地理的分野の授業分析・開発・評価 第9回：中学校社会科地理的分野の学習指導 第10回：中学校社会科地理的分野の評価 第11回：中学校社会科歴史的分野の意義と課題 第12回：中学校社会科歴史的分野の構成 第13回：中学校社会科歴史的分野と小学校社会科との連携 第14回：中学校社会科歴史的分野における教師の働き 第15回：中学校社会科歴史的分野の目標と学力 第16回：中学校社会科歴史的分野における学力 第17回：中学校社会科歴史的分野のカリキュラムデザイン 第18回：中学校社会科歴史的分野の授業分析・開発・評価 第19回：中学校社会科歴史的分野の学習指導 第20回：中学校社会科歴史的分野の評価 第21回：中学校社会科公民的分野の意義と課題 第22回：中学校社会科公民的分野の構成 第23回：中学校社会科公民的分野と小学校社会科との連携 第24回：中学校社会科公民的分野における教師の働き 第25回：中学校社会科公民的分野の目標と学力 第26回：中学校社会科公民的分野における学力 第27回：中学校社会科公民的分野のカリキュラムデザイン 第28回：中学校社会科公民的分野の授業分析・開発・評価 第29回：中学校社会科公民的分野の学習指導 第30回：中学校社会科公民的分野の評価</p>

科目名	教科教育法(社会・地理歴史) I Education Method (Society Studies/Geography and History) I	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	戦後日本の中等社会科教育の成立を概観し、中学校社会科カリキュラムの内容と構造および高等学校地理歴史科のカリキュラムの内容と構造を理解し、中学校地社会科および高等学校地理歴史科の授業設計を行う方法を身につける。 到達目標 ①戦後教育改革と中等社会科教育の成立について理解する ②中学校社会科各分野の授業設計能力や指導力を身につける ③高等学校地理歴史科の授業設計能力や指導力を身につける ※学習指導案の作成方法は manaba コースコンテンツ掲載資料を参照して学習してください。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④
学修内容	中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標を理解し、指導できる能力を育成する。また、ICT 教育技術を用いた授業作り及び実践に挑戦する。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目:教科教育法(社会・地理歴史)Ⅱ、Ⅲ 教科教育法(社会・公民)Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
授業外学修 (予習・復習)	事前指導:教科書を熟読してからレポート学習を進めること 作成する地理、歴史の学習内容について調べておくこと 事後指導:教科書を復習し、ノートを整理すること 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト (教科書)	社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』学術図書出版社 2020 年 ISBN978-4-7806-0680-5 中学校学習指導要領(平成 29 年3月告示、文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示 文部科学省)
参考書、その他教材	臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2014 年 ISBN:9784762019579 魚山秀介、小泉博明他編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院 ISBN:4389225596 山口幸男、山本友和、森秀夫著『中等社会科系教科教育研究』学芸図書出版 ISBN:9784761604288 (ICT 教育に関する学修) 壽福隆人監修「新訂増補版 歴史教育の課題と教育の技術・方法」11・12 章 DTP 出版 2019 年注) (manaba) のコースコンテンツに学習指導案の作成方法に関する補充資料を掲載していません。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回 社会科教育の目的・機能 第2回 なぜ大学で社会科教育を学ぶのか 第3回 社会科が中等教育に必要とされるわけ 第4回 中学校社会科教育のカリキュラム構造 第5回 高等学校地理歴史科教育のカリキュラム構造 第6回 中学校社会科・高等学校地理歴史科教育のカリキュラムマネジメント 第7回 ケーススタディ1「教科書についてよくわかる授業」 第8回 ケーススタディ2「子どもを主体的な学び手にする」 第9回 ケーススタディ3「探求型歴史授業をしたい」 第10回 ケーススタディ4「年間カリキュラムをつくる」 第11回 教師の段階的成長と教師教育 第12回 地理歴史教育の目標・学力の変遷から考える歴史地理教育の目標 第13回 戦前の地理歴史教育の目標・学力 第14回 戦後の地理歴史教育における目標・学力 第15回 これからの地理歴史教育に求められる学力

科目名	教科教育法（社会・地理歴史）Ⅱ Education Method (Society Studies/Geography and History) Ⅱ	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目（T）

授業のねらい 及び到達目標	戦後日本の中等社会科教育の成立を概観し、中学校社会科カリキュラムの内容と構造および高等学校地理歴史科のカリキュラムの内容と構造を理解し、中学校社会科各分野および高等学校地歴科の授業設計を行うより高度な方法を身につける。 到達目標 ①戦後教育改革と中等社会科教育の成立について理解する ②中学校社会科各分野の授業設計能力や指導力を身につける ③高等学校地理歴史科の授業設計能力や指導力を身につける ※学習指導案の作成方法は manaba コースコンテンツ掲載資料を参照して学習してください。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④
学修内容	中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標をよく理解し、適切な学習指導計画に基づいて指導できる資質・能力を身につける。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目：教科教育法（社会・地理歴史）Ⅰ、教科教育法（社会・公民）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
授業外学修 (予習・復習)	事前指導：教科書を熟読して課題学習を進めること 事後指導：教科書を復習しておくこと 授業外学修に必要な時間：60時間
使用テキスト (教科書)	社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』学術図書出版社 2020年 ISBN978-4-7806-0680-5 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
参考書、その他教材	臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2009年 ISBN:9784762019579 山口幸男、山本友和、森秀夫著『中等社会科系教科教育研究』学芸図書 ISBN:9784761604288 （ICT教育に関する学修） 壽福隆人監修「新訂増補版 歴史教育の課題と教育の技術・方法」11・12章 DTP出版 2019年注）（manaba）のコースコンテンツに学習指導案の作成方法に関する補充資料を掲載しています。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回：中学校社会科・高等学校地歴科教育カリキュラムデザイン①（学習指導要領のカリキュラムデザインを理解する） 第2回：中学校社会科・高等学校地歴科教育カリキュラムデザイン②（どのようなカリキュラムデザインが考えられるか） 第3回：授業分析とは何か 第4回：授業の事実をどうとらえるのか 第5回：授業記録をどうとるか 第6回：授業分析 第7回：単元の設定 第8回：ケーススタディ単元「世界の諸地域」の検討 第9回：ケーススタディ単元「世界の諸地域」の単元計画作成 第10回：ケーススタディ「アフリカの食糧問題」の授業開発 第11回：ケーススタディ「アフリカの食糧問題」の授業評価 第12回：中学校歴史分野に関する学習指導要領の分析 第13回：歴史的分野の学習指導・評価計画 第14回：歴史的分野の課題 第15回：ICT教育技術を用いた授業作りと実践

科目名	教科教育法（社会・地理歴史）Ⅲ Education Method (Society Studies/Geography and History) Ⅲ	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目（T）

授業のねらい 及び到達目標	戦後日本の中等社会科教育の成立を概観し、中学校社会科カリキュラムの内容と構造および高等学校地理歴史科のカリキュラムの内容と構造を理解し、中学校各分野および高等学校地歴科の授業設計を行うより高度な方法を身につける。 到達目標 ①戦後教育改革と中等社会科教育の成立について理解する ②中学校社会科地理的分野と歴史的分野の授業設計能力や指導力を身につける ③高等学校地理歴史科の授業設計能力や指導力を身につける 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：①④ ※学習指導案の作成方法は manaba コースコンテンツ掲載資料を参照して学習してください。
学修内容	中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標をよく理解し、適切な学習指導計画に基づいて指導できる資質・能力を身につける。 ※本科目は、スクーリングに1日出席する必要があります。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目：教科教育法（社会・地理歴史）ⅠⅡ、教科教育法（社会・公民）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
授業外学修 （予習・復習）	事前指導：教科書を熟読して課題学習を進めること 事後指導：教科書を復習しておくこと 授業外学修に必要な時間：60時間
使用テキスト （教科書）	社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』学術図書出版社 2020年 ISBN978-4-7806-0680-5 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
参考書、その他教材	臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2009年 ISBN:9784762019579 山口幸男、山本友和、森秀夫著『中等社会科系教科教育研究』学芸図書 ISBN:9784761604288 （ICT教育に関する学修） 壽福隆人監修「新訂増補版 歴史教育の課題と教育の技術・方法」11・12章 DTP出版 2019年注）（manaba）のコースコンテンツに学習指導案の作成方法に関する補充資料を掲載しています。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回：「地理総合」の学習指導と評価 第2回：「歴史総合」の学習指導と評価 第3回：「地理探求」の学習指導と評価 第4回：「日本史探求」の学習指導と評価 第5回：「世界史探求」の学習指導と評価 第6回：「地理総合」「歴史総合」の授業づくり①（模擬授業の実施、学習指導案の作成と評価、授業改善の要点を踏まえて） 第7回：「地理総合」「歴史総合」の授業づくり②（生徒の実態、他教科等との関連を踏まえて） 第8回：「地理総合」「歴史総合」の授業づくり③（ICT活用を踏まえて） 第9回：「地理総合」「歴史総合」の授業づくり④（学習指導案作成の要点を踏まえて） 第10回：「歴史総合」「歴史総合」の授業づくり⑤（模擬授業の実施、学習指導案の評価と授業改善の要点を踏まえて） 第11回：「日本史探究」の授業づくり①（生徒の実態、他教科等との関連、ICT活用を踏まえて） 第12回：「日本史探究」の授業づくり②（模擬授業の実施、学習指導案の作成と評価、授業改善の要点を踏まえて） 第13回：「世界史探究」の授業づくり①（生徒の実態、他教科等との関連、ICT活用を踏まえて） 第14回：「世界史探究」の授業づくり②（模擬授業の実施、学習指導案の作成と評価、授業改善の要点を踏まえて） 第15回：ICT教育技術を用いた授業作りと実践

科目名	教科教育法(社会・公民) I Education Method (Society Studies/Civics) I	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	戦後日本の中等社会科教育の成立を概観し、中学校社会科カリキュラムの内容と構造および高等学校公民科のカリキュラムの内容と構造を理解し、中学校社会科および高等学校公民科の授業設計を行う方法を身につける。 到達目標 ①戦後教育改革と中等社会科教育の成立について理解する ②中学校社会科各分野の授業設計能力や指導力を身につける ③高等学校公民科の授業設計能力や指導力を身につける 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④ ※学習指導案の作成方法は manaba コースコンテンツ掲載資料を参照して学習してください。
学修内容	中学校社会科および高等学校公民科の目標を理解し、指導できる能力を育成する。また、ICT 教育技術を用いた授業作り及び実践に挑戦する。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目:教科教育法(社会・地理歴史)Ⅱ、教科教育法(社会・地理歴史)Ⅲ、 教科教育法(社会・公民)Ⅱ、教科教育法(社会・公民)Ⅲ
授業外学修 (予習・復習)	事前指導:教科書を熟読してからレポート学習を進めること 事後指導:教科書を復習しておくこと 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト (教科書)	社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社 2020 年 ISBN978-4-7806-0681-2 中学校学習指導要領(2017 年 3 月告示、文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示 文部科学省)
参考書、その他教材	臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2014 年 ISBN:9784762019579 魚山秀介、小泉博明他編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院 ISBN:4389225596 山口幸男、山本友和、森秀夫著『中等社会科系教科教育研究』学芸図書出版 ISBN:9784761604288 (ICT 教育に関する学修) 壽福隆人監修「新訂増補版 歴史教育の課題と教育の技術・方法」11・12 章 DTP 出版 2019 年 ISBN978-4-86211-708-3 注) (manaba) のコースコンテンツに学習指導案の作成方法に関する補充資料を掲載していません。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第 1 回 中学校社会科とは何か 第 2 回 高等学校公民科とは何か 第 3 回 社会科・公民科の目標原理 第 4 回 主権者教育としての社会科・公民科教育 第 5 回 中学校社会科・高等学校公民科の分野・科目の構成 第 6 回 各分野・科目の役割 第 7 回 小学校社会科との連携 第 8 回 多様な子どもや社会に応える教師に求められるもの 第 9 回 社会科・公民科教師に求められる資質・能力 第 10 回 教師に必要とされる資質・能力を獲得するための方法 第 11 回 社会科教育と公民科教育で達成すべき目標 第 12 回 民主主義の基本から考える社会科教育と公民科教育 第 13 回 民主主義の現状から考える社会科教育と公民科教育 第 14 回 社会科教育と公民科教育で達成すべき新しい要請 第 15 回 ICT 教育技術を用いた社会科教育と公民科教育の授業実践

科目名	教科教育法（社会・公民）Ⅱ Education Method (Society Studies/Civics) Ⅱ	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目（T）

授業のねらい 及び到達目標	戦後日本の中等社会科教育の成立を概観し、中学校社会科カリキュラムの内容と構造および高等学校地理歴史科のカリキュラムの内容と構造を理解し、中学校社会科各分野および高等学校地歴科の授業設計を行うより高度な方法を身につける。 到達目標 ①戦後教育改革と中等社会科教育の成立について理解する ②中学校社会科各分野の授業設計能力や指導力を身につける ③高等学校地理歴史科の授業設計能力や指導力を身につける 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：①④ ※学習指導案の作成方法は manaba コースコンテンツ掲載資料を参照して学習してください。
学修内容	中学校社会科および高等学校公民科の目標をよく理解し、適切な学習指導計画に基づいて指導できる資質・能力を身につける。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目：教科教育法（社会・地理歴史）Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 教科教育法（社会・公民）Ⅰ
授業外学修 （予習・復習）	事前指導：教科書を熟読して課題学習を進めること 事後指導：教科書を復習しておくこと 授業外学修に必要な時間：60時間
使用テキスト （教科書）	社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社 2020年 ISBN978-4-7806-0681-2 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示予定 文部科学省）
参考書、その他教材	臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2009年 ISBN:9784762019579 山口幸男、山本友和、森秀夫著『中等社会科系教科教育研究』学芸図書 ISBN:9784761604288 魚山秀介、小泉博明他編『社会科・公民科教育マニュアル』清水書院 ISBN:4389225596 （ICT教育に関する学修） 壽福隆人監修「新訂増補版 歴史教育の課題と教育の技術・方法」11・12章 DTP出版 2019年 ISBN978-4-86211-708-3 注）（manaba）のコースコンテンツに学習指導案の作成方法に関する補充資料を掲載しています。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回：中学校社会科と高等学校公民科のカリキュラムデザイン 第2回：新学習指導要領における目標の特徴 第3回：社会科・公民科の学びと社会の関係性 第4回：教師による主体的カリキュラムデザイン 第5回：中学校社会科・公民科の授業分析・開発・評価 第6回：社会科の授業改善 第7回：公民科の授業改善 第8回：授業改善の実際 第9回：授業における収集した情報の生かし方1 第10回：授業における収集した情報の生かし方2 第11回：社会問題学習としての公民的分野の授業作り 第12回：ケーススタディ単元「健康格差について考える」 第13回：社会問題にかかわる考えや見解の再構成 第14回：民主的な国家・社会の形成者育成 第15回：ICT教育技術を用いた授業作りと実践

科目名	教科教育法（社会・公民）Ⅲ Education Method (Society Studies/Civics) Ⅲ	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目（T）

授業のねらい 及び到達目標	戦後日本の中等社会科教育の成立を概観し、中学校社会科カリキュラムの内容と構造および高等学校地理歴史科のカリキュラムの内容と構造を理解し、中学校各分野および高等学校地歴科の授業設計を行うより高度な方法を身につける。 到達目標 ①戦後教育改革と中等社会科教育の成立について理解する ②中学校社会科地理的分野と歴史的分野の授業設計能力や指導力を身につける ③高等学校地理歴史科の授業設計能力や指導力を身につける 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：①④ ※学習指導案の作成方法は manaba コースコンテンツ掲載資料を参照して学習してください。
学修内容	高等学校公民科の目標、育成を目指す資質・能力、学習指導要領に示された学習内容について問題解決的な学習方法と関連付けて理解するとともに、指導計画に基づく授業場면을想定して、授業設計や学習指導案作成を含めた実践的な指導力の基礎を養う。 ※本科目は、スクーリングに1日出席する必要があります。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目：教科教育法（社会・地理歴史）Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 教科教育法（社会・公民）Ⅰ、Ⅱ
授業外学修 （予習・復習）	事前指導：教科書を熟読して課題学習を進めること 事後指導：教科書を復習しておくこと 授業外学修に必要な時間：60時間
使用テキスト （教科書）	社会認識教育学会編『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社 2020年 ISBN978-4-7806-0681-2 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
参考書、その他教材	臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』学文社 2009年 ISBN:9784762019579 山口幸男、山本友和、森秀夫著『中等社会科系教科教育研究』学芸図書 ISBN:9784761604288（ICT教育に関する学修） 壽福隆人監修「新訂増補版 歴史教育の課題と教育の技術・方法」11・12章 DTP出版 2019年 ISBN978-4-86211-708-3 注）（manaba）のコースコンテンツに学習指導案の作成方法に関する補充資料を掲載していません。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	第1回：高等学校公民科「公共」の学習指導・評価 第2回：「公共」とはどんな科目か 第3回：小学校の授業とはどのように違うか 第4回：「公共」の授業の実際 第5回：「公共」の授業をどう評価するか 第6回：高等学校公民科「倫理」の特質 第7回：倫理の授業づくり①（他教科等との関連を踏まえて） 第8回：倫理の授業づくり②（ICT活用を踏まえて） 第9回：学習指導・評価の実際 第10回：「政治経済」の特質 第11回：政治・経済の授業づくり①（生徒の実態を踏まえて） 第12回：政治・経済の授業づくり②（他教科等との関連を踏まえて） 第13回：政治・経済の授業づくり③（ICT活用を踏まえて） 第14回：政治・経済の授業づくり④（学習指導案の作成の要点） 第15回：政治・経済の授業づくり⑤（ICT教育技術を用いた学習指導案の作成と模擬授業の実施）

科目名	教科教育法(情報)Ⅰ・Ⅱ Education Method (Information) I・II	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	今中 厚志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>この科目では、1) 1999年に改訂された高等学校学習指導要領で新設された情報科の趣旨・目標・意義を確認すること、2) 教科書を用いて、教科書の概要・問題解決技法等について理解すること、3) 典型的な授業実践事例・学習指導案の作成を行うことにより、実践的な知識・指導法を習得することの3点が到達目標です。</p> <p>なお、2013年から実施されている高等学校学習指導要領についてもここでしっかりと理解したうえで、2022年から実施されている高等学校学習指導要領について把握することが求められます。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています(https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>問題解決の道具としてのコンピュータについての履修者自身の知識を確認した上で、それらの指導法を学びます。</p> <p>また、情報の調査・生成手法、および情報社会についての指導法を学びます。</p> <p>※教科教育法(情報)Ⅱは、模擬授業のスクーリングに1日出席する必要があります。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>高校までの数学(数学Ⅰ、AからⅢまで)の内容を理解していることが望ましい。</p>
授業外学習 (予習・復習)	<p>事前学習:教科書および参考書を熟読の上、各レポート、科目修得試験に取り組むこと。</p> <p>事後学習:「情報科教育法」関連の複数の書籍を比較対照することにより、各トピックについてより深く理解すること。</p> <p>大学1、2年レベルの情報科学についての知識を得ること。</p> <p>授業外学習に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>『情報科教育法 改訂3版』(久野靖・辰己丈夫監修、オーム社) ISBN: 978-4274219207</p>
参考書、その他教材	<p>『情報科教育法 これからの情報科教育』(鹿野利春・高橋参吉・西野和典編著、実教出版、2022) ISBN: 978-4407355215</p> <p>『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』(文部科学省、2019) ISBN:978-4304021633 https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf</p> <p>『高等学校学習指導要領解説・情報編』(文部科学省、2010) ISBN:978-4-304-04165-5 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2012/01/26/1282000_11.pdf</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>第1回 情報科とは①</p> <p>第2回 情報科とは②</p> <p>第3回 情報活用の実践力の指導法①</p> <p>第4回 情報活用の実践力の指導法②</p> <p>第5回 まとめ</p> <p>第6回 情報の科学的な理解の指導①</p> <p>第7回 情報の科学的な理解の指導②</p> <p>第8回 情報社会に参画する態度の指導法①</p> <p>第9回 情報社会に参画する態度の指導法②</p> <p>第10回 まとめ</p> <p>第11回 情報科の教員として①</p> <p>第12回 情報科の教員として②</p> <p>第13回 情報教育に必要な知識①</p> <p>第14回 情報教育に必要な知識②</p> <p>第15回 まとめ</p>

科目名	道徳教育の指導法 (Methodology of Moral Education)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	道徳教育の意義や今日的な道徳教育の課題について理解する。また道徳教育のこれまでの歴史的変遷について知り、現在の学校教育の実際と課題について考察する。 到達目標 ①道徳教育の意義や課題について理解する ②道徳教育の歴史的変遷について理解する ③学校における道徳教育の在り方や方法を理解する 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③
学修内容	中学校の段階を中心に、学校の道徳教育のあり方や方法を考えることを第一のねらいとする。関連して日本の子ども・青年の道徳・倫理をめぐる現状や課題を考察する。また道徳の教科化について知る。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目:特別活動の指導法、総合的学習の時間
授業外学修 (予習・復習)	事前学習:まずテキストを熟読してからレポート学習を進めること 事後学習:道徳の「教科化」について理解し、再度テキストを熟読すること 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	原清治他監修『道徳教育』ミネルヴァ書房 2019年 ISBN978-4-623-08190-5
参考書、その他教材	内山宗昭他編著『道徳教育の理論と方法』成文堂 2021年 ISBN978-4-7923-9279-6 橋本太郎編「道徳教育の理論と実践」酒井書店 2013年 ISBN:9784782203712 小澤周三編著『教育学キーワード』(第3版)有斐閣 2012年 ISBN:9784641058903 辻野具成・塚野 征 共著『新しい道徳教育の進め方』学事出版 2006年 ISBN:9784761911737
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	1 道徳教育とは何か 2 道徳教育と心理学 3 道徳教育の歴史Ⅰ(近代学校教育の発足と道徳教育) 4 道徳教育の歴史Ⅱ(戦前の道徳教育) 5 道徳教育の歴史Ⅲ(戦後の道徳教育) 6 学習指導要領における道徳教育 7 道徳教育の方法 8 道徳教育における内容項目と教材 9 学習指導案の作成(小学校の道徳教育) 10 学習指導案の作成(中学校の道徳教育) 11 道徳化における評価 12 道徳教育と子どもの問題 13 シティズンシップ教育と道徳教育 14 現代的な課題と道徳教育 15 対話への道徳教育

科目名	総合的な学習の時間の指導法	年次・単位	3年次2単位
担当者名	吉藤 玲子	授業形態	通信科目

授業のねらい 及び到達目標	<p>本科目では、「総合的な学習の時間」の教育課程に位置付けられたことの経緯や趣旨、求められる児童生徒の学力観、並びに学習指導要領の理解と指導、さらには、カリキュラムマネジメントと授業づくり、子ども理解と支援、評価のあり方など「主体的・対話的・深い学び」を実現する単元設計と学習環境整備、地域素材および教材に関する研究、家庭や地域の連携のあり方について、実践事例を参考に各自「総合的な学習の時間」の経験を積み指導方法を習得する。</p>
学修内容	<p>①「総合的な学習の時間」の創設の経緯と趣旨、教育的効果について検討する。 ②現代的諸課題への対応や探究的な学習過程および主体的・対話的・深い学びを踏まえたカリキュラム・マネジメントをもとに単元設計、授業づくりについて実践演習する。 ③子ども理解と支援、学習評価のあり方、学習環境の整備・活用(ICT)について、検討する。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>個人のテーマに沿って探究していく面白さや教育的意義を感じやすい教科でもある。まさに、「主体的・対話的・深い学び」の実現である。授業では、できる限り自ら作り出すことが強く求められる教育活動であることから実際に取り組んでもらう活動したい。</p> <p>関連科目: 教科教育法、特別活動の指導法、メディアと教育</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習: テキスト、サブテキストの予習をしておくこと。 事後学習: 各回で学んだ内容、参考文献、論拠となるデータや資料を整理しておくこと。 授業外学修に必要な時間:</p>
使用テキスト	村川雅弘 他「総合的な学習の時間の指導法」日本文教出版
参考書、その他教材	文部科学省小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「総合的な学習の時間編」
成績評価方法・基準	レポート課題及び試験結果により総合的に評価する。(レポート50%、科目修得試験50%) 試験は、テキストやサブテキストの理解度の確認をします。
授業の形式・計画	<p>第1章 「総合的な学習の時間」創設の趣旨と経緯 第2章 「総合的な学習の時間」に関する学習指導要領及び児童生徒の「学びに向かう力」の協議・検討 第3章 探究的な学びを引き出す教師の指導支援(1)小学校編 第4章 探究的な学びを引き出す教師の指導支援(2)中学校編 第5章 探究的な学びを引き出す教師の指導支援(3)高等学校編 第6章 年間指導計画の作成と教科との関連及び探究のカリキュラム・マネジメント 第7章 学習指導案の書き方と学習評価ポイント、ワークシート等のコメントの書き方 第8章 総合的な学習の時間の評価の手順と手立ての抽出(小学校) 第9章 具体的な評価の手立ての抽出(中学校) 第10章 学習環境整備や地域素材の発掘と家庭・地域の連携のあり方 第11章 「総合的な学習の時間」におけるICTの活用と授業設計 第12章 「総合的な学習の時間」個別実践演習(1) 小学校における総合的な学習の時間のカリキュラムを作成 内容は、児童が取り組みやすい地域の事例などをもとに作成 第13章 「総合的な学習の時間」個別実践演習(2) 中学校における総合的な学習の時間のカリキュラムを作成 福祉や情報など今日的課題、生徒が提案できるような内容をもとに作成 第14章 「総合的な学習の時間」個別実践演習(3) 高等学校における総合的な探究の時間のカリキュラムを作成 SDGsや異文化理解など今日的な課題、生徒が提案できるようなカリキュラムを作成 第15章 まとめと振り返り</p>

科目名	特別活動の指導法 (Methodology of Special Activities)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	齊藤 勝	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>特別活動の歴史的変遷や現在の子供の状況を踏まえながら、学校教育における特別活動の教育的意義や具体的な実践の在り方について考えていく。</p> <p>到達目標：教職に就く人にとって、特別活動は人とのかかわりを育成する学級経営の要である。特別活動の教育的な意義を習得して、実践的指導力をもつ教員に必要な知識を得ることを目標とする。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>学習指導要領の変遷を追い、特別活動の目標・内容の変化とその背景を明らかにして、今日の子供の特徴から教師の子供達へのかかわり方や指導法を検討する。</p> <p>そのことを踏まえて、特別活動の各内容における実践の在り方や教師の指導方法や評価の在り方を身に付ける。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目：生徒・進路指導</p> <p>準備学習：小・中学校学習指導要領・特別活動編(平成29年)を購入し、事前に通覧しておくこと講義の理解に役立つ。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習(予習)】レポートで取り上げた課題を使用テキストや参考文献を熟読した上で作成するようにする。</p> <p>【事後学習(復習)】使用テキストやレポートを読み返し復習するようにする。</p> <p>授業外学修に必要な時間：60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>河村茂雄・編著「特別活動の理論と実際」, 図書文化, 2018年 ISBN:9784810087109</p>
参考書、その他教材	<p>小学校学習指導要領(平成29年告示)解説・特別活動編, 文部科学省, 2017年 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説・特別活動編, 文部科学省, 2017年</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども・成年の現状と特別活動 2. 特別活動の意義 3. 特別活動の教育課程における位置づけと特質 4. 特別活動の変遷 5. 諸外国の教科外活動 6. 学級活動 7. 児童会・生徒会活動 8. クラブ活動 9. 学校行事 10. 教科指導と特別活動 11. 道徳教育と特別活動 12. 総合的な学習の時間と特別活動 13. 家庭・地域社会と特別活動 14. これからの特別活動の課題 15. まとめ

科目名	教育方法・技術論/教育方法・ICT 活用論	年次・単位	3年次・4単位
担当者名	齊藤 勝	授業形態	通信科目

授業のねらい 及び到達目標	<p>学校教育には実に様々な教育活動がありますが、その中心は「授業」です。その最大の目的は、「生きるために必要な知識・技能・表現力など」を子どもたちに身につけさせることです。この科目では、そのような授業を構成する様々な要素について学び、よい授業とは何かを理解することを到達目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性：①②③</p>
学修内容	<p>学校における指導方法も歴史的な変遷を経て、「教師中心の学び」から「学習者中心の学び」へと変化してきました。知識基盤社会を生きるために必要な確かな学力を育てていくために、どのような指導法が求められているのかを学習します。また、子供たちの学習をどのように評価していくかということも合わせて考えていきます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目：「教職概論」「教育原理」「教育課程論」</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>予習：テキストを読んで、キーワードについて調べてみてください。</p> <p>復習：テキストで新たに学んだことの振り返りを行ってください。特に、重要語句についてはその内容が理解できたかどうか確認してみてください。</p> <p>また、参考図書などを読んで、知識をさらに深めてください。</p> <p>授業外学修に必要な時間： 120 時間</p>
使用テキスト	<p>3訂版『教育の方法と技術』平沢 茂編・図書文化社 2018 ISBN:978-4-8100-8701-7</p>
参考書、その他教材	<p>サブテキスト「教育方法・技術論/教育方法・ICT 活用論」</p> <p>参考書：『学校の戦後史』木村 元・岩波新書 2015 ISBN: 978-4-00-431536-0</p>
成績評価方法・基準	<p>レポート及び科目修得試験の結果を総合的に評価します。(科目修得試験 70%、レポート 30%)</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育方法の歴史的な変遷について学びます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育方法・技術に関する用語について (2) 教育方法の歴史的な変遷について 1 古代からの近代までの主な教授法について学びます。 (3) 教育方法の歴史的な変遷について 2 「教育の現代化」以降の教授理論について学びます。 2 カリキュラム開発のあり方と授業における指導法について学びます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) カリキュラムの開発について (2) 教育課程と学習指導要領について (3) 授業における指導技術について 1 (4) 授業における指導技術について 2 (5) 教育メディアについて (6) 教育メディアの活用について <p>現在の学校にはどのような情報機器・ネットワークが導入され活用されているか概要を学習します。また、その効果的な活用例について学習します。</p> 3 指導及び学習形態について学びます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教授組織について チーム・ティーチングなどの教授組織について学びます。 (2) 学習組織について 4 学習評価について学びます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育における評価 1 テストによる学力測定について学びます。 (2) 教育における評価 2 相対評価・絶対評価等について学びます。 (3) 授業のための評価について 主に形成的評価について学びます。 (4) まとめと補足

科目名	メディアと教育 (Media and Education)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	齊藤 勝	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	インターネットを中心とする情報社会の進展には目覚ましいものがあります。この科目では、メディアの歴史を振り返るとともに、これからの私たちの生活や学校にメディアが与える影響について理解し、正しく行動できることを到達目標とします。 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①②③
学修内容	人類の進歩の歴史とメディアの発達とは深く結びついており、その発達の歴史的な変遷を最初に概観します。続いて、近年の情報ネットワークの発展により、社会や学校の様々な場面で情報メディアが活用されるようになり、学びの形も変化しつつあることを学びます。特に、情報メディアやネットワークを中心に、多様な教授メディアに関する基礎的な知識やその活用方法について学習します。また、メディアが子どもたちの学びと生活及び社会にもたらした問題について理解を深めます。
授業内容のレベル、 関連科目	関連科目:「図書館サービス概論」「情報サービス論」「図書館情報技術論」
授業外学修 (予習・復習)	予習: テキストを読んで、キーワードについて調べてみてください。 復習: テキストで新たに学んだことの振り返りを行ってください。特に、重要語句についてはその内容が理解できたかどうか確認してみてください。 また、参考図書などを読んで、知識をさらに深めてください。 授業外学修に必要な時間: 60 時間
使用テキスト	『改訂 視聴覚メディアと教育』佐賀啓男編著・樹村房 2010 ISBN978-4-88367-191-5
参考書、その他教材	サブテキスト「メディアと教育」 参考書:『メディアと日本人』橋元良明・岩波新書 2011 ISBN : 978-4-00-431298-7 『インターネットの光と影 Ver.6』情報教育学研究会編: 北大路書房 2018 ISBN978-4-7628-3006-8
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%, レポート 30%
授業の形式・計画	(1) 「文字と印刷の歴史」について (2) 視聴覚メディアの歴史的変遷等について (3) 高度情報社会と人間について (4) デジタル社会における学びの形について (5) 博物館と視聴覚メディアについて (6) データベースと情報検索について (7) 電子書籍について (8) 子どもとテレビについて 子どもの生活とテレビのかかわりを実態調査に基づいて考えます。また、教育のなかで、放送が効果的に利用されている例を学びます。 (9) 子どもとコンピュータについて 現在の学校にはどのような情報機器・ネットワークが導入され活用されているか概要を学びます。また、その効果的な活用例について理解します。 (10) デジタル教科書について 今後の学校教育の中で導入が予定されているデジタル教科書について学びます。 (11) 著作権について 簡単にコピーが取れるようになった現代社会において、個人の著作物を尊重する著作権について学びます。 (12) ネットワーク社会がもたらした諸問題とその対策について①情報モラル (13) ネットワーク社会がもたらした諸問題とその対策について②ネットワーク社会の危険性 (14) ネットワーク社会がもたらした諸問題とその対策について③個人情報保護 (15) まとめと補足

科目名	生徒・進路指導法 (Methodology of Career Guidance for Student)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	川越 孝洋	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>学校教育における生徒指導・進路指導の位置づけについて知り、その歴史と理念について理解する。そして、生徒指導(生活指導)と進路指導(キャリア教育)の具体的な指導方法や実践的な指導展開についての基礎的な知見と力量を培うことがねらいとなります。</p> <p>到達目標 ①生徒指導、進路指導の歴史と理念について理解する ②生徒指導、進路指導の実践的展開の内容について理解する ③生徒指導、進路指導の教育課題と解釈について理解する</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>生徒指導・進路指導は、今日では学校教育活動全体を通して行うことになっている。この科目では、学校における生徒指導(生活指導)と進路指導(キャリア教育)についての基礎的な理念と実践的な指導方法について理解することがこの科目の学習内容となります。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目:特別活動の指導法</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前指導:教科書を熟読してレポート作成を行うこと 事後指導:現代のさまざまな教育課題について関心を持つこと 授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>林尚示・伊藤秀樹 編著 教師のための教育学シリーズ10 『生徒指導・進路指導』 理論と方法 第二版 学文社 2018年 ISBN:9784762028298</p>
参考書、その他教材	<p>参考文献: 「生徒指導提要」文部科学省 小澤周三編著『教育学キーワード』 有斐閣 2012年 ISBN:9784641058903 角田豊・片山紀子・小松貴弘編著『子どもを育む学校臨床学』多様性の時代の生徒指導 教育相談 特別支援 創元社 2016年ISBN:9784422120645</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の意義と原理 2 教育課程と生徒指導 3 児童生徒理解①(生徒指導の三機能) 4 児童生徒理解②(学校での課題から) 5 学校における生徒指導体制 6 児童生徒全体への生徒指導 7 いじめ 8 不登校 9 校則・体罰・出席停止 10 進路指導・キャリア教育の意義と原理(文科省の指針) 11 進路指導・キャリア教育の役割 12 「やりたいこと」と進路指導 13 キャリアプランについて考える 14 現代の労働問題 15 まとめ

科目名	教育相談 (Educational Counseling)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	奥井智一郎	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	学校教育において教育相談を実施するために必要となる基礎的な知識と技術を身に付けることができる。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②③④
学修内容	○教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解できるように講義します。 ○受講生同士の意見交換や演習を通して学ぶ授業です。 ○教員を目指さない方にとっても役立つ授業であると考えておりますが、教員免許状を取得することを前提とした学修内容になっています。 ※この科目は臨床心理士の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。
授業内容のレベル、 関連科目	初学者でも理解できるレベルです。ただし、授業を受講する学生には、ただ授業を聞くだけではなく、能動的な姿勢及び他者と関わるのが強く求められます。
授業外学修 (予習・復習)	事前及び事後学修の内容については、授業内でお伝えします。 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト	生徒指導提要(2022), 文部科学省(著). ※2022年1月現在、冊子版は出版されていないためダウンロードしてください。 https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf
参考書、その他教材	授業内で随時紹介します。
成績評価方法・基準	試験 50% 小テスト 25% 平常点 25%
授業の形式・計画	一日目 【第1回】オリエンテーション 【第2回】傾聴技法 【第3回】学校教育における教育相談 【第4回】アセスメント① 面接法 【第5回】アセスメント② 検査法 二日目 【第6回】教育相談に生かす諸理論と方法① 精神分析理論 【第7回】教育相談に生かす諸理論と方法② 学習理論 【第8回】教育相談に生かす諸理論と方法③ 人間性心理学 【第9回】カウンセリングマインド 【第10回】教育相談に生かす諸理論と方法④ 構成的グループエンカウンター 三日目 【第11回】不登校の理解と対応 【第12回】いじめの理解と対応 【第13回】連携 【第14回】演習 【第15回】まとめ(試験及び解説を含む) ※受講者の関心等によって変更する場合があります。 ※授業全体を通してQRコードを読み取ることのできる機器(スマートフォン等)を使用します(第1回の授業では録画機能も使用します)。 (スマートフォン等を持参できない場合は、受講前に事務局へご連絡ください。)

科目名	教育実習 I (事前事後指導) Teaching Practice I	年次・単位	教育実習 I (事前事後): 3年次・1 単位 ※教育実習を行う前年度に履修すること
担当者名	壽福 隆人・泉 敏郎	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	この科目は、教員免許状を取得するために必須の科目です。教育実習における心構えを理解すると共に、実習における事前の予行演習として各自における「模擬授業」を実施します。模擬授業においては事前に準備する指導案の作成と事後としての振り返りの時間を設け、良いクオリティの高い授業展開ができるようになることを目標とします。
学修内容	教育実習を行うにあたって、教育の意義、教師の役割などを再度学び、確認する。その上で、教育実習の意義、教科の指導案・指導方法・教材研究・特別活動の指導など教育実習に必要な知識・技術が身についているかどうかを確認する。なお、教育実習 I を受講しなければ、教育実習に行くことはできません。 ※この科目は教員の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目となり、履修者自身における「模擬授業」を実施します。
授業内容のレベル、 関連科目	教育実習にかかわる具体的な内容について学びます。教科・教職に関する科目など教育実習を適切に行うのに必要な単位を修得後(特に教科教育法)に受講することが望ましい。
授業外学修 (予習・復習)	事前学習：実習で担当する学習の指導内容や指導教材などを可能なかぎり把握しておきます。 実習が始まると、わずかな時間の中で授業の準備をしなければなりません。 事後学習：実習中に記録した実習日誌を見直すなどしながら、実習を通して学んだ生徒とのかかわり方や指導方法などまとめます。 授業外学修に必要な時間: 30 時間
使用テキスト	授業内にて適宜、資料を配布します。
参考書、その他教材	文部科学省「学習指導要領解説」
成績評価方法・基準	発表(模擬授業)・質疑応答への参加度(50%)、提出された指導案・レポートの内容(50%)
授業の形式・計画	1-2. 教育実習にむけての心構えを学ぶ 3-4. 教師として必要な知識とは(アクティブラーニングを用いて) 5-6. 具体的な指導方法・技術 <板書・発問・指名・机間指導等> 7-8. 指導案の書き方 9-10. 指導案を書く 11-12. 模擬授業を行う(事後評価を含む) 13-14. 実習に向けての課題解決(ディスカッションを用いて) 15. まとめ

科目名	教育実習Ⅱ (Teaching Practice Ⅱ) (※教育実習 高校は教育実習Ⅱ、中学校は教育実習Ⅱ・Ⅲを履修)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	壽福 隆人・泉 敏郎	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p><u>授業のねらい:</u> (1)教育実習校の指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (2)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p> <p><u>到達目標:</u> 1. 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項 (1)生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 (2)指導教員等の実施する授業を観察し、事実に即して記録することができる。 (3)教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 2. 学習指導及び学級経営に関する事項 (1)学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 (2)学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 (3)学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。</p>
学修内容	<p>教育実習校の教育実習カリキュラム等による。 研究授業では、指導内容はもとより、板書・配付するプリント・目配り気配り・発声法など教師として必要な能力・技術についてあらゆる観点から問われる。授業後の反省会で良かったところとともに改善を要する点などが指摘されるので、具体的な改善方法などについて指導を受け学び、教師としての指導技術・能力の向上に努めなければならない。 ※この科目は教員の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>教育実習は教職課程に関する講義・演習の総決算と位置付けられる学習であり、教職に関する能力・技術・資質などの全てが備わっていなければならない。 教育実習生は教師として教壇に立つ。そのため、専門教科に関する能力や言語能力だけでなく、生徒指導を適切に行うことができるだけの確かな教育観と実践的能力を持っていなければならない。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習：実習で担当する学習の指導内容や指導教材などを可能なかぎり把握しておきます。 実習が始まると、わずかな時間の中で授業の準備をしなければなりません。 事後学習：実習中に記録した実習日誌を見直すなどしながら、実習を通して学んだ生徒とのかかわり方や指導方法などをまとめます。 授業外学修に必要な時間：60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>教育実習校における指導教員の指示に従って用意する。各実習校で配布・貸与されるものを使用する。</p>
参考書、その他教材	<p>文部科学省「学習指導要領解説」「教育実習日誌」</p>
成績評価方法・基準	<p>実習校から提出される成績報告、教育実習日誌の記載内容などを加味して最終的な評価を行う。</p>
授業の形式・計画	<p>教育実習校の実習カリキュラムに従って行われる。教育実習校の指示に従うこと。高校の教員免許を目指す学生は教育実習を2週間以上、中学校の教員免許を目指す学生は教育実習を3週間以上行うこと。 ※教育実習に行くための履修資格要件(学生便覧に記載)を満たした学生は、教育実習内諾の手続きを行いますので、事務局までご相談ください。</p>

科目名	教育実習Ⅲ (Teaching Practice Ⅲ) (※教育実習 高校は教育実習Ⅱ、中学校は教育実習Ⅱ・Ⅲを履修)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	壽福 隆人・泉 敏郎	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p><u>授業のねらい:</u> (1)教育実習校の指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 (2)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p> <p><u>到達目標:</u> 1. 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項 (1)生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 (2)指導教員等の実施する授業を観察し、事実に即して記録することができる。 (3)教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 2. 学習指導及び学級経営に関する事項 (1)学習指導要領及び児童又は生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 (2)学習指導に必要な基礎的技術(話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 (3)学級担任の役割と職務内容を實地に即して理解している。</p>
学修内容	<p>教育実習校の教育実習カリキュラム等による。 研究授業では、指導内容はもとより、板書・配付するプリント・目配り気配り・発声法など教師として必要な能力・技術についてあらゆる観点から問われる。授業後の反省会で良かったところとともに改善を要する点などが指摘されるので、具体的な改善方法などについて指導を受け学び、教師としての指導技術・能力の向上に努めなければならない。 ※この科目は教員の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>教育実習は、教職課程に関する講義・演習の総決算と位置付けられる学習であり、教職に関する能力・技術・資質などの全てが備わっていなければならない。 教育実習生は、教師として教壇に立つ。そのため、専門教科に関する能力や言語能力だけでなく、生徒指導を適切に行うことができるだけの確かな教育観と実践的能力を持っていないといけない。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前学習：実習で担当する学習の指導内容や指導教材などを可能なかぎり把握しておきます。 実習が始まると、わずかな時間の中で授業の準備をしなければなりません。 事後学習：実習中に記録した実習日誌を見直すなどしながら、実習を通して学んだ生徒とのかかわり方や指導方法などをまとめます。 授業外学修に必要な時間：60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>教育実習校における指導教員の指示に従って用意する。各実習校で配布・貸与されるものを使用する。</p>
参考書、その他教材	<p>文部科学省「学習指導要領解説」「教育実習日誌」</p>
成績評価方法・基準	<p>実習校から提出される成績報告、教育実習日誌の記載内容などを加味して最終的な評価を行う。</p>
授業の形式・計画	<p>教育実習校の実習カリキュラムに従って行われる。教育実習校の指示に従うこと。高校の教員免許を目指す学生は教育実習を2週間、中学校の教員免許を目指す学生は教育実習を3週間行うこと。 ※教育実習に行くための履修資格要件(学生便覧に記載)を満たした学生は、教育実習内諾の手続きを行いますので、事務局までご相談ください。</p>

科目名	教職実践演習(中・高) Practical Teaching Seminar (for Junior/High School)	年次・単位	4年次・2単位
担当者名	壽福 隆人	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>教師になるための基礎的な内容について講義、及びワークシートの活用やグループ討議等を通して実践的な理解ができるようになる。</p> <p>到達目標 ①現代の子どもの特徴について理解できる ②様々な問題行動と対応の在り方について理解できる ③学級づくりや生徒指導について理解できる ④教師の身分や校務分掌、服務等について理解できる ⑤地理、歴史学習の学習指導案の作成及び模擬授業を通して実践的態度を深めることができる ⑥教師になるための自己課題について討議し理解を深めることができる</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>履修者の教科に関する科目および教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、教科に関する科目・教職に関する科目、教育実習を含めた教職課程の総仕上げを行う。講義は、①教師像と現代の子どもの問題 ②問題行動とその対応の在り方 ③教師の仕事と服務等 ④学習指導案の作成及び模擬授業の実施 ⑤教師になるための自己課題についてグループディスカッションを行い深めます。</p> <p>履修者は「教職課程 学びの記録」教職課程各科目「履修カルテ」を記入・整備をし、常に自己の課題を自覚・明確にして授業に参加し課題の解決に取り組みます。</p> <p>※この科目は教員の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし、実践的教育を行っている科目です。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>関連科目:教員免許状の取得に関する科目すべて(特に教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)</p> <p>講義概要は前年度実績です。変更になる場合がありますのでご注意ください。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前:自分の学校生活を振り返り、講義やグループ討議に参加すること 学習指導案づくりのための資料収集をすること</p> <p>事後:学習した事項を復習し、ノートにまとめること 模擬授業で実施した学習指導案の修正後完成すること</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>特定のテキストはありません。その他適宜、資料を配布します。</p> <p>使用教材:「教職課程 学びの記録」(履修者記録)、教職課程各科目「履修カルテ」(履修者記録) 教職科目で履修した科目をすべて記入した上で、持参すること。</p>
参考書、その他教材	<p>使用教材:「教職課程 学びの記録」(履修者記録)、教職課程各科目「履修カルテ」 (履修者記録)教職科目で履修した科目すべて記入した上で持参すること</p> <p>文部科学省『学習指導要領』(中学校・高等学校)(www.mext.go.jpで見ることができます)。指導書その他授業において指示します。</p>
成績評価方法・基準	<p>レポート、指導案、模擬授業の結果、授業中の発表・質疑応答その他平常の活動を総合的に評価します。</p> <p>[評価基準]平常点50%(授業に臨む態度・姿勢)、提出物50%</p>
授業の形式・計画	<p>第1回 教職実践演習の目的・意義・授業の進め方について(講義)</p> <p>第2回 求められる教師像について(グループ討議)</p> <p>第3回 現代社会と子どもの姿について</p> <p>第4回 最近の幼児・児童・生徒の傾向について</p> <p>第5回 様々な問題行動と対応の在り方について(いじめ・不登校)</p> <p>第6回 様々な問題行動と対応の在り方について(学級崩壊・暴力行為)</p> <p>第7回 学級について(意義、目的)</p> <p>第8回 教師の1日と教材研究について</p> <p>第9回 教師の身分と服務義務について</p> <p>第10回 社会科学習指導案と授業計画について(理論編)</p> <p>第11回 社会科学習指導案の検討について(導入の工夫、グループワーク、課題解決型学習を取り入れた学習活動)</p> <p>第12回 社会科学習指導案の構想と指導案づくり</p> <p>第13回 社会科模擬授業の実施及び討議について</p> <p>第14回 模擬授業の振り返り、まとめ</p> <p>第15回 改めて教師になるための自己の課題について(発表・グループディスカッション)</p>

科目名	介護等体験Ⅰ	年次・単位	3年次・1単位
担当者名	齊藤由美子	授業形態	スクーリング演習

授業のねらい 及び到達目標	<p>「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(平成9年6月18日法律第90号)に基づき、教員として個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることを目標として実施する。</p> <p>なお、介護等体験Ⅰは特別支援学校における介護等体験を扱い、介護等体験Ⅱは社会福祉施設における介護等体験を扱う。</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーリング演習で行う事前指導により、介護等体験を行うにあたり必要な知識を身に付け、人権への配慮、社会的常識等の理解を深める。グループでのディスカッションを多く取り入れる。 ・特別支援学校において2日間の体験実習を行う。 ・「介護等体験Ⅰ日誌」に体験の内容や感想を記録し、提出する。
授業内容のレベル、 関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職関連科目で、小・中学校教員免許状取得の必修科目である。 ・介護等体験Ⅰと介護等体験Ⅱは共通する内容があるためセットで受講する。 ・介護等体験事前指導(スクーリング)を介護等体験の前年度に受講する。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】 使用テキストに目を通しておく。</p> <p>【復習】 特別支援学校において2日間の体験実習を行い、その内容や感想を「介護等体験Ⅰ日誌」に記録し、提出する。</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校における介護等体験ガイドブック「新フィリア」(全国特別支援学校長会編、株式会社ジアース教育新社) ・「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版」(現代教師養成研究会編、大修館書店)
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布する資料
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で作成するレポートやリフレクション(15%)、ディスカッション参加度(15%)、体験報告書「介護等体験Ⅰ日誌」(70%)に基づき成績評価を行う。
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. スクーリングによる事前指導 <ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験等の意義(介護等体験Ⅰ・Ⅱ共通) ・特別支援学校(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱)の教育と児童生徒の実態、障害のある子どもとの関わり方(介護等体験Ⅰ) ・社会福祉施設(高齢者施設、児童養護施設、障害者施設)について、利用者との関わり方(介護等体験Ⅱ) ・介護等体験を行う際の留意点、日誌の書き方(介護等体験Ⅰ・Ⅱ共通) <p>*レポート等については、授業時間内に講評・解説を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 介護等体験の実施 <p>特別支援学校において、2日間の介護等体験実習を行う。</p> 3. 体験等終了後の報告書提出 <p>特別支援学校での体験実習の終了後、体験報告書「介護等体験Ⅰ日誌」を提出する。</p>

科目名	介護等体験Ⅱ	年次・単位	3年次・1単位
担当者名	齊藤由美子	授業形態	スクーリング演習

授業のねらい 及び到達目標	<p>「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(平成9年6月18日法律第90号)に基づき、教員として個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることを目標として実施する。</p> <p>なお、介護等体験Ⅰは特別支援学校における介護等体験を扱い、介護等体験Ⅱは社会福祉施設における介護等体験を扱う。</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スクーリング演習で行う事前指導により、介護等体験を行うにあたり必要な知識を身に付け、人権への配慮、社会的常識等の理解を深める。グループでのディスカッションを多く取り入れる。 ・社会福祉施設において5日間の体験実習を行う。 ・「介護等体験Ⅱ日誌」に体験の内容や感想を記録し、提出する。
授業内容のレベル、 関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職関連科目で、小・中学校教員免許状取得の必修科目である。 ・介護等体験Ⅰと介護等体験Ⅱは共通する内容があるためセットで受講する。 ・介護等体験事前指導(スクーリング)を介護等体験の前年度に受講する。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】 使用テキストに目を通しておく。</p> <p>【復習】 社会福祉施設において5日間の体験実習を行い、その内容や感想を「介護等体験Ⅱ日誌」に記録し、提出する。</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校における介護等体験ガイドブック「新フィリア」(全国特別支援学校長会編、株式会社ジアース教育新社) ・「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版」(現代教師養成研究会編、大修館書店)
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布する資料
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で作成するレポートやリフレクション(15%)、ディスカッション参加度(15%)、体験報告書「介護等体験Ⅰ日誌」(70%)に基づき成績評価を行う。
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. スクーリングによる事前指導 <ul style="list-style-type: none"> ・介護等体験等の意義(介護等体験Ⅰ・Ⅱ共通) ・特別支援学校(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱)の教育と児童生徒の実態、障害のある子どもとの関わり方(介護等体験Ⅰ) ・社会福祉施設(高齢者施設、児童養護施設、障害者施設)について、利用者との関わり方(介護等体験Ⅱ) ・介護等体験を行う際の留意点、日誌の書き方(介護等体験Ⅰ・Ⅱ共通) *レポート等については、授業時間内に講評・解説を行う。 2. 介護等体験の実施 <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉施設において、5日間の介護等体験実習を行う。 3. 体験等終了後の報告書提出 <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉施設での体験実習の終了後、体験報告書「介護等体験Ⅱ日誌」を提出する。

科目名	学校経営と学校図書館 (School Administration and School Library)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	寺岡 聡志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>授業のねらい: 学校図書館の理念と教育的意義や経営、学校図書館メディアについてなど全般的に理解をはかることを目的としている。</p> <p>到達目標: 学校経営にかかわる学校図書館の教育的意義を理解するとともに、運営能力を身につける。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性: ①②④</p>
学修内容	<p>学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を深めるために、以下の内容を主に学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の理念と教育的意義 ・学校図書館の発展と課題 ・教育行政と学校図書館 ・学校図書館の経営(人、施設、資料、予算、評価等) ・司書教諭の役割と校内の協力体制、研修 ・学校図書館メディアの選択と管理、提供 ・学校図書館活動 ・図書館の相互協力とネットワーク
授業内容のレベル、 関連科目	<p>読書に対して関心が深いこと、学校図書館のあり方を自分なりに考えていくことが必要である。</p> <p>関連科目: 読書と豊かな人間性、学習指導と学校図書館</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前 教科書はもとより、関連の参考書類は充分読んでおくこと。また、教育関係のニュースは当然だが、新聞を読むこと。</p> <p>事後 各レポート、習得試験問題など、必ず復習して理解しておくこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間: 60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	『改定新版 学校経営と学校図書館』野口武悟・前田稔編著 放送大学教育振興会 2017 ISBN-13: 978-4-595-31753-8
参考書、その他教材	
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校図書館の理念と教育的意義 2 学校図書館の歴史: 日本を中心に 3 学校図書館の現状と課題 4 教育法制・行政と学校図書館 5 教育課程・方法と学校図書館 6 校内体制の構築と教職員との協働 7 学校図書館の経営 8 学校図書館の評価と改善 9 学校図書館の施設・設備 10 学校図書館のメディア・情報資源 11 学校図書館の活動: 概論 12 学校図書館の活動: 小・中学校の事例 13 学校図書館の活動: 高等学校・特別支援学校の事例 14 図書館協力とネットワーク 15 学校図書館に関する研修・研究と展望

科目名	図書館情報資源概論 (Outline of Library and Information Resource)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	間部 豊	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>図書館で行われている様々な情報提供サービスは、情報メディアという情報の容れ物を介して提供されています。これら図書館で提供する情報メディアを総称して図書館情報資源と言います。</p> <p>この科目では、印刷資料・非印刷資料・電子資料及び電子コンテンツなど図書館で提供されている様々な情報メディアについて理解するとともに、灰色文献や主題別の文献などについても学んでいきます。</p> <p>また、これらの図書館情報資源がどのように出版・流通され、それらを図書館がどのように収集・選択して蔵書構築し、蔵書管理するのか理解することをねらい、および目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:②③④</p>
学修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館情報資源とは何か 2. 図書館情報資源の種類と特質 3. 出版流通システムと収集・蔵書構成 4. 資料収集・提供に関連して図書館の自由
授業内容のレベル、 関連科目	図書館司書資格の取得を目指す学生を対象とした科目です。事前に「図書館概論」を学んでいることが望ましいです。
授業外学修 (予習・復習)	<p>(予習)サブテキストで全体の流れを確認しながら、テキストの内容を自分で整理し、理解を深めてください。必要に応じて辞事典、関連図書・雑誌論文などを確認してください。</p> <p>(復習)サブテキストの小テストに取り組んでください。また、学習の理解をふかめるために参考文献にも目を通すようにしてください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	馬場俊明著「図書館情報資源概論」新訂版.日本図書館協会, 2018. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 8) ISBN:978-4-8204-1808-5
参考書、その他教材	テキストのほか、サブテキストを活用して学習を進めてください。またそれ以外にも、関連する資料を自ら収集するよう努めてください。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>授業はテキスト・サブテキストをもとに自習・自学します。図書館情報資源の種類とその特徴、出版流通システム、図書館の自由、蔵書形成の方法について全体を理解するように努めてください。</p> <p>UNIT1 図書館情報資源とは UNIT2 情報メディア UNIT3 図書館情報資源の種類 UNIT4 図書館職員の専門性 UNIT5～8 印刷資料 UNIT9～12 非印刷資料 UNIT13～17 電子資料 UNIT18～22 資料特論 UNIT23～26 出版流通システム UNIT27～30 図書館の自由 UNIT31～34 蔵書論 UNIT35～38 収集と選択 UNIT39～43 蔵書管理 UNIT44～47 資料の組織化 UNIT49～50 書庫管理</p>

科目名	情報資源組織論 (Information Resource Organization)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>図書、雑誌を含む記録資料からネットワーク上の情報資源におよぶ図書館情報資源の組織化について学びます。書誌コントロールの意義と理論、実際の情報資源アクセスの仕組みについて学び、あわせて図書館実務を前提とした目録法・分類法・件名法の基礎的な理解を目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:②③</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報資源組織化の意義、書誌コントロール ・ 記述目録法および書誌情報の記述 ・ 主題分析と分類法・件名法 ・ 目録作業の実際:集中目録と分担目録 ・ メタデータをふくむ書誌情報の活用
授業内容のレベル、 関連科目	<p>司書課程における専門的な科目です。先に「図書館概論」や「図書館サービス概論」を履修済であることが望まれます。本科目で組織化の理論を学び、実践的な学修を「情報資源組織演習」で行います。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材も活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<p>下記のどちらか(改訂版あるいは三訂版)を使用してください。サブテキストは改訂版に基づき作成されていますが、三訂版と関わる内容を一部追加説明しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田窪直規編著『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ:9) 改訂版, 樹村房, 2016, ISBN 978-4-88367-259-2. ・ 田窪直規編著『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ:9) 三訂版, 樹村房, 2020, ISBN 978-4883673391 ※「Maruzen eBook Library」より電子版利用可
参考書、その他教材	<p>下記のほか、サブテキストで参考文献を紹介しています。使用テキストの内容が難しい場合、併せて使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 柴田正美・高畑悦子『情報資源組織論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ III:9) 日本図書館協会, 2020, ISBN 978-4-8204-1915-0. ・ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善出版, 2020, ISBN 978-4-621-30534-8.
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 60%、レポート 40%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にして下さい。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記して下さい。</p> <p>試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の〈理解のチェック〉から論述問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報資源組織の意義と概要 2. 目録法の歴史と現在 3. 記述目録法 4. 日本目録規則 5. 主題組織法 6. 分類法 7. 日本十進分類法 8. 件名法 9. 基本件名標目表 10. ネットワークと情報資源組織 11. OPAC 12. 目録作業の実際(1) 集中目録作業 13. 目録作業の実際(2) 分担目録作業と書誌ユーティリティ 14. メタデータ 15. 目録法の新たな展開

科目名	学習指導と学校図書館 (Educational Guidance and School Library)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	寺岡 聡志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>授業のねらい: 学校図書館の「学習指導センター」としての役割を考えていく。急速にすすむ情報化社会において、いかに多くの情報を的確に取り入れ、学習に生かしていくか、学校図書館の役割は大きい。そうした役割をしっかりと認識し理解していくことを学んでいく。</p> <p>到達目標: 学習指導において司書教諭の仕事、果たす役割を認識し、児童生徒の情報活用能力の育成指導を目指している。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>学習指導における学校図書館メディア活用についての理解を深めるために以下の内容を主に学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程と学校図書館 ・発達段階に応じた学校図書館メディアの選択 ・児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成 ・学習過程における学校図書館メディア活用の実際 ・学習指導における学校図書館の活用 ・情報サービス(レファレンスサービス等) ・教師への支援と働きかけ
授業内容のレベル、 関連科目	<p>学校教育、読書教育に関心があり、読書および調べることに興味を持っていることが必要である。新聞などを読み、社会の動きに関心をもっていることが必要である。</p> <p>関連科目: 学校経営と学校図書館、読書と豊かな人間</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前 教科書はもとより、関連の参考書類は充分読んでおくこと。また、教育関係のニュースは当然だが、新聞を読むこと。</p> <p>事後 各レポート、習得試験問題など、必ず復習して理解しておくこと。</p> <p>授業外学修に必要な時間: 60時間</p>
使用テキスト (教科書)	『学習指導と学校図書館』塩谷京子・鎌田和宏 著 放送大学教育振興会 2022 ISBN-13: 978-4-595-32361-4
参考書、その他教材	「学習指導要領」文部科学省 書店で購入、もしくは文部科学省ホームページでダウンロード可
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. これからの教育と学校図書館 2. 教育課程と学校図書館 3. 学校図書館を活用した授業(1)読書センター機能を中心として 4. 学校図書館を活用した授業(2)学習センター機能を中心として 5. 学校図書館を活用した授業(3)情報センター機能を中心として 6. 情報リテラシー教育の理論 7. 情報リテラシー教育の推進 8. 情報リテラシーの育成(1)課題の設定 9. 情報リテラシーの育成(2)情報の収集 10. 情報リテラシーの育成(3)整理・分析 11. 情報リテラシーの育成(4)まとめ・表現 12. 特別支援教育と学校図書館活用 13. 情報メディアを活用した授業と学校図書館 14. 情報サービスと学校図書館 15. 学習/教育活動を支える学校図書館

科目名	読書と豊かな人間 (Reading and Rich Sense of Humanity)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	寺岡 聡志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	本来、読書とは人間の心に安らぎや学びや楽しみを授けることができる行為である。しかし、近年、読書推進のための法整備が進んでも、子どもたちの読書離れがなかなか収まらない課題がある。その中で、学校教育や(学校)図書館は、どのような役割を果たしていくことが求められているのだろうか。また、子どもたちの読書を推進するためには、どのようなことに留意して取り組むことが求められているのだろうか。これらの事柄について理解を深めていくことを目標とする。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③
学修内容	児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を深めるために、以下の内容を主に学修する。 ・読書の意義と目的・読書と心の教育(読書の習慣形成を含む) ・発達段階に応じた読書の指導と計画 ・児童・生徒向け図書の種類と活用(漫画等の利用方法を含む) ・読書の指導方法(読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等) ・家庭、地域、公共図書館等との連携
授業内容のレベル、 関連科目	特に高度の知識は必要ではないが、読書活動や読書に関わる学校教育に興味があることが大切である。 関連科目:学校経営と学校図書館、学習指導と学校図書館
授業外学修 (予習・復習)	事前学習:レポートに対する教科書やサブテキストの内容を熟読する。 事後学習:教科書やサブテキストを読み返すとともに、新聞などに掲載された読書に関する内容などについて、学んだことと関連付けて理解を深める 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	『読書と豊かな人間性』米谷茂則・岩崎れい著 放送大学教育振興会 2020 ISBN-13: 978-4-595-32226-6
参考書、その他教材	
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	1 読書活動の意義と目的 2 読書能力の発達 3 読書興味の発達 4 読書の導入的な指導-楽しむ読書を中心に- 5 読書の展開的な指導-調べ学習を中心に- 6 読書の発展的な指導-考える読書を中心に- 7 発達段階に対応した読書 8 集団読書と個人読書 9 読書資料の多様化と活用 10 読書資料の選択 11 読書後の表現 12 読書後の交流 13 家庭読書との連携 14 公共図書館などの活用 15 司書教諭の役割

科目名	図書館概論 (Outline of Library)	年次・単位	1年次 317T～、318T～、319T～ 2単位 ※その他の学生 4単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>図書館の機能や社会における意義や役割について理解することをねらいとします。また、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を理解することを到達目標とします。</p> <p>※ 授業の概要について、動画シラバスで解説しています (https://ccampus.org/auth/Login)。卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①④</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の意義・役割、図書館の理念の成立 ・ 図書館の歴史、図書館事情 ・ 公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立図書館 ・ 図書館類縁機関、図書館関係団体 ・ 今日の図書館の課題と今後の展望
授業内容のレベル、 関連科目	司書課程の導入的な科目です。司書資格を取得希望する方は、最初に学ぶことが望まれます。図書館サービスを扱う「図書館サービス概論」と密接な関係があります。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材も活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塩見昇編著『図書館概論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3:1) 日本図書館協会, 2018, ISBN 978-4-8204-1813-9.
参考書、その他教材	<p>サブテキスト内で参考文献を紹介しています。そのほか以下の補助教材を活用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善出版, 2020, ISBN 978-4-621-30534-8. ・ 日本図書館協会用語委員会編『図書館用語集』4訂版, 日本図書館協会, 2013, ISBN 978-4-8204-1311-0.
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 60%、レポート 40%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にしてください。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記してください。</p> <p>試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の〈理解のチェック〉から論述問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<p>(図書館とは何か)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と図書館 (1) 図書館とは何か 2. 現代社会と図書館 (2) 図書館職員の資格と役割 3. 図書館の構成要素と機能 4. 図書館の歴史と現在 5. 図書館と知的自由 <p>(図書館の制度と役割)</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 公共図書館の制度と機能 (1) 成立と展開 7. 公共図書館の制度と機能 (2) 図書館法と管理運営 8. 大学図書館の制度と機能 9. 学校図書館の制度と機能 10. 専門図書館の制度と機能 11. 国立国会図書館の制度と機能 12. 図書館と類縁機関・関連団体 <p>(図書館のつながりと課題)</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 図書館の社会的意義 14. 図書館を支える諸学問 15. 図書館の将来

科目名	図書館制度・経営論 (Library System and Management)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>図書館に関する法律や関連する領域の法律、及び図書館政策や図書館経営の考え方を理解することをねらいとします。職員や施設の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等についての理解を目指します。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③④</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館制度と図書館経営の概要 ・ 設置にかかわる基本的な法制の枠組み、公立図書館と図書館法、館種ごとの法制 ・ 図書館サービスと経営にかかわる法制、図書館政策 ・ 組織、職員、財政 ・ 図書館運営の計画とマーケティング、経営評価
授業内容のレベル、 関連科目	先に「図書館概論」や「図書館サービス概論」を履修済であることが望まれます。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材、図書館ホームページも活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糸賀雅児・葉袋秀樹編著『図書館制度・経営論』(現代図書館情報学シリーズ:2) 樹村房, 2013, ISBN 978-4-88367-202-8. ※「Maruzen eBook Library」より電子版利用可
参考書、その他教材	<p>下記のほか、図書館や設置主体が発行している報告書類を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善出版, 2020, ISBN 978-4-621-30534-8. ・ 今まど子・小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』 樹村房, 2016, ISBN 978-4-88367-266-0. ・ デジタル庁「e-Gov 法令検索」https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 60%、レポート 40%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にしてください。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記してください。</p> <p>試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の〈理解のチェック〉から論述問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<p>(図書館における「制度」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の制度と経営 2. 図書館制度の概要 3. 図書館法 4. 図書館関連法規 5. 図書館サービス・経営に関する法規(1) 著作権、個人情報 6. 図書館サービス・経営に関する法規(2) 管理形態、労働 7. 図書館政策 <p>(図書館における「経営」)</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 図書館の公共性と図書館経営 9. 図書館の組織と職員 10. 図書館の財政と予算 11. 図書館における計画とマーケティング(1) 地域計画とサービス計画 12. 図書館における計画とマーケティング(2) 経営サイクルとマーケティング 13. 図書館の経営評価 14. 図書館の管理形態の多様化 15. 業務委託の実際

科目名	図書館情報技術論(Library and Information Technique)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	間部 豊	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>情報技術に関する仕組みやコンピューター・ネットワークの基礎など、情報を学ぶ上で土台となる基本的内容を理解することを目標とします。</p> <p>また、図書館業務システムや電子書籍など、図書館に関わる情報技術について学び、その理解を深めることをねらいとします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②③</p>
学修内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会と情報技術について 2. コンピューター・ネットワークについて 3. 情報収集と情報リテラシーについて 4. 図書館における情報技術の活用について
授業内容のレベル、 関連科目	<p>図書館司書資格の取得を目指す学生を対象とした科目です。事前に「図書館概論」を学んでいることが望ましいです。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>(予習)サブテキストで全体の流れを確認しながら、テキストの内容を自分で整理し、理解を深めてください。必要に応じて辞事典、関連図書・雑誌論文などを確認してください。</p> <p>(復習)サブテキストの小テストに取り組んでください。また、学習の理解をふかめるために参考文献にも目を通すようにしてください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>奥村晴彦ほか「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2023」日経 BP 社, 2023. ISBN: 978-4-296-07056-5</p>
参考書、その他教材	<p>テキストのほか、サブテキストを活用して学修を進めてください。またそれ以外にも、関連する資料を自ら収集するよう努めてください。</p>
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>授業はテキスト・サブテキストをもとに自習・自学します。情報社会と情報技術、コンピューター・ネットワーク、情報収集と情報リテラシー、図書館における情報技術の活用について、全体を理解するように努めてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・インターネットの活用 2・情報倫理とセキュリティ 3・情報社会と情報システム 4・情報やメディアに関する技術 5・ネットワークやインターネットに関わる技術 6・コンピュータの仕組み:ハードウェアの技術 7・コンピュータの仕組み:ソフトウェアの技術 8・コンピュータの歴史と現代のIT業界・ 9.図書館における蔵書管理システム 10・利用者のための目録:OPAC 11・総合目録・横断検索システム 12・記事索引 13・オンラインデータベース 14・電子書籍と電子図書館 15 まとめ

科目名	図書館サービス概論(Outline of Library Service)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>図書館利用者のニーズに応じた資料や情報の提供に関するサービスについて理解することをねらいとします。図書館サービスの意義や多岐に渡るその種類・方法を学ぶとともに、各サービスを適切に行う上で必要となる著作権制度について理解することを目指します。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館サービスの意義・構造 ・ 資料提供サービスおよび情報提供サービス ・ 図書館ネットワークの意義と活用、課題解決型サービス ・ 館種や利用対象ごとのサービス ・ 図書館サービスと著作権問題
授業内容のレベル、 関連科目	先に「図書館概論」を履修済であることが望まれます。発展科目として、同じ情報提供サービスを扱う「情報サービス論」や「図書館サービス特論」があります。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材も活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢みどり『図書館サービス概論』(ライブラリー 図書館情報学:5) 第2版増訂版, 学文社, 2022, ISBN 978-4-76720-2582-2. ※ 旧版の「第2版」(2016)でも構いません。
参考書、その他教材	<p>下記のほか、サブテキスト内で参考文献を紹介しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善出版, 2020, ISBN 978-4-621-30534-8. ・ 今まど子・小山憲司編『図書館情報学基礎資料』樹村房, 2016, ISBN 978-4-88367-266-0. ・ デジタル庁「e-Gov 法令検索」https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0100/
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 60%、レポート 40%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にして下さい。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記して下さい。</p> <p>試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の〈理解のチェック〉から論述問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館サービスの概要、変遷 2. 図書館サービスと図書館ネットワーク 3. 直接サービスと間接サービス 4. 図書館サービスと資料・情報資源 5. 資料の提供 閲覧・貸出・予約・リクエスト・その他 6. 情報の提供 レファレンスサービス、レフェラルサービス 7. 情報の提供 カレントアウェアネスサービス、課題解決支援サービス、その他 8. 発信型の情報サービス 9. 広報活動 10. 利用者教育 11. 集会活動 12. 利用対象者の違いと図書館サービス 13. 図書館協力 14. 図書館サービスと著作権(1) 資料提供と著作権問題 15. 図書館サービスと著作権(2) 電子メディアの提供と著作権問題

科目名	情報サービス論 (Information Service)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目 (T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービスや情報検索のしくみについて理解することをねらいとします。総合的な理解の他、情報源整備のあり方や、情報源の特質、情報検索の実際についての理解を目指します。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①②③④</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館における情報サービスの意義 ・ 情報サービスの種類、情報資源の整備、情報ニーズと情報利用行動 ・ レファレンスサービスの考え方と手順 ・ データベースの理解および情報検索の考え方と手順 ・ 様々なレファレンス情報資源
授業内容のレベル、 関連科目	<p>先に「図書館概論」や「図書館サービス概論」を履修済であることが望まれます。本科目で情報サービスの理論を学び、実践的な学修を「情報サービス演習」で行います。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材も活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山崎久道・原田智子編著『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ:5) 樹村房, 2019, ISBN 978-4-88367-295-0 ※「Maruzen eBook Library」より電子版利用可
参考書、その他教材	<p>下記のほか、サブテキスト内で参考文献を紹介しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善出版, 2020, ISBN 978-4-621-30534-8. ・ 日本図書館協会用語委員会編『図書館用語集』4訂版, 日本図書館協会, 2013, ISBN978-4-8204-1311-0.
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 60%、レポート 40%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にしてください。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記してください。</p> <p>試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の〈理解のチェック〉から論述問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報社会と図書館 2. 図書館における情報サービスの意義 3. 情報サービスの種類と館種 4. レファレンスサービスの理論 5. レファレンスサービスの技法 6. レファレンスサービスの実際 7. 情報検索サービスの理論と方法 8. データベースの概要と種類 9. ウェブと検索エンジンの概要と利用 10. 発信型情報サービスの意義と方法 11. 図書館利用教育 12. 情報資源の特徴 (1) 書誌データ探索のための情報源 13. 情報資源の特徴 (2) 事実データ探索のための情報源 14. レファレンスブックの活用の実際 15. レファレンス情報源の組織化

科目名	情報サービス演習 (Exercises for Information Service)	年次・単位	3 年次・4 単位
担当者名	高浦 一	授業形態	スクーリング科目 (S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>何らかの情報を求めている利用者に対し、図書館職員が情報入手の支援を行うサービスを情報サービスと言います。本演習では、情報サービスの中心であるレファレンスサービスについて、その構造を理解し、基本的な技術や方法を習得することを目指します。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマポリシー)との関連性:①②③④</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> レファレンスサービスの構造とプロセス レファレンス質問への対応 調査戦略の策定 情報検索の技法の理解 レファレンス情報資源の評価 — レファレンスブックとデータベース
授業内容のレベル、 関連科目	<p>「情報サービス論／データベースの活用」の内容を受けた演習となります。司書課程における応用的な科目です。本科目の前に「情報サービス論」の履修を推奨します。(「情報サービス論」を履修できない場合は、導入科目「図書館概論」の課題レポートを必ず提出してください。)</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】「情報サービス論」の内容を復習し、授業に備えてください。</p> <p>【復習】オンライン授業や演習課題を中心に、全体を振り返ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>授業中に下記を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 長澤雅男・石黒祐子『レファレンスブック：選び方・使い方』四訂版, 日本図書館協会, 2020, ISBN978-4-8204-2001-9. <p>※ 上記の四訂版ではなく、旧版の三訂版でも構いません。</p>
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善出版, 2020, ISBN 978-4-621-30534-8. 日本図書館協会用語委員会編『図書館用語集』4訂版, 日本図書館協会, 2013, ISBN978-4-8204-1311-0.
成績評価方法・基準	<p>オンライン授業で出題する課題、対面授業における演習課題等を、総合的に評価します。 (オンライン授業の課題の 40%、対面授業の演習課題 40%、取り組み姿勢 20%)</p>
授業の形式・計画	<p>講義のほか、実際の質問課題に取り組む実践的な授業です。講義の一部を、オンライン授業(メディア授業)として、Cloud Campus から視聴します (https://ccampus.org/auth/Login)。オンライン授業の受講後、対面授業で課題演習を行います。課題演習では、大学図書館(メディアライブラリーセンター)所蔵のレファレンスブックやデータベースを使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報サービスの概要 2. レファレンスサービスの基礎 3. レファレンスプロセス 4. レファレンスインタビューの戦略 5. 調査戦略の策定 6. レファレンス情報資源と基本ツールの把握 7. レファレンスツールの評価法 8. 情報検索の技法 9. レファレンス質問への対応 (1) 言語・文字 10. レファレンス質問への対応 (2) 事物・事象 11. レファレンス質問への対応 (3) 地理・地名、歴史・日時 12. レファレンス質問への対応 (4) 人物・団体 13. レファレンス質問への対応 (5) 文献情報 14. レファレンス質問への対応 (6) 総合問題 15. 児童レファレンスの概要

科目名	情報資源組織演習 (Seminar on Information Resource Organization)	年次・単位	4 年次・4 単位
担当者名	高浦 一	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>大量の情報資源に同一の基準のもとに秩序を与え、必要な情報へのアクセスを保障する仕組みを作ることを情報資源組織化と言います。本演習では、情報資源組織化の方法である記述目録法(目録法)および主題目録法(分類法・件名法)について、その理解を深め、基本的な技術と方法を習得することを目指します。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:②③</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報資源組織化の概要と、「目録」の歴史 ・ 記述目録法 — 書誌データの把握、標目の理解 ・ 主題目録法(1) 主題分析、分類作業 ・ 主題目録法(2) 件名作業 ・ 目録作成の現状と今後の動向 — 民間 MARC と NACSIS-CAT
授業内容のレベル、 関連科目	<p>履修前に、必ず「図書館司書課程 学修の手引き」を確認してください。本科目は「情報資源組織論／情報活用論」の内容を受けた、司書課程における専門的な科目です。本科目の前に「情報資源組織論」を履修し、科目の概要を把握することを強く推奨します。(入学時期によって「情報資源組織論」を履修できない場合、演習に参加する前に、導入科目となる「図書館概論」の課題レポートを必ず提出してください。)</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】「情報資源組織論／情報活用論」の内容を復習し、演習に備えてください。</p> <p>【復習】オンライン授業や演習課題を中心に、全体を振り返ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120 時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>授業中にテキストに相当する資料を配布します。参考資料として、下記を紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和中幹雄ほか『情報資源組織演習』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 :10) 日本図書館協会, 2016, ISBN 978-4-8204-1515-2.
参考書、その他教材	<p>次の資料を授業中に貸与します。ただし、版に関しては変更になる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もりきよし原編, 日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法』新訂 9 版, 日本図書館協会, 1995 ・ 日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則』1987 年版改訂 3 版, 日本図書館協会, 2006 ・ 日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表』第 4 版, 日本図書館協会, 1999
成績評価方法・基準	<p>オンライン授業で出題する課題、対面授業における演習課題等を、総合的に評価します。</p> <p>(オンライン授業の課題の 40%、対面授業の演習課題 40%、取り組み姿勢 20%)</p>
授業の形式・計画	<p>講義のほか、実際の目録作成に取り組む実践的な授業です。講義の一部を、オンライン授業(メディア授業)として、Cloud Campus から視聴します(https://ccampus.org/auth/Login)。オンライン授業の受講後、対面授業で課題演習を行います。課題演習では、大学図書館(メディアライブラリーセンター)所蔵の 3 つのツール(NCR,NDC,BSH)を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報資源組織化の概要 2. 記述目録法 3. 日本目録規則を用いた書誌データの作成 — 記述、標目 4. 日本目録規則を用いた書誌データの作成 — タイトルと責任表示、版、出版頒布等 5. 日本目録規則を用いた書誌データの作成 — 形態、シリーズ、注記、標準番号 6. 主題目録法(1) : 分類法 7. 日本十進分類法を用いた分類記号の付与 — 本表、補助表、相関索引 8. 日本十進分類法を用いた分類記号の付与 — 形式区分、地理区分、海洋区分 9. 日本十進分類法を用いた分類記号の付与 — 言語区分、言語共通区分、文学共通区分 10. 日本十進分類法を用いた分類記号の付与 — 分類規程 11. 主題目録法(2) : 件名法 12. 基本件名標目表を用いた件名付与 — 件名規定 13. 目録作成の実際 14. 書誌ユーティリティ — NACSIS-CAT の実際 15. 目録作成の動向 — NCR2018 と NACSIS-CAT2020

科目名	図書館基礎特論(Basic Lecture on Library)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	和書の概要を学びます。「本」の歴史や形態、種類についての知識は図書館司書の原点と言えます。本科目では、書物(和書)および書誌学についての基礎を学ぶことをねらいとし、その種類、歴史的経緯、意義についての理解を目指します。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> 和書に関する書誌学 書物(和書)の歴史と形態:書物の装訂 書物(和書)の種類 — 写本と刊本、整版と活字版 書物の大きさ、 書物の各部位の名称
授業内容のレベル、 関連科目	先に「図書館概論」を履修済であることが望まれます。司書課程における専門的な科目です。洋書については「図書館情報資源特論」で学びます。関連科目として「図書・図書館史」があります。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材も活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 廣庭基介ほか『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社, 1998, ISBN 978-4-7907-0710-3.
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編『図書館情報学用語辞典』第5版, 丸善出版, 2020, ISBN 978-4-621-30534-8. 日本図書館協会用語委員会編『図書館用語集』4訂版, 日本図書館協会, 2013, ISBN 978-4-8204-1311-0.
成績評価方法・基準	レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 50%、レポート 50%) レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にしてください。 レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記してください。 試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の〈理解のチェック〉から論述問題を出題します。
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 書誌学とは何か: 定義 2. 書誌学の対象: 江戸時代までを対象とする理由 3. 書物の歴史と形態 (1) 紙の出現まで 4. 書物の歴史と形態 (2) 紙の出現以降 5. 書物の歴史と形態 (3) 書物の装訂 6. 書物の種類 (1) 写本 7. 書物の種類 (2) 日本の古写本 8. 書物の種類 (3) 刊本 9. 書物の種類 (4) 日本の印刷 10. 書物の種類 (5) 刊本の検討方法 11. 書物の大きさ (1) 大本系 12. 書物の大きさ (2) 半紙本系 13. 書物の大きさ (3) 横本系 14. 書物の大きさ (4) 特大本、特小本、方形本など 15. 書物の各部位の名称

科目名	図書館サービス特論(Library Service)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>高度情報化社会は、従来の図書館の姿を大きく変えています。情報の体系化や整理という役割・機能が大幅に進化し、新たなサービスの創造と展開が見られます。本科目では、新しい図書館サービスの具体的な内容や意義を理解し、今後の図書館のあるべき姿を考えることを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③④</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決型サービスの意義 ・ 公立図書館における課題解決型サービスの実例 ・ ICTを活用した図書館サービスの実例
授業内容のレベル、 関連科目	先に「図書館概論」や「図書館サービス概論」「情報サービス論」を履修済であることが望まれます。司書課程における応用的な科目です。
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材、図書館ホームページも活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大串夏身編『課題解決型サービスの創造と展開』(図書館の最前線:3) 青弓社, 2008, ISBN978-4-7872-0038-9. ※電子版有(購入可) ・ 大串夏身編『最新の技術と図書館サービス』(図書館の最前線:2) 青弓社, 2007, ISBN978-4-7872-0036-5. ※電子版有(購入可)
参考書、その他教材	<p>下記のほか、各図書館のホームページ等から、課題に沿った最新の事例に当たってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省資料「地域の情報ハブとしての図書館(課題解決型の図書館を目指して)」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/05091401.htm, 2005. ・ 文部科学省資料「これからの図書館像(実践事例集)」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/houkoku/06040715.htm, 2006.
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 50%、レポート 50%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にしてください。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意するほか、引用・参考文献を明記してください。</p> <p>試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の〈理解のチェック〉から論述問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題解決型サービスを提供する意義について 2. 仕事や生活に役に立つと認知される図書館になるために — 鳥取県立図書館のビジネス支援事業 3. 上田情報ライブラリーでの青年・女性のキャリアアップと就労支援、ニート支援 4. 仕事と暮らしに役立つ図書館をめざして — 福岡県立図書館の取り組み 5. 公共図書館での健康情報サービスの発展をめざして 6. 食育で情報発信 — 福井県立図書館の取り組み 7. 学校図書館と公立図書館 8. 学校図書館と公共図書館 9. 法律情報の提供サービス 10. 行政支援サービス 11. 地域文化と図書館 12. 地域情報と図書館 13. 図書館における情報技術の意義 14. ICTを活用した図書館サービスの実例 (1) IC タグ、情報発信 15. ICTを活用した図書館サービスの実例 (2) 電子図書館

科目名	図書館情報資源特論 (Library and Information Resource)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	高浦 一	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>本(洋書)の概要を学びます。「本」の歴史や形態、種類についての知識は図書館司書の原点と言えます。本科目では、本(洋書)の種類、構成、制作過程、流過程、メディアの違いについての基礎を学ぶことをねらいとし、図書館での職務の視点からの実用的な理解を目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①③</p>
学修内容	<ul style="list-style-type: none"> 本の定義と用語 本の種類と大きさ(造本、判型)、各部分の名称 本制作の過程と流通 — 企画、編集、印刷、製本、出版 雑誌との違い 電子メディアの現在と将来 — 電子書籍
授業内容のレベル、 関連科目	<p>先に「図書館概論」を履修済であることが望まれます。司書課程における応用的な科目です。「図書館情報資源概論」と密接な関連があります。和書については「図書館基礎特論」で学修します。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【予習】サブテキストで全体の流れを把握しながら、テキストで理解を深めてください。下記の参考書や補助教材も活用してください。</p> <p>【復習】レポート講評や余白コメントを参考に、必要に応じてレポートの不足分を補ってください。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 日本エディタースクール編『本の知識:本に関心のあるすべての人へ!』日本エディタースクール, 2009, ISBN 978-4-88888-385-6.
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> 馬場俊明編著『図書館情報資源概論』(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3:8)日本図書館協会, 2012, ISBN978-4-8204-1217-5. 植村八潮・柳与志夫編『ポストデジタル時代の公共図書館』勉誠出版, 2017, ISBN 978-4-585-20057-4.
成績評価方法・基準	<p>レポート課題および試験の結果により評価します。(科目修得試験 60%、レポート 40%)</p> <p>レポートは、課題の趣旨の把握、レポートの体裁、テキストの理解度などをみて評価します。レポートには講評を付記しますので、参考にしてください。</p> <p>レポートの体裁としては、全体の構成に注意する他、引用文献・参考文献を明記してください。</p> <p>試験は、テキストやレポートの理解度を確認するために行います。サブテキスト記載の<理解のチェック>から論述問題を出題します。</p>
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 本の定義 本の5つの要件 本の種類:製本の種類 本の大きさ:判型 本の各部分の名称(1)外形 本の各部分の名称(2)ページの構成 本の各部分の名称(3)内容順序 本の各部分の名称(4)前付 本の各部分の名称(5)本文 本の各部分の名称(6)後付 本を作る工程 雑誌について(1)本との違い 雑誌について(2)構成要素 流通 付和装本

科目名	図書・図書館史 (Books and History of Library)	年次・単位	1年次・2単位
担当者名	間部 豊	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	この授業では記録メディアの歴史について学ぶとともに、図書館の歴史について公共図書館史を中心に世界・日本のそれぞれについて学び、その内容について理解を深める事を目標とします。 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:②③
学修内容	1. 記録メディアの歴史について 2. 図書館の歴史(世界)について 3. 図書館の歴史(日本)について
授業内容のレベル、 関連科目	図書館司書資格の取得を目指す学生を対象とした科目です。事前に「図書館概論」を学んでいることが望ましいです。
授業外学修 (予習・復習)	(予習)サブテキストで全体の流れを確認しながら、テキストの内容を自分で整理し、理解を深めてください。必要に応じて辞事典、関連図書・雑誌論文などを確認してください。 (復習)サブテキストの小テストに取り組んでください。また、学修の理解をふかめるために参考文献にも目を通すようにしてください。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	小黒浩司編著「図書・図書館史」日本図書館協会,2013. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 11) ISBN:978-4-8204-1218-2
参考書、その他教材	テキストのほか、サブテキストを活用して学修を進めてください。またそれ以外にも、関連する資料を自ら収集するよう努めてください。
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30% ※科目修得試験対策としては、使用テキスト・サブテキスト(確認テスト・理解度テストを要確認)を中心に学修してください。
授業の形式・計画	授業はテキスト・サブテキストをもとに自習・自学します。記録メディアの歴史、世界の図書館の歴史、日本の図書館の歴史について全体を理解するように努めてください。 第1部 記録メディアの歴史 UNIT1 紙以前の記録メディア UNIT2 紙の発明 UNIT3 図書の形態史 UNIT4 印刷術の発明 UNIT5/6 印刷の種類・大量印刷の時代 UNIT7 雑誌・新聞の歴史 UNIT8 近代のマスメディア UNIT9/10 メディアの多様化／新しいメディア 第2部 図書館の歴史(世界) UNIT11 図書館の源流 UNIT12 中世の図書館 UNIT13 近世の図書館 UNIT14 公共図書館の成立 UNIT15 近代の図書館 第3部 日本の図書館 UNIT17～19 近代の日本の図書館(戦前図書館史) UNIT20～25 現代の日本の図書館(戦後図書館史)

科目名	博物館概論 (Introduction to Museology)	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	五十嵐 卓	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>博物館は、単なる過去の遺物の貯蔵庫ではなく、過去と現在の知識と記憶を次代につなげ、未来を作り上げる装置です。社会と文化を構築する装置としての博物館の成り立ちとその問題点を検証したうえで、広く国内外に目をむけて現代における博物館の多様な活動のありかたを実践に即した形で把握して、さらにその将来に向けた可能性を展望することを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>本講は博物館学をこれから学ぶうえでの基礎的知識として、博物館そのものを研究対象に、博物館の定義を学び、博物館がどのような施設をもち、どのような活動をする機関なのか、どのような社会的な使命を担っているのか、その存在理由は何か学修します。また、そこに学芸員として勤務する者の業務内容などといったことも学びます。そして現在の博物館の機能と目的を地域社会との関わりや生涯学習の視点から考えます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	生涯学習論/博物館経営論/博物館資料論/博物館資料保存論/博物館展示論/博物館教育論/博物館情報・メディア論/博物館実習
授業外学修 (予習・復習)	<p>身近な博物館を見学し、様々な観点から、その博物館を調査する。また、インターネットを利用して、展示ばかりではなく、博物館活動の多くを知る。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト	「博物館概論」放送大学教育振興会 吉田 憲司 ISBN: 978-4595312571
参考書、その他教材	「博物館学 I 博物館概論*博物館資料論」学文社 大堀 哲, 水島 英治 ISBN: 978-4762022845
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>【第1回】博物館学とはなにか(理念、目的、方法、構成)</p> <p>【第2回】博物館学と周辺科学</p> <p>【第3回】博物館の内容</p> <p>【第4回】博物館関連法規</p> <p>【第5回】博物館の定義(類縁機関との違いを含む)</p> <p>【第6回】博物館の分類。種類(館種、設置者別、法的区分等)</p> <p>【第7回】生涯学習と博物館</p> <p>【第8回】学芸員の役割(定義、役割、実態)</p> <p>【第9回】博物館の見学・調査 1</p> <p>【第10回】博物館の歴史(ヨーロッパ)/ルーヴル美術館・大英博物館</p> <p>【第11回】博物館の歴史(アメリカ)/ボストン美術館・メトロポリタン美術館</p> <p>【第12回】博物館の歴史(日本)/正倉院について</p> <p>【第13回】博物館の歴史(日本)/室町時代~江戸時代</p> <p>【第14回】博物館の歴史(日本)/東京国立博物館</p> <p>【第15回】博物館の見学・調査 2</p>

科目名	博物館資料論 (Information Resources of Museum)	年次・単位	1 年次・2 単位
担当者名	五十嵐 卓	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	【ねらい】博物館資料に関する知識を習得する。 【到達目標】学芸員資格を取得するのに必要な博物館資料に関する基礎的能力の修得。
学修内容	1)博物館資料の概念, 2)博物館資料の収集・整理・保管, 3)博物館資料と調査研究活動研究管理について学習していく。
授業内容のレベル、 関連科目	【レベル】博物館概論を履修したうえで受講すること 【関連科目】学芸員資格関連科目
授業外学修 (予習・復習)	【予習】テキストを熟読してから, レポート学修を開始すること 【復習】教科書および返却レポートを読み返すこと 授業外学修に必要な時間:60 時間
使用テキスト	大堀哲・水嶋英治編「博物館学 I」学文社 ISBN-13 : 978-4762022845
参考書、その他教材	なし
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館資料の概念 <ol style="list-style-type: none"> 1)博物館資料の意義 2)博物館資料の種類 3)博物館資料化のプロセス 2 博物館資料の収集・整理・保管 <ol style="list-style-type: none"> 1) 収集の理念と方法 2) 資料の分類・整理・保管 3) 資料公開の理念と方法 3 博物館資料と調査研究活動 (p.141) <ol style="list-style-type: none"> 1) 博物館における調査研究の意義 2) 調査研究の方法・内容・カテゴリー 3) 館種別調査研究 4) ほかの博物館・大学などとの共同調査研究 5) 調査研究の成果公表と還元

科目名	博物館経営論 (Museum and Management)	年次・単位	2 年次・2 単位
担当者名	小森 次郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【ねらい】博物館を管理・運営するには、適切な組織や財源が必要である。そこで本科目では博物館経営の本来の使命および仕組み、および現状と課題について理解する。</p> <p>【到達目標】学芸員資格を取得するのに必要な知識と博物館経営の実践的イメージの修得。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	前半では博物館経営の意義と組織等の概要を学習し、後半ではより実践的な視点で博物館経営について考察と立案を行う。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業内容のレベル】原則として「博物館概論」「博物館資料論」を履修してから受講をしてください。学芸員資格取得を目的としているので、主体的な姿勢での学習が求められる。したがって、自ら考えた自らの言葉によって書かれたオリジナリティのあるレポート以外は再提出となるので注意してください。</p> <p>【関連科目】生涯学習論。ほか博物館学関連科目。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前】教科書、サブテキストを熟読してからレポート作成に取り組むこと。 博物館・美術館等での企画・運営に関する新聞やインターネット上の記事を日頃から閲覧し考察すること。</p> <p>【事後】教科書、サブテキストを読み返すこと。 レポート提出後も、「集客」を必要とする組織(博物館に限らない)については、そこでの経営努力について日頃から興味を抱いて注目すること。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	「新版 博物館学講座 12 博物館経営論」加藤有次 ほか編. 雄山閣出版. ISBN-13: 978-4639016427
参考書、その他教材	<p>・「新編 博物館学」倉田・矢島著. 東京堂出版. ISBN-13: 978-4490203233</p> <p>・「新訂 博物館経営・情報論」佐々木ほか著. 放送大学教育振興会. ISBN-13: 978-4595308260</p>
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>1・2 博物館経営とはなにか</p> <p>3・4 法制度から見た博物館経営</p> <p>5・6 博物館の組織 - 人的構成-</p> <p>7・8 博物館の組織 - 物的構成-</p> <p>9・10 博物館経営の収入源</p> <p>11・12 博物館経営の広報</p> <p>13・14 博物館経営の評価</p> <p>15 経営の観点に基づく博物館の視察(現状把握と問題点の抽出)</p>

科目名	博物館情報・メディア論 (Museology, Information and Media)	年次・単位	2年次・2単位
担当者名	五十嵐 卓	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>「説明を聞き、知識としてわかるだけではなく、まず実物と対面し、モノからオーラを感じて欲しい」というメッセージは、抽象的ではあるが、博物館が言語を超えて、モノに触れ、知覚で感じることの大切さを表した、博物館独自の学びを象徴している。今日、一般的にメディアという場合、マスメディアなどの媒体(メディア)を言い、中でも電氣的にデータ化されるデジタルな情報をイメージする傾向があるが、「モノ」とくに「実物資料」はそれ自体がメディアであると言える。</p> <p>本講はこうした資料がもつ情報のアナログ性・デジタル性の特質を理解し、それぞれの活用と役割について深く理解を求めるところを目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④</p>
学修内容	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力として、情報やメディアの意義、関連する理論、情報発信、知的財産などを扱います。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>[予備知識]</p> <p>本科目は、学芸員課程の7番目に開設され、博物館活動全般(経営、資料管理、資料保存、展示、教育等)にわたる内容を持つ。「生涯学習概論」と博物館概論」は、かならず事前に履修しておくものとする。</p>
授業外学修 (予習・復習)	多くの博物館に足を運び、ここで用いられている情報機器・メディアに焦点をあてながら見学をすること。 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	「博物館情報・メディア論」放送大学教育振興会 西岡 貞一, 篠田 謙一 ISBN: 978-4595314124
参考書、その他教材	<p>「博物館学Ⅲ—博物館情報・メディア論*博物館経営論」学文社 大堀 哲, 水島英治 ISBN: 978-4762022869</p> <p>「博物館情報・メディア論」ぎょうせい 日本教育メディア学会 ISBN: 978-4324095843</p>
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>第1回 博物館における情報・メディアの意義 博物館における情報提供は、近代的な博物館設立当初からの主要な役割であり、情報化社会の中ではますます重要となっている。「博物館における情報とは」という問いを考える。</p> <p>第2回 情報の提示 1枚の絵「モノ」から、どのような情報をどのように伝えるか考え、その提示方法についてアイデアを出し、情報をどのように提示していくか考察する。</p> <p>第3回 展示における情報発信 博物館において、どのように展示物を見せるか、情報を提示するかについて、プレゼンテーションの方法や技術を知り、実際の資料をもとにプレゼンテーションを考える。</p> <p>第4回 メディアとしての博物館 博物館を視聴覚メディアの発達と歴史のなかで考察する。</p> <p>第5回 ICT、情報(information)や通信(communication)社会の中での博物館。 情報資源の双方向活用と役割。学校・図書館・研究機関の情報化。</p> <p>第6回 視聴覚メディアの歴史 19世紀、20世紀と、メディアがどのように発展し、活用されてきたかを振り返り、21世紀におけるメディア社会において、新しい時代に対応したメディア論について考察する。</p> <p>第7回 静止画と動画の活用 博物館教育において、静止画と動画をどのように活用するかについて考える。また、それらを博物館活動でどのように活かすかを検討する。</p> <p>第8回 デジタルストーリーテリングとは何か コンピュータ上で静止画(写真や絵など)を自分自身のナレーションでつないでいくデジタルストーリーテリングの手法を用い、約2分間のデジタルストーリー作品を作る 博物館教育において、静止画と動画をどのように活用するかについて考える。また、それらを博物館活動でどのように活かすかを検討する。</p> <p>第9回 デジタルストーリーテリングのプレゼンテーションの作成</p> <p>第10回 博物館における情報の発信 情報管理・情報公開</p> <p>第11回 インターネットの活用</p> <p>第12回 博物館とメディアリテラシー 博物館と知的財産。博物館学芸員が必要とするメディアリテラシーについて考える。</p> <p>第13回 個人情報(肖像権)</p> <p>第14回 博物館教育とメディア 博物館における教育活動を進める上で、メディアが果たす役割と利用について考える。</p> <p>第15回 21世紀メディア社会における学習 授業全体をふり振り返り、博物館における「学習」を振り返る。21世紀メディア社会で、いかに学ぶかについて、考え、学習してきたことを学習課題としてまとめる。</p>

科目名	博物館資料保存論 (Conservation of Information Resources of Museum)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	五十嵐 卓	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	【ねらい】博物館資料の保存に関する知識を習得する 【到達目標】学芸員資格を取得するのに必要な博物館の資料保存に関する基礎的能力の修得 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④
学修内容	博物館で扱う資料の保存総論, 資料の保存環境, 資料の保全に関して学修していく
授業内容のレベル、 関連科目	【レベル】博物館資料論を履修したうえで受講すること 【関連科目】学芸員資格関連科目
授業外学修 (予習・復習)	【予習】テキストを熟読してから, レポート学修を開始すること 【復習】教科書および返却レポートを読み返すこと 授業外学修に必要な時間:60時間
使用テキスト (教科書)	博物館資料保存論, ISBN-13: 978-4061565036, 石崎武志編, 講談社
参考書、その他教材	なし
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 博物館資料保存総論 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 文化財保護の歴史 1.2 文化財とは 1.3 文化財の性質 1.4 博物館資料の劣化の原因 1.5 文化財の保存に関する倫理 2 博物館資料の保存環境 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 温湿度環境 2.2 光と照明 2.3 室内空気汚染 2.4 生物被害 2.5 伝統的保存方法 2.6 博物館資料の被災防止と救援活動 3 資料の保全 <ol style="list-style-type: none"> 3.1 資料の状態調査による現状把握 3.2 紙資料の修復・修理 3.3 資料の梱包と輸送

科目名	博物館展示論 (Museum and Exhibition)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	小森 次郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【ねらい】「展示」は博物館において基本的かつ本質的な機能である。博物館の利用者は主にこの「展示」を求めて来館し、博物館のスタッフは「展示」の充実に時間と労力を費やし、博物館をとりまく組織や社会もその「展示」の良し悪しを主な評価対象としている。そこで、本科目では学芸員として必要な展示に関する概念、意義、および具体的な手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】学芸員資格を取得するのに必要な知識と、博物館の空間形成や展示の実践的イメージの修得。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>展示の歴史、展示の各種形態、および具体的手法等に関する知識・技術を習得する。さらにこれらの知識をもとに各自で展示企画の立案を試みる。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業内容のレベル】原則として、「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営論」「博物館教育論」を履修してから受講をしてください。学芸員資格取得を目的としているので、主体的な姿勢での学習が求められる。したがって、自ら考えた自らの言葉によって書かれたオリジナリティのあるレポート以外は再提出となるので注意してください。</p> <p>【関連科目】生涯学習論。ほか博物館学関連科目。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前】教科書、サブテキストを熟読してからレポート作成に取り組むこと。博物館・美術館等での展示に関する新聞やインターネット上の記事を日頃から閲覧し考察すること。また、本科目は特にオリジナリティのあるレポートを作成してもらうため、博物館等の施設には積極的に訪問してもらい、博物館展示に関する参考資料の収集や聞き取り、自ら撮影した写真の蓄積を図ることを心がけてください。</p> <p>【事後】教科書、サブテキストを読み返すこと。レポート提出後も、博物館だけではなく「もの」を展示・陳列する場所において、展示手法等について興味をもって観察し考察をくわえるようにしてほしい。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60時間</p>
使用テキスト (教科書)	<p>「博物館展示の理論と実践」 里見親幸著。同成社。ISBN-13: 978-4886216540</p>
参考書、その他教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「博物館学II -博物館展示論* 博物館教育論-」大堀・水嶋 著。学文社。ISBN-13: 978-4762022852 (特に1～169ページ) ・「新版 博物館学講座 9 博物館展示法」加藤ほか編。雄山閣出版。ISBN-13: 978-4639016731 ・「学芸員のための展示照明ハンドブック」藤原 著。講談社。ISBN-13: 978-4061565210
成績評価方法・基準	<p>科目修得試験 70%、レポート 30%</p>
授業の形式・計画	<p>本科目は以下の流れから構成される。</p> <p>1～3・博物館における展示の概念</p> <p>4～6・展示と陳列の違い。展示が持つ意味</p> <p>7～9・展示の分類 特に時間と空間ごとに分類した展示の例を把握する</p> <p>10～12・展示を行う空間の条件と工夫(展示照明等の理解)</p> <p>13～15・展示の企画の発案</p>

科目名	博物館教育論 (Museum and Education)	年次・単位	2 年次・2 単位
担当者名	小森 次郎	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【ねらい】博物館のもつ使命と社会的役割において「教育」を欠くことはできない。そして、生涯学習のニーズが大きくなる中で、博物館の担う教育的役割も一層増してきている。授業では博物館教育の実例とその教育的効果を学び、博物館教育の重要性と将来の課題について理解する。</p> <p>【到達目標】学芸員を取得するのに必要な知識と、博物館教育に関する知識と実践的イメージの修得。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	前半では博物館教育の概略とその効果について学修する。後半では博物館や美術館等における教育の実例を学び、同時に各自による企画立案を行う。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業内容のレベル】原則として「博物館概論」「博物館資料論」を履修してから受講をしてください。学芸員資格取得を目的としているので、主体的な姿勢での学修が求められる。したがって、自ら考えた自らの言葉によって書かれたオリジナリティのあるレポート以外は再提出となるので注意してください。</p> <p>【関連科目】生涯学習論。ほか博物館学関連科目。</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前】教科書、サブテキストを熟読してからレポート作成に取り組むこと。 博物館・美術館等での教育に関する新聞やインターネット上の記事を日頃から閲覧し考察すること。</p> <p>【事後】教科書、サブテキストを読み返すこと。 レポート提出後も、博物館教育の視点をもって博物館等の施設への訪問を重ねてほしい。</p> <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	・「博物館学Ⅱ－博物館展示論* 博物館教育論-」大堀・水嶋 著。学文社。ISBN-13: 978-4762022852
参考書、その他教材	<p>・「博物館の理論と教育」浜田弘明 編。朝倉書店。ISBN-13: 978-4254105674</p> <p>・「博物館教育論」小笠原喜康ほか編。ぎょうせい。ISBN-13: 978-4324092460</p> <p>・「博物館の学びをつくりだす—その実践へのアドバイス」小笠原喜康 著。ぎょうせい。ISBN-13: 978-4324078891</p>
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>本科目は以下の流れから構成される。</p> <p>1・2 博物館教育とは何か。生涯学習と博物館。</p> <p>3・4 学校式教育と博物館式教育の比較。博物館教育の先駆者。</p> <p>5・6 博物館教育の構造。教育手法と教材・スタイル。</p> <p>7・8 ワークシートを用いた博物館教育</p> <p>9・10 博物館教育に関する問題点</p> <p>11・12 博物館教育の現状把握(履修者自ら任意の博物館を調査)</p> <p>13・14 仮想博物館における教育案(履修者自らの発案)</p> <p>15 まとめ</p>

科目名	博物館実習 (Practice in Museum)	年次・単位	4年次・3単位
担当者名	五十嵐 卓	授業形態	スクーリング科目(E)

授業のねらい 及び到達目標	<p>学芸員課程における最終授業科目として、実際に活動している博物館での実習を行います。</p> <p>博物館は資料の調査・収集・保存・研究を行うとともにそれらを公開、展覧会などを開催し広く社会教育を行う機関です。そこにおける専門的職員である学芸員は、資料の取り扱いに関する知識や技術とともに、展示に関する実務を習得する必要があります。また、研究者としての立場から、「モノを見る目」を養うことも必須と言えます。本実習は、これらの要件についての基礎知識と技術の習得を目標とします。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①④</p>
学修内容	<p>1.【事前指導・見学実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学内で事前指導を2日、施設を訪問し現場を体感する見学実習を1日実施します。(予定) <p>2.【博物館実務実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習受け入れ先の実習カリキュラムによる(5日間) <p>3.【事後指導(レポート)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館実習後の反省と、学芸員になるために何を学んだかのレポートを2課題作成する。課題内容は冊子「レポート課題」を参照すること。
授業内容のレベル、 関連科目	「博物館実習」を履修する前年度までに、「博物館概論」「博物館資料論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」を修得していること
授業外学修 (予習・復習)	事前指導前に、各自博物館の見学を行うこと。 また実習後にレポート課題を提出すること。 授業外学修に必要な時間は別途指示します。
使用テキスト (教科書)	随時プリントを配布し、参考文献を照会する。
参考書、その他教材	○『博物館実習マニュアル』全国大学博物館学講座協議会西日本部会(編集)芙蓉書房出版 ISBN-13: 978-4829503140
成績評価方法・基準	事前指導や見学実習、実務実習での平常点(授業に臨む態度・姿勢)やレポート課題の提出物により評価します。
授業の形式・計画	<p>【事前事後指導・見学実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> －事前指導－ 【第1回】博物館実習にあたっての注意事項 【第3回】自然系資料の取り扱い 【第6～10回】博物館見学実習 【第12回】実習作業(拓本作成) 【第14回】実習作業(標本作成) －事後指導(レポート)－ 実習終了後に、レポートを提出すること <p>【博物館実務実習】</p> <p>実習内容は、博物館活動の基本である資料の取り扱い、分類整理、展示、保存、調査研究、教育普及活動の分野に分けて組まれますが、具体的には実習受け入れ先の博物館の性格やその専門性によりその内容が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館実習の期間および実習先 <ul style="list-style-type: none"> ・8月上旬～中旬 / 午前9:00～午後5:00まで / 5日間 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 ・学芸員課程費がかかります。 ・実習期間中は、実習施設に宿泊することになります。宿泊費は無料です。

科目名	生涯学習支援論	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	鈴木 邦明	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>社会教育の意義や課題、普及啓発の方法等について理解を深めます。 学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図ります。 到達目標は、次の3点です。</p> <p>①研修・講座等の理論的枠組みを理解する。 ②研修・講座等を実際に企画・立案できるようになる。 ③研修・講座等を運営する際の留意点等を把握する。</p> <p>・卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>社会教育主事に求められる資質は多岐にわたっていますが、その中でも特に研修・講座等の企画・立案・運営は、社会教育主事の力量が試される場となります。</p> <p>本授業を通じて、以下の内容を習得していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援に関する教育理論 ・効果的な学習支援方法 ・学習プログラムの編成 ・参加型学習の実際とファシリテーション技法等
授業内容のレベル、 関連科目	<p>社会教育や生涯学習について興味関心を持つとともに、普及啓発のあり方についての探究心が求められます。関連科目は「生涯学習論」「社会教育計画」「教育方法・技術論」</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>テキストや関連書籍に目を通しておくことが望まれます。</p> <p>また、限られた時間の中でプログラムを作成する創造力と集中力を日ごろから鍛えておくことが求められます。授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト	<p>浅井経子ほか『生涯学習支援の工具箱』(社会通信教育協会) ISBN:978-4991075605</p>
参考書、その他教材	<p>特になし</p>
成績評価方法・基準	<p>授業における平常点 60%(授業に臨む態度・姿勢)、提出物 40%</p>
授業の形式・計画	<p>①ガイダンス ②アクティブラーニング ③生きる力 ④学習の仕方1 ⑤学習の仕方2 ⑥教員とコーディネーターの関係 ⑦コーディネートの5原則 ⑧コミュニティ・スクール ⑨参加型学習 ⑩事業評価 ⑪情報リテラシー ⑫地域学校協同活動 ⑬野外教育 ⑭レジリエンス ⑮生涯学習支援に役立つ道具についてのまとめ ⑯課題解決型学習のための作業シート ⑰チェックリスト法 ⑱ディベート ⑲特性要因図法 ⑳バズセッション ㉑フォーラム ㉒ロールプレイング ㉓ワールドカフェ ㉔学習とその支援に役立つ技法のまとめ ㉕AI ㉖IoT ㉗合理的配慮 ㉘Society 5.0 ㉙マズローの欲求階層 ㉚まとめ</p>

科目名	社会教育経営論	年次・単位	2年次・4単位
担当者名	鈴木 邦明	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>【授業のねらい】多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る。</p> <p>【到達目標】社会教育計画策定の背景となる法的根拠、社会教育計画の意義と役割、社会教育主事に求められる資質、地域の課題解決やまちづくり支援、地域学校協働などの活動につなげていくための知識及び技術について、学んだことを説明することができる。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:③④</p>
学修内容	社会教育行政の戦略的経営に関する、社会教育行政と地域活性化、社会教育行政の経営戦略、学習課題に把握と広報戦略、社会教育における地域人材の育成、社会教育を推進する地域ネットワークの形成、社会教育施設の経営戦略、学習成果の評価と活用の実際等の事項について、テキストなどに基づき学修する。
授業内容のレベル、 関連科目	<p>【授業のレベル】社会教育主事資格取得を目指す学生を主な対象として授業内容を構成している。</p> <p>【関連科目】生涯学習論、社会教育演習</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>【事前学習(予習)】テキストを熟読し内容を理解したうえでレポート課題に取り組むこと。</p> <p>【事後学習(復習)】身近な地域の社会教育計画について調べ、学習したことを確認したり生かしたりする。</p> <p>授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト	「地域をコーディネートする社会教育—新社会教育計画—」浅井経子・合田隆史・原義彦、山本恒夫編著(理想社) ISBN:978-4-650-01200-2
参考書、その他教材	「社会教育計画の基礎」鈴木眞理・山本珠美・熊谷慎之輔(学文社)
成績評価方法・基準	科目修得試験70%、レポート30%
授業の形式・計画	<p>I 「社会教育行政の経営戦略」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域再生と社会教育計画 2 社会教育計画の意義と内容 3 社会教育計画の体系 4 社会教育計画と評価 5 社会教育計画立案の技術 6 事業評価の技術 7 社会教育調査の意義と内容 8 学習プログラム編成の技術 9 参加型学習のプログラム 10 青少年の体験活動プログラム 11 サービス・ラーニング導入の学習プログラム 12 指導者養成・研修プログラム 13 学習成果の活用を促す学習プログラム <p>II 「社会教育施設の経営戦略」</p> <ol style="list-style-type: none"> 14 社会教育施設の経営と資金調達 15 ボランティアを生かす社会教育施設経営 16 運営状況についての情報提供と説明責任 17 社会教育施設の経営と民間委託 18 学習支援のための施設のネットワーク 19 社会教育施設の自己点検・評価 <p>III 「社会教育を推進する地域ネットワークの形成」</p> <ol style="list-style-type: none"> 20 少子高齢化の課題に応える社会教育計画 21 情報化の中の社会教育計画 22 地域防災と社会教育計画 23 エビデンスと社会教育計画 24 ネットワーク型行政と社会教育計画 25 NPO等と協働する社会教育の計画 26 大学と連携する社会教育計画 27 家庭教育支援と社会教育 28 子供対象の教育活動と社会教育 29 学校との連携・協働と社会教育 30 連携協力を進めるコーディネート

科目名	社会教育実習	年次・単位	3年次・1単位
担当者名	鈴木 邦明	授業形態	実習(+スクーリング)

授業のねらい 及び到達目標	<p>社会教育の意義や課題、普及啓発の方法等について理解を深めます。 社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図る。 到達目標は、次の3点です。</p> <p>①研修・講座等の理論的枠組みを理解する。 ②研修・講座等を実際に企画・立案できるようになる。 ③研修・講座等を運営する際の留意点等を把握する。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>社会教育主事に求められる資質は多岐にわたっていますが、その中でも特に研修・講座等の企画・立案・運営は、社会教育主事の力量が試される場となります。 本授業を通じて、以下の内容を習得していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設などにおける実習 ・具体の地域課題などを題材とした社会教育事業の立案などに向けた演習 ・社会教育の課題に関する研究など
授業内容のレベル、 関連科目	<p>社会教育や生涯学習について興味関心を持つとともに、普及啓発のあり方についての探究心が求められます。 関連科目は「生涯学習論」「社会教育計画」「教育方法・技術論」</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前にテキストや関連書籍に目を通しておくことが望まれます。 また、限られた時間の中でプログラムを作成する創造力と集中力を日ごろから鍛えておくことが求められます。 授業外学修に必要な時間は別途指示します。</p>
使用テキスト	<p>佐藤晴雄『研修・講座のつくりかた』(東洋館出版社) ISBN:978-4-491-02934-4</p>
参考書、その他教材	特になし
成績評価方法・基準	授業における平常点 60%(授業に臨む態度・姿勢)、提出物 40%
授業の形式・計画	<p><u>「生涯学習論」「生涯学習支援論」「社会教育経営論」「社会教育演習」の単位を、本学にて修得していなければ実習を行うことができません。実習先は、公民館や青少年施設、教育委員会等にて3日間行います。</u></p> <p>①研修・講座の企画・立案 ②研修・講座の運営 ③事前指導-1 ④事前指導-2 ⑤現場実習(1日目) ⑥現場実習(1日目) ⑦現場実習(1日目) ⑧現場実習(2日目) ⑨現場実習(2日目) ⑩現場実習(2日目) ⑪現場実習(3日目) ⑫現場実習(3日目) ⑬現場実習(3日目) ⑭事後指導-1 ⑮事後指導-2</p>

科目名	社会教育演習 (Seminar on Social Education)	年次・単位	4年次・4単位
担当者名	鈴木 邦明	授業形態	スクーリング科目(S)

授業のねらい 及び到達目標	<p>社会教育の意義や課題、普及啓発の方法等について理解を深めます。 グループで事業(講座)を企画し、発表し合うことによって、事業を企画する際に配慮すること等を学びます。 到達目標は、次の3点です。 ①研修・講座等の理論的枠組みを理解する。 ②研修・講座等を実際に企画・立案できるようになる。 ③研修・講座等を運営する際の留意点等を把握する。 ※ 授業の概要について、<u>動画シラバス</u>で解説しています(https://ccampus.org/auth/Login)。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②④</p>
学修内容	<p>社会教育主事に求められる資質は多岐にわたっていますが、その中でも特に研修・講座等の企画・立案・運営は、社会教育主事の力量が試される場となります。 本授業を通じて、講師も受講者も学ぶ喜びを共有できる講座づくりのノウハウを習得していきます。</p>
授業内容のレベル、 関連科目	<p>社会教育や生涯学習について興味関心を持つとともに、普及啓発のあり方についての探究心が求められます。 関連科目は「生涯学習論」「社会教育計画」「教育方法・技術論」</p>
授業外学修 (予習・復習)	<p>事前にテキストや関連書籍に目を通しておくことが望まれます。 また、限られた時間の中でプログラムを作成する創造力と集中力を日ごろから鍛えておくことが求められます。 授業外学修に必要な時間:120時間</p>
使用テキスト (教科書)	特になし
参考書、その他教材	佐藤晴雄『研修・講座のつくりかた』(東洋館出版社)ISBN:978-4-491-02934-4
成績評価方法・基準	授業における平常点 60%(授業に臨む態度・姿勢)、提出物 40%
授業の形式・計画	<p>〔第1日目〕 ①ガイダンス(自己紹介を含む) ②学習プログラムとしての講座 ③学習プログラムのいろいろ</p> <p>〔第2日目〕 ④MOOC(ムーク)での学び ⑤研修・講座の企画・立案 ⑥講師の選定と依頼</p> <p>〔第3日目〕 ⑦広報の工夫 ⑧研修・講座の運営/評価 ⑨プログラムづくりの実際「研修企画①」</p> <p>〔第4日目〕 ⑩研修企画①の発表、振り返り ⑪プログラムづくりの実際「研修企画②」 ⑫研修企画②の発表、振り返り ⑬プログラムづくりの実際「研修企画③」 ⑭研修企画③の発表、振り返り ⑮まとめ</p>

科目名	青少年活動論 (Youth Service)	年次・単位	3年次・2単位
担当者名	寺岡 聡志	授業形態	通信科目(T)

授業のねらい 及び到達目標	<p>現在の日本社会の有り様と情報社会がもたらす正負の影響を色濃く反映する青少年の実体を把握・分析・考察する。また、日本の将来と人類の未来を担う青少年に対し、一人一人の大人と地域社会及び政治・教育・行政の諸機関が、どのように在り、また、青少年が意欲的に生活したり諸活動に臨んだりできるための社会をどのように創造するかを構想することが授業のねらいであり、到達目標でもある。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)との関連性:①②</p>
学修内容	<p>(1)子供の育ち方と実体に見られる変化と特徴 (2)社会を形成・維持する上で求められる人間としての資質・能力 (3)青少年の社会性及び社会への貢献性を高めるための学校教育 (4)人間が社会を形成・維持するための資質・能力を育てる手立て (5)青少年の生きる意欲と夢の実現を支える社会の創造</p>
授業内容のレベル、 関連科目	【関連科目】 ライフ・デザイン、司書教諭科目
授業外学修 (予習・復習)	<p>主としてサブテキストを参考にしてテキストを精読・考察することを自己学習(予習・復習)の要点とするが、以下の事項も学習の深化を図る上で推奨する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日々TV・ラジオ等により青少年に関する情報収集に努める。 ○近・現代の日本人著名作家の著作に親しみ、文章表現力の向上に努める。 <p>授業外学修に必要な時間:60 時間</p>
使用テキスト (教科書)	「社会力を育てる」 門脇 厚司 岩波新書(ISBN-13:9784004312468)
参考書、その他教材	サブテキスト
成績評価方法・基準	科目修得試験 70%、レポート 30%
授業の形式・計画	<p>【授業の形式】 授業は、以下の通りを行う。 ○テキストを中心にした受講者の自己学習 ○レポート(2課題)の提出と添削 ○科目修得:まとめの小論文</p> <p>【レポート課題】 〔第1回〕テキスト第1～5章に関する課題 〔第2回〕テキスト終章に関する課題 (各1500字～2000字)</p> <p>【科目修得:まとめの小論文】 9月・2月</p>

2023年度 実務経験のある教員による授業科目一覧
 《省令で定める基準単位数等相当分》

人文社会学部経営学科【通信教育課程】

授業科目	単位数	配当年次	実務経験
簿記演習	4	1	経営関係企業
経営管理論	2	3	経営関係企業
デザイン	2	3	グラフィックデザイン
マルチメディア演習	2	3	デジタルデザイン
システム監査	2	4	IT関連企業
カウンセリング	2	3	臨床心理士
教育相談	2	2	臨床心理士
教科教育法(社会)	4	2	教員経験
教育実習 I (事前指導含む)	1	3	教員経験
教職実践演習(中・高)	2	4	教員経験

合計単位数	23
-------	----